

森ノ宮医療大学 規約

森ノ宮医療学園・
森ノ宮医療大学の沿革

I

建学の精神、シンボルマーク、
三つのポリシー

II

大学生生活の必要事項

III

図書館(メディカル・アイ)の利用

IV

授業関連

V

履修案内

VI

成績評価と単位認定

VII

MORIPA(モリパ)

VIII

学納金

IX

キャンパス ライフ

X

ヘルスプロモーション
([からだ]と[こころ]の健康づくり)

XI

自宅外通学の皆さんへ

XII

課外活動

XIII

奨学金

XIV

進路支援

XV

校友会(同窓会組織)

XVI

施設一覧

XVII

I 森ノ宮医療学園・森ノ宮医療大学の沿革

昭和48年（1973年）	4月	大阪鍼灸専門学校開校
昭和52年（1977年）	4月	学校法人森ノ宮学園となり、あわせて専修学校医療専門課程認可
平成18年（2006年）	11月	森ノ宮医療大学設置認可
平成19年（2007年）	2月	森ノ宮医療大学 EastPort（東棟）校舎落成
平成19年（2007年）	4月	森ノ宮医療大学開学 保健医療学部理学療法学科、鍼灸学科開設
平成20年（2008年）	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年（2010年）	4月	大阪府立急性期・総合医療センター（現：大阪急性期・総合医療センター）と相互連携協定を締結
平成22年（2010年）	6月	森ノ宮医療大学食堂棟『メディアカフェ』落成
平成23年（2011年）	3月	森ノ宮医療大学 WestPort（西棟）校舎落成
平成23年（2011年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科開設
平成23年（2011年）	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）開設
平成23年（2011年）	7月	医療法人協和会千里中央病院と相互連携協定を締結
平成23年（2011年）	12月	医療法人錦秀会と相互連携協定を締結
平成24年（2012年）	3月	森ノ宮医療大学売店（green shop）開設（株式会社三省堂書店）
平成24年（2012年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース・スポーツ特修コース・教職課程開設
平成25年（2013年）	5月	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院と相互連携協定を締結
平成26年（2014年）	1月	大阪市住之江区と包括連携協定を締結
平成26年（2014年）	1月	医療法人協和会と相互連携協定を締結
平成26年（2014年）	2月	中国・浙江省人民医院と学術交流に関する協定を締結
平成26年（2014年）	6月	高槻市教育委員会と連携協定を締結
平成26年（2014年）	11月	特定医療法人（現：社会医療法人）有隣会東大阪病院と保健医療学部が相互連携協定を締結
平成26年（2014年）	11月	吹田市教育委員会と連携協定を締結
平成27年（2015年）	2月	相愛大学と包括連携協定を締結
平成27年（2015年）	3月	社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結
平成27年（2015年）	7月	守口市教育委員会と連携協定を締結
平成28年（2016年）	1月	社会福祉法人帝塚山福祉会と相互連携協定を締結
平成28年（2016年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科開設
平成28年（2016年）	4月	森ノ宮医療大学助産学専攻科開設
平成28年（2016年）	4月	森ノ宮医療大学 CanalPort（南棟）校舎落成、図書館移設
平成28年（2016年）	6月	大阪府立成人病センター（現：大阪国際がんセンター）と相互連携協定を締結
平成28年（2016年）	12月	森ノ宮医療大学西側校地取得
平成29年（2017年）	2月	社会医療法人純幸会関西メディカル病院と相互連携協定を締結
平成29年（2017年）	3月	カナダ マキユワン大学と相互連携協定を締結
平成29年（2017年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科養護教諭養成課程開設
平成29年（2017年）	10月	株式会社かなえるリンク（現：株式会社リニエL）と相互連携協定を締結

平成29年（2017年）	12月	森ノ宮医療大学スポーツ施設『グリーンスクエア』完成
平成30年（2018年）	1月	放送大学と単位互換協定を締結
平成30年（2018年）	1月	公益財団法人日本生命済生会付属日生病院（現：公益財団法人日本生命済生会日本生命病院）と相互連携協定を締結
平成30年（2018年）	3月	オーストラリア カーティン大学と連携協定を締結
平成30年（2018年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科開設
平成30年（2018年）	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）開設
平成30年（2018年）	4月	ミズノ株式会社と相互連携協定を締結
平成30年（2018年）	7月	韓国三育大学と連携協定を締結
平成30年（2018年）	11月	近畿大学医学部附属病院（現：近畿大学病院）と相互連携協定を締結
平成30年（2018年）	12月	公益財団法人大阪国際がん治療財団大阪重粒子線センターと相互連携協定を締結
令和2年（2020年）	1月	森ノ宮医療大学 SakuraPort（桜棟）校舎落成
令和2年（2020年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部診療放射線学科開設
令和2年（2020年）	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程）開設
令和2年（2020年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科 細胞検査士課程開設
令和2年（2020年）	9月	社会医療法人愛仁会と相互連携協定を締結
令和2年（2020年）	10月	独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪みなと中央病院と相互連携協定を締結
令和2年（2020年）	11月	イカリソース株式会社と連携協定を締結（学校法人森ノ宮医療学園との連携協定）
令和2年（2020年）	12月	独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院と相互連携協定を締結
令和3年（2021年）	3月	チュニジア チュニス・エルマナール大学と連携協定を締結
令和3年（2021年）	6月	西日本旅客鉄道株式会社と連携協定を締結（学校法人森ノ宮医療学園との連携協定）
令和3年（2021年）	8月	NTTドコモレッドハリケーンズ大阪と連携協定を締結
令和4年（2022年）	3月	森ノ宮医療大学 PasserellePort（部室棟）落成
令和4年（2022年）	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術部に再編（2022年度入学生より）
令和4年（2022年）	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）開設
令和4年（2022年）	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士前期課程※）NPコース開設 ※修士課程から改称
令和4年（2022年）	4月	西尾レントオール株式会社と相互連携協定を締結（学校法人森ノ宮医療学園との連携協定）
令和4年（2022年）	5月	医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院と相互連携協定を締結
令和4年（2022年）	9月	大阪市と包括連携協定を締結（学校法人森ノ宮医療学園との連携協定）
令和4年（2022年）	11月	森ノ宮医療大学附属クリニック「大阪ベイクリニック」開院
令和5年（2023年）	8月	独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターと相互連携協定を締結
令和5年（2023年）	10月	独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院と相互連携協定を締結
令和6年（2024年）	3月	森ノ宮医療大学 AoiPort（葵棟）校舎落成
令和6年（2024年）	4月	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科 開設

1 学園の精神

生命（いのち）への愛と畏敬

2 基本理念

人によりそい幸福（しあわせ）を希う学園

3 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

4 シンボルマーク

本学のロゴマークのモチーフは、「いのち（生命原理）」や「はじまり」、「対立物が統一された完全状態」を意味する‘たまご’。中心のMは、「Morinomiya（森ノ宮）」「Medical care（医療）」「Medicine（医学）」「Mind（精神）」を象徴。青色の波を象っている部分は本学のキャンパスが位置するベイエリア「海」を表現しています。



Ⅲ 三つのポリシー

本学では「卒業/修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を以下の通り定めています。

1) 各学部における三つのポリシー

(1) 保健医療学部

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>保健医療学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにあります。保健医療学部ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与しています。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心をもち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>保健医療学部では卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ① 1、2年次には教養科目、学部共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、各専門職医療人の礎となる知識・技術、人間力の習得を目指します。 ② 3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床（臨地）実習において、臨床（臨地）現場で活用できる知識・技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ① 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ② 臨床（臨地）実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。 ③ 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。 ④ 予習・復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ① 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じた学修成果の評価を行います。 ② ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生とも共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ① 医療職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ② 高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③ 他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④ 自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ① 高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ② 臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線学科については、専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学（数学Ⅰ・A）」を修得している。 ③ 生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ④ 自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ⑤ 実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項（明記） ① 知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ② 思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③ 主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(2) 看護学部

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、医療人としての態度を身につけた人材を育成し、社会に輩出することにあります。看護学部ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与しています。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> ①看護の対象を理解することができる。 ②社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。 ③知識に裏づけられた確実で根拠ある技術を身につけることができる。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> ①他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。 ②看護や他職種専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> ①“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。 ②豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。 ③医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> ①主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。 ②自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。 ③人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>看護学部ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、看護師、保健師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身につけます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②看護実践の基盤となる各看護学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目や保健師課程固有の実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各看護学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①看護職の仕事および本学の教育方針を理解し、看護に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTCE、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方針で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入試試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(3) 総合リハビリテーション学部

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>総合リハビリテーション学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにあります。総合リハビリテーション学部ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与しています。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心をもち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>総合リハビリテーション学部では卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、リハビリテーション職の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②リハビリテーション実践の基盤となる各領域のリハビリテーション学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各リハビリテーション学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学し得ることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①リハビリテーション専門職の仕事および本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方針で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(4) 医療技術学部

<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>医療技術学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材を育成し、社会に輩出することにあります。医療技術学部ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与しています。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心をもち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>医療技術学部では卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <p>①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、各専門職医療人の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。</p> <p>②3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床（臨地）実習において、臨床（臨地）現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。</p> <p>【教育方法】</p> <p>①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。</p> <p>②臨床（臨地）実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。</p> <p>③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。</p> <p>④予習・復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。</p> <p>②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】</p> <p>①医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。</p> <p>②高等学校の教育課程において、文系系系を問わず幅広く教科・科目を修得している。</p> <p>③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。</p> <p>④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】</p> <p>①高等学校の教育課程において、文系系系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。</p> <p>②臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線学科については、専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学（数学Ⅰ・A）」を修得している。</p> <p>③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。</p> <p>④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。</p> <p>⑤実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】</p> <p>高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記</p> <p>①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。</p> <p>③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】</p> <p>本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

2) 各学科・研究科・専攻科における三つのポリシー

(1) 看護学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>看護学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（看護学）の学位が与えられます。これは看護師国家試験受験資格となります。チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> ①看護の対象を理解することができる。 ②社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。 ③知識に裏づけられた確実に根拠ある技術を身につけることができる。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> ①他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。 ②看護や他職種専門性の理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> ①“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。 ②豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。 ③医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> ①主体的に看護を探索し、自己の看護観をもつことができる。 ②自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。 ③人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>看護学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、看護師、保健師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身につけます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②看護実践の基盤となる各看護学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目や保健師課程固有の実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各看護学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①看護職の仕事および本学の教育方針を理解し、看護に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(2) 理学療法学科

<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士(理学療法学)の学位が与えられます。これは理学療法士国家試験受験資格となります。チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができます。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> 理学療法が実践される現場に適切、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができます。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>理学療法学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、理学療法士の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②理学療法実践の基盤となる各領域の理学療法学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置します。 ③他職種連携教育(PE)を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各領域の理学療法学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①リハビリテーション専門職の仕事および本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的・多様な・協働性」については以下の方針で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重(配点※)を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重(配点)は入試試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様な・協働性については、面接、志望動機書、調査書(課外活動)、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(3) 作業療法学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>作業療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（作業療法学）の学位が与えられます。これは作業療法士国家試験受験資格となります。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができます。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかねることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> 作業療法が実践される現場に適切に、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができます。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>作業療法学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる人材に成長できるように知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、臨地見学実習と臨床検査実習を実施することにより、作業療法士の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②作業療法実践の基礎となる各領域の作業療法学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各領域の作業療法治療学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①リハビリテーション専門職の仕事および本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記</p> <p>①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(4) 言語聴覚学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>言語聴覚学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（言語聴覚学）の学位が与えられます。これは言語聴覚士国家試験受験資格となります。チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ人に優しい言語聴覚療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 地域社会や医療現場等でのチームにおける言語聴覚療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた言語聴覚療法を提供することができます。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかねることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> 言語聴覚療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に問題を解決することができます。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>言語聴覚学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい言語聴覚療法を創造的に実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、言語聴覚士の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②言語聴覚療法実践の基盤となる各領域の言語聴覚療法学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各領域の言語聴覚療法学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者受入の方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定めるリハビリテーション専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リハビリテーション専門職の仕事および本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。 <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話したり書いたりするための思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定等の資格取得に積極的に取り組んでいる。 <p>【入学者選抜の方針】</p> <p>高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方針で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変え評価します。※各入試における①③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知識、技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）資格取得で評価する。 <p>【禁煙への取り組み】</p> <p>本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(5) 臨床検査学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>臨床検査学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床検査学）の学位が与えられます。これは臨床検査技師国家試験受験資格となります。生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができるよう下記の能力を身につけた学生に、学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 臨床検査技師の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、臨床検査の専門的知識・専門技術を活用することで、患者中心の専門職連携を実践することができます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために、臨床検査の専門知識のみならず他職種に関する幅広い知識を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力に変えることができる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>臨床検査学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、臨床検査技師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。また、学修の総仕上げとして、卒業論文に取り組みます。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②臨地実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。 ③専門職連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学し、たくましく成長することを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学（数学Ⅰ・A）」を修得している。 ③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ⑤実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 <p>【入学者選抜の方針】</p> <p>高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。 <p>【禁煙への取り組み】</p> <p>本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(6) 臨床工学科

<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>臨床工学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（臨床工学）の学位が与えられます。これは臨床工学技士国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 地域社会や医療現場等でのチームにおける臨床工学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で臨床工学技士としての知識力と技術力を発揮することができます。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができます。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> 臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、健康に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、主体的に創造的に問題を解決することができます。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>臨床工学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに専門知識の基礎を修得し、臨床工学技士の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床実習において、臨床現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。</p> <p>【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②臨床実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。 ③他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学し、たくましく成長することを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】 ①医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。</p> <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学（数学Ⅰ・A）」を修得している。 ③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ⑤実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(7) 診療放射線学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>診療放射線学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士(診療放射線学)の学位が与えられます。これは診療放射線技師国家試験受験資格となります。チーム医療における使命を理解し、診療放射線技師としての職責を自覚し、実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 保健・医療・福祉の現場等でのチームにおける診療放射線学の役割を理解し、自己の知識・技術を点検・評価し、実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用し、それぞれの立場を理解した上で診療放射線技師としての知識力と技術力を発揮することができる。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することができる。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかねることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> 診療放射線技師に相応しい高い専門性と研究能力を備え、放射線に関する諸問題をあらゆる角度から科学的視点で捉え、主体的に創造的に問題を解決することができる。</p>
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>診療放射線学科ではディプロマ・ポリシーに掲げるチーム医療における使命を理解し、診療放射線技師としての職責を自覚し、実践できる人材に成長できるよう知識や技術等の修得をめざして教育課程を編成しています。学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに専門知識の基礎を修得し、診療放射線技師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指す。 ②3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床実習において、臨床現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身につけるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組む。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置する。 ②臨床実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置する。 ③他職種連携教育(IPE)を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置する。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行う。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的に求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学(数学Ⅰ・A)」を修得している。 ③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ⑤実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 <p>【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重(配点※)を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重(配点)は入学試験要項に明記</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書(課外活動)、資格取得で評価する。 <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(8) 鍼灸学科

<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>鍼灸学科では鍼灸コースとスポーツ特修コースのいずれかに所属することとなります。鍼灸コース・スポーツ特修コースともに4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得した者に卒業が認定され、学士(鍼灸学)の学位が与えられます。これは、はり師、きゅう師国家試験受験資格となります。専門職医療人として、高い人間性と知識・技術を駆使できるように、下記の能力を身に付けたい人材に学位を授与します。</p> <p>スポーツ特修コースは2年次より選択することとなります。スポーツ特修コースに在籍し、コース卒業要件単位数を取得した者に対しては、スポーツ特修コース取得証が与えられます。加えて、許可を受けたものは3年次より教職課程を履修し、所定の単位(中学校・高校教諭35単位、高校教諭29単位)を取得した者には、中学校・高等学校教諭一種免許状[保健体育]が与えられます。</p> <p>【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 地域医療やスポーツ、健康領域において、他分野の専門職とチームを構成し、はり師、きゅう師の専門知識と専門技術を活用することが出来ます。</p> <p>またスポーツ特修コースでは、スポーツや科学的トレーニングに関する高い専門知識や指導技術を身に付け、スポーツ指導の現場や教職課程を履修した者は学校教育現場において、医療知識と技術を生かした指導ができるようになります。</p> <p>【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> 地域医療やスポーツ、健康、教育領域の他職種に関する幅広い知識と理解を得ることにより、他職種との協調や連携、コミュニケーションといった能力を駆使してチームとしての医療活動が可能となります。</p> <p>【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。</p> <p>【主体的問題解決能力】<DP4> はり師、きゅう師として、医療を必要とする者や家族の悩みや希望を受け止め、思いに答えるための知識や技術の向上に主体的かつ探求的に取り組み、問題を解決できるようにします。</p> <p>スポーツ特修コースでは、医療資格に加えスポーツ指導や教育に関する資格を持つ者として、関係者の様々な思いや地域社会のニーズを理解し、主体的に解決できるようにします。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>鍼灸学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる地域医療やスポーツ、健康領域において他職種と連携可能な人材に成長できるように知識や技術等の修得を目指して教育課程を編成しています。</p> <p>スポーツ特修コースでは、スポーツ・健康領域に関する知識や技術の向上に加え、教育領域において活躍できる人材を目指して教育課程を編成しています。</p> <p>学位取得に向けた教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、はり師、きゅう師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床現場で活用できる知識、技術、さらには他職種との連携における自らの役割について学修し、臨床実習を通じて専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組めます。 ③スポーツ特修コースは1年次にコース希望選択を行い所定の専門基礎科目を修得後、2年次にコースを決定し専門知識を修得します。また3年次からは許可を受けたものは教職課程の履修を通して、実践的な実習を中心とした演習や講義に取り組めます。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①東洋医学、西洋医学両者の知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②東洋医学と西洋医学を融合した統合医療を実践するための演習、実習科目を配置し、臨床実習を通じて実践的に学習する科目を配置します。 ③他職種連携教育(IPE)を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、スポーツ、健康領域における他職種連携を実践するための演習科目を配置します。 ④予習・復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法を行います。 ⑤スポーツ特修コースでは、健康運動実践指導者、保健体育科教員としての指導力および教育実践力を修得するための講義、演習、実技科目を配置し、教育実習や体育会クラブ活動を通じて、実践的な学修を促す教育を行います。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
<p>入学受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学することを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>【具体的な求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜みず、最後までやり遂げることができる。 <p>【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考・コミュニケーション力を身に付けている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身に付けている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身に付けている。 ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 <p>【入学者選抜の方針】</p> <p>高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重(配点※)を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重(配点)は入学試験要項に明記</p> <ol style="list-style-type: none"> ①知識、技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書(課外活動)、資格取得で評価する。 <p>【禁煙への取り組み】</p> <p>本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）

<p>修士認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>保健医療学専攻修士課程では、Evidence-Based Medicine (EBM) とチーム医療の概念を基本として、科学的かつ包括的な観点から課題を分析し処理できる高度な医療専門職業人を養成するとともに、多角的医療システムを理解し受容しながら保健医療の新しい価値観と発想を創り上げることを目的としています。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記のような能力・資質の獲得を以て修士を認定し学位を授与しています。</p> <p>【科学的な思考態度】<DP1> EBMを理解し、保健医療の課題について科学的な思考にもとづいて仮説検証や臨床評価を行うことができる。</p> <p>【保健医療情報リテラシー】<DP2> 広範な保健医療情報の中から、批判的吟味を通して信頼性や有用性の高い情報を選び出すことができる。</p> <p>【高度な専門技術】<DP3> 保健医療に関する特定の分野において、最新の知識にもとづいた高度な臨床技術または教育研究技術を有している。</p> <p>【包括的な臨床判断】<DP4> 多様な医療職や医療体系の特徴を理解し、エビデンスとナラティブの両面を考慮しながら包括的な視野のもとで臨床判断ができる。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 1 年次前期に必修共通科目（保健医療研究方法論、補完統合ヘルスケア特論）でEvidence-Based Medicine (EBM)、研究手法、研究倫理及び多角的医療システムに関する基本的な概念と知識を、また 1 年次前期または後期の選択共通科目で保健医療教育、看護の理論と研究法、東洋医学史、生活の質(QOL)の評価法、英語文献などのいずれかの専門知識を習得させ、専門科目を履修するにあたっての知識・技術・倫理の基盤を築く。</p> <p>② 専門科目を特論科目、専門演習、特別研究に区分する。</p> <p>③ 特論科目を健康増進領域と健康回復領域に区分し、いずれかを主たる領域として修士論文執筆に必要な専門的知識と技術を身に付ける。</p> <p>④ 1 年次通年の専門演習において、臨床系演習として症例の集積と分析を行うか、基礎系演習として実験手法トレーニングまたは英語文献読解トレーニングを行う。いずれも特別研究を遂行するために必要な具体的手法の習得である。</p> <p>⑤ 2 年間を通して実施する特別研究において、保健医療に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、研究の実施、データ解析、解釈と考察、そして修士論文執筆まで、保健医療研究の一連の過程を体得させる。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 講義か演習かにかかわらず少数で対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。</p> <p>② 専門演習では、基本的に特別研究のテーマと一貫性のある内容とする。</p> <p>③ 特別研究では、保健医療研究の基本的な知識、技術を身に付けるコースワークから徐々に実践的なりサーチワークに移行させる。移行期は 1 年次後期とし、学生個別の能力と成長度に合わせて調整する。また、客観的評価とフィードバックができる公聴会を毎年設ける。1 年次は中間報告会、2 年次は成果発表会とする。</p> <p>④ 研究者としての倫理観を養い、研究公正の重要性を自覚させるために、学内研究倫理セミナーまたは研究倫理eラーニングを毎年受講させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>① 各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。</p> <p>② 共通科目、特論科目及び専門演習においては、授業中の質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。</p> <p>③ 特別研究においては、修士論文の内容だけでなく、当該テーマに関連して在学中に行った学会や研究会での活動内容、及び公聴会における発表と質疑応答の内容も評価材料とする。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>高度な専門的職業人を育成するために、本大学院の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門的知識・技術の修得のために最低限度必要な医療系大学士レベルの基礎学力、専門知識、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>① 【専門的知識】保健医療学分野における学士レベルの基礎学力と専門知識を有している。</p> <p>② 【他の医療職・医療体系への関心】患者個別の事情や価値観によってさまざまな医療の選択肢があることを認識し、自分の医療資格の範囲だけでなく他の医療職や医療体系を理解することに強い関心と意欲を有している。</p> <p>③ 【協働能力とコミュニケーション力】他者と協働できるコミュニケーション力、思考力、及び判断力を有している。</p> <p>④ 【学修努力の覚悟】修士の学位をもつ高度な専門的職業人になるため、知識・技術・人間性を高める努力を惜しまず、最後までやり遂げる覚悟がある。</p> <p>入学試験において、上記①を筆記試験、②を出願時提出書類と面接試験、③④を面接試験によって評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全数地区及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(10) 保健医療学研究科 看護学専攻（博士前期課程修士論文コース）

<p>修士認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>看護学専攻博士前期課程では、学士課程でこれまでの実践で修得した知識や技術をさらに発展させ、学識を深めるとともに、より高度な専門的知識とevidenceに基づく看護実践を志向しつつ、教育・研究的視点をもつて多職種と連携し、看護専門職として指導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的としています。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記のような能力・資質の獲得を以て修了を認定し学位を授与しています。</p> <p>【科学的思考に基づく看護実践力】 <DP1> 自己が活動する領域において、常に専門性とevidenceに基づいた看護実践を志向し、看護専門職者として実践に活用することができます。</p> <p>【連携力とリーダーシップ】 <DP2> 自己が活動する領域から関連する他領域、他職種、国外へと繋がる連携力をもち、活動チーム内において専門職としてのリーダーシップを発揮する。</p> <p>【教育力】 <DP3> 保健医療関連機関や看護基礎教育機関等において、当該機関の理念や目的を認識し、クライアントに対する教育的関わりだけでなく、同僚や学生に対する教育的機能を発揮することができる。</p> <p>【基礎的研究力】 <DP4> 自己が活動する領域において研究のニーズを見出し、倫理観をもって適切な手法を用いて研究することができる基礎的能力を身に付ける。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 1年次前期には必修共通科目（看護倫理特論、チーム医療特論、保健医療研究方法論）で、看護実践における倫理、Evidence-Based Medicine (EBM)、研究に関する基本的概念と研究手法、多職種連携医療チームにおける各専門職の役割と課題解決に向けての看護専門職としての指導的役割等について学修する。また1年次前期または後期の選択共通科目で、生活の質(QOL)の評価法、補完統合ヘルスケア、英語文献、東洋医学史などのいずれかの専門知識を習得させ、専門科目を履修するにあたっての知識・技術・倫理の基盤を築く。</p> <p>② 専門科目の特論科目を基盤看護学領域と実践看護学領域に区分し、いずれかを主たる領域として修士論文執筆に必要な専門的知識と技術を身に付ける。</p> <p>③ 特別研究と演習科目では、1年次後期の専門演習において、専攻する主たる看護学の領域において、対象者の看護実践に焦点をあてた実践力や研究力、教育力を修得する目的の演習を行う。研究手法の一連の過程を、演習を通して体験し、特別研究Ⅰ・特別研究Ⅱにつなげる。</p> <p>④ 2年間を通して実施する特別研究Ⅰ・特別研究Ⅱにおいて、看護実践に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、研究の実施、データ解析、解釈と考察、そして修士論文執筆まで、看護研究の一連の過程を体得させる</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 講義か演習かにかかわらず少人数で対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。</p> <p>② 専門演習では、基本的に特別研究Ⅰ・特別研究Ⅱのテーマと一貫性のある内容とする。</p> <p>③ 特別研究Ⅰ・特別研究Ⅱでは、看護研究の基本的な知識・技術を身に付けるコースワークから徐々に実践的なリサーチワークに移行させる。移行期は1年次後期とし、学生個別の能力と成長度に合わせて調整する。また、客観的評価とフィードバックができる小聴会を毎年設ける。1年次は中間報告会、2年次は成果発表会とする。</p> <p>④ 研究者としての倫理観を養い、研究公正の重要性を自覚させるために、学内研究倫理セミナーまたは研究倫理eラーニングを毎年受講させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>① 各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。</p> <p>② 共通科目、特論科目及び専門演習においては、授業中の質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。</p> <p>③ 特別研究Ⅰ・特別研究Ⅱにおいては、修士論文の内容だけでなく、当該テーマに関連して在学中に行った学会や研究会での活動内容、及び小聴会における発表や質疑応答の内容も評価材料とする。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>高度な専門的職業人を育成するために、本大学院の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門的知識・技術の修得のために最低限度必要な看護系大学学士レベルの基礎学力、専門知識、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>① 【専門的知識】 看護学分野における学士レベルの基礎学力と専門知識を有している。</p> <p>② 【他の医療職・医療体系への関心】 対象者個別の事情や価値観によってさまざまな医療の選択肢があることを認識し、看護学の範囲だけでなく他の医療職や医療体系を理解することに強い関心と意欲を有している。</p> <p>③ 【協働能力とコミュニケーション力】 他者と協働できるコミュニケーション力、思考力、及び判断力を有している。</p> <p>④ 【学修努力の覚悟】 修士の学位をもつ高度な専門的職業人になるため、知識・技術・人間性を高める努力を惜しまず、最後までやり遂げる覚悟がある。</p> <p>入学試験において、上記①を筆記試験、②を出願時提出書類と面接試験、③④を面接試験によって評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(11) 保健医療学専攻 看護学専攻（博士前期課程NPコース）

<p>修士認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>看護学専攻博士前期課程NPコースでは、クリティカルケア領域・プライマリケア領域における高度な看護実践及び課題解決と看護の質の向上を目的としています。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、以下のような能力・資質の獲得を以て修士を認定し、特定行為研修修了証、日本NP大学院協議会NP資格認定試験受験資格、及び学位を授与しています。</p> <p><DP1>包括的健康アセスメントに関する能力 <DP2>包括的な症状マネジメントに関する能力 <DP3>高度な看護実践能力 <DP4>チーム医療の実践能力 <DP5>倫理的意思決定能力 <DP6>看護教育・看護管理に関する能力 <DP7>医療に関する研究・開発能力</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <p>①必修共通科目（看護倫理特論、保健医療福祉法特論、チーム医療特論）で、看護実践における倫理、保健医療・福祉に関する法律、多職種連携医療チームにおける各専門職の役割と課題解決に向けての看護専門職としての指導的役割等について学修する。</p> <p>②専門科目は基盤看護学領域、実践看護学領域、治療マネジメント、実習、課題研究に区分されている。基盤看護学領域では看護研究と看護教育・看護管理・看護技術・ヒューマンケア理論などいずれかの専門知識を修得し、医療に関する研究力、看護教育・看護管理能力を修得する。実践看護学領域、治療マネジメント力では、臨床病態学、臨床推論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学などで臨床判断力や治療マネジメント力を養うとともに、診療看護師総論などで診療看護師に求められる知識と技術を修得する。クリティカルケア領域、プライマリケア領域のいずれかもしくは両方を選択し、特定行為研修1区分36行為の研修内容を学び、医療行為を安全に実施する知識と技術を修得する。</p> <p>③1年次後期または2年次前期の実習科目では、診療看護師としての高度な看護実践力を養う。</p> <p>④2年間を通して実施する課題研究において、高度看護実践に関する研究テーマを決定し、研究の一連の過程を体得し課題解決に必要な研究能力を修得する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>①講義か演習かにかかわらず少人数で対話形式の指導を行い、必要に応じてeラーニングを受講させることで、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。</p> <p>②クリティカルケア領域及びプライマリケア領域での医療行為を安全に実践するため、客観的臨床能力試験（OSCE）を含む試験を実施する。</p> <p>③課題研究では、研究の基本的な知識・技術を身に付けることを目標とし、客観的評価とフィードバックができる公開会を毎年設ける。1年次は中間報告会、2年次は成果発表会とする。</p> <p>④研究者としての倫理観を養うために、学内研究倫理セミナーまたは研究倫理eラーニングを毎年受講させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>①各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。</p> <p>②共通科目、専門科目の基盤看護学領域、実践看護学領域、治療マネジメント、実習においては、質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。</p> <p>③課題研究においては、論文の内容だけでなく、当該テーマに関連して在学中に行った学会や研究会での活動内容、及び公開会における発表と質疑応答の内容も評価材料とする。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>高度な専門的職業人を育成するために、本大学院の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門的知識・技術の修得のために最低限度必要な看護系大学学士レベルの基礎学力、専門知識、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求めています。具体的には以下のような人物像を求めます。</p> <p>①【専門的知識】看護学分野における学士レベルの基礎学力と専門知識を有している。</p> <p>②【他の医療職・医療体系への関心】対象者個別の事情や価値観によってさまざまな医療の選択肢があることを認識し、看護学の範囲だけでなく他の医療職や医療体系を理解することに強い関心と意欲を有している。</p> <p>③【協働能力とコミュニケーション力】他者と協働できるコミュニケーション力、思考力、及び判断力を有している。</p> <p>④【学修努力の覚悟】修士の学位をもつ高度な専門的職業人になるため、知識・技術・人間性を高める努力を惜みず、最後までやり遂げる覚悟がある。</p> <p>入学試験において、上記①を筆記試験、②を出願時提出書類と面接試験、③④を面接試験によって評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(12) 保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）

<p>修士認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>医療科学専攻博士後期課程では、医療における学術及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、臨床に役立つ技術やシステムの研究開発を行うことによって、人々の健康の回復及び保持・増進に寄与することを目的としています。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記のような能力・資質の獲得を以て修了を認定し学位を授与しています。</p> <p>【臨床貢献】 <DP1> 臨床に役立つ医療科学の研究成果を挙げることによって、医療の質の向上に寄与することができる。</p> <p>【指導能力】 <DP2> 病院または医療系施設・企業において中核的または指導的役割を担うことができる。</p> <p>【研究能力】 <DP3> 医療における科学性を追究する学識と手法を修得し、高度の専門的業務を遂行するにあたって自立して研究を行うことができる。</p> <p>【研究倫理】 <DP4> 高い研究倫理観にもとづいた公正な研究を遂行できるとともに、医療科学におけるリサーチ・インテグリティの維持向上に貢献できる。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1年次前期に共通科目（生物統計学後期特論、医療科学研究方法論、研究倫理特論）で、Evidence-Based Medicine（EBM）及び医療科学に関する基本的概念、基礎知識、研究の具体的手法、及び研究倫理と生命倫理の遵守事項について習得させ、専門科目を履修するにあたっての知識・技術・倫理の基盤を築く。 ② 専門科目を特論科目、専門演習、特別研究に区分する。 ③ 1年次後期の特論科目において、基礎研究を行う健康機能科学系または臨床に直結した研究を行う医療技術開発系のいずれかで、専門分野を深く追究して当該分野における質の高い特別研究で博士論文執筆を遂行する研究能力を身に付ける。 ④ 1年次後期の専門演習（後期専門演習）において、臨床現場における問題抽出、解決策の模索、臨床従事者のセンスを身に付け、特別研究における臨床貢献の姿勢を涵養する。 ⑤ 3年間を通して実施する特別研究（後期特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）において、医療科学に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、研究の実施、データ解析、解釈と考察、論文作成、学術雑誌への投稿、査読への対応、成果発表、そして博士論文提出まで、自立して研究活動を行うために必要なすべての過程を体得させる。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講義か演習かにかかわらず少人数で対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。 ② 専門演習では、前半は論文や資料の通読と討論を行い、後半は各学生の研究領域及び医療資格に最も近い臨床施設に向向いて参与観察を行わせ、臨床現場における具体的な課題を抽出して解決、改良の方策を模索させて研究内容に反映させる。 ③ 特別研究では、専門分野の基本的な知識・技術を身に付けるコースワークから徐々に実践的なリサーチワークに移行させる。移行期は1年次後期とし、学生個別の能力と成長度に合わせて調整する。また、客観的評価とフィードバックができる公聴会を毎年設ける。1年次はプロトコール発表会、2年次は中間報告会、3年次は最終成果発表会とする。 ④ 研究者としての倫理観を養い、研究公正の重要性を自覚させるために、研究倫理特論の必修に加え、学内研究倫理セミナーまたは研究倫理eラーニングを毎年受講させる。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。 ② 共通科目、特論科目及び専門演習においては、授業中の質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。 ③ 特別研究においては、博士論文の内容だけでなく、在学中に論文投稿した学術雑誌の査読内容とその対応、学会発表とその質疑応答、及び公聴会における発表と質疑応答の内容も評価科目とする。
<p>入学受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>医療科学の分野について、医療における高度に専門的な臨床業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、医療系の臨床施設あるいは教育研究施設において指導的役割を担う人材を育成することを目的としています。そのような人材となり得る資質を有する学生を選抜するため、次のような入学受入れの方針を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 【基礎的な論文読解能力】 自分が専攻しようとしている領域の日本語と英語の先行研究論文の読解・解釈ができる基礎的な知識と技術を有している。 ② 【基本的な文章構成能力】 自分の考えを論理的にまとめて文章表現できる基本的な知識と技術を有している。 ③ 【医療科学研究への熱意】 臨床に役立つ医療科学の研究に専念して、人々の健康に貢献したいという強い熱意と意志をもっている。 ④ 【指導者・管理者としての自覚】 医療分野における指導者あるいは管理者となって人材の育成や臨床・教育・研究の発展に身を捧げる覚悟がある。 <p>入学試験において、上記①を論文読解試験、②を小論文試験、③④を出願時提出書類と面接試験によって評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(13) 保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）

<p>修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>看護学専攻博士後期課程では、看護の理論的基盤の探究をとおして、高い倫理観と科学的、学際的視野をもち、自立して研究活動を行うことができる看護研究者、及び看護学教育の向上のために指導的役割を担う看護教育者を育成するとともに、国内外の他分野・多職種と協働し、高度な専門性が求められる保健医療福祉機関等において、高度な専門業務を担う人材を育成することを目的としています。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記のような能力・資質の獲得を以て修了を認定し学位を授与しています。</p> <p>【研究力】 <DP1> 高い倫理観と科学的、学際的視野をもち、自立して研究活動を行うことができる。</p> <p>【教育力】 <DP2> 看護学教育の向上のために看護の理論的基盤に基づく看護学教育の指導的役割を担うことができる。</p> <p>【高度な専門業務に資する能力】 <DP3> 国内外の他分野・多職種と協働し、高度な専門性が求められる保健医療福祉機関等において、高度な専門業務を担う人材を育成する。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 1年次前期に必修共通科目（看護研究倫理特論、看護研究方法論、看護教育学研究特論）で、看護専門職として必要な研究倫理や国内外における看護学領域の様々な研究方法、看護教育学の理論構築を志向した教育方法等に関する専門知識を修得させ、専門科目を履修するにあたっての知識・技術・倫理の基盤を築く。</p> <p>② 1年次後期の特論科目において、専門分野を深く追究して当該分野における質の高い特別研究と博士論文執筆を遂行する能力を身につける。</p> <p>③ 1年次後期の専門演習科目（後期専門演習）において、特別研究で用いようとしている研究方法について、具体的な技術を模索し体得する。臨床現場における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組む。</p> <p>④ 3年間を通して実施する後期特別研究（後期特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）において、看護学に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、研究の実施、データ解析、解釈と考察、論文作成、学術雑誌への投稿、査読への対応、成果発表、そして博士論文提出まで、自立して研究活動を行うために必要なすべての過程を体得させる。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 講義か演習かにかかわらず少人数で対話形式の指導を行い、学生の自発的学習、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。</p> <p>② 専門演習では、前半は論文や資料の通読と討論を行い、後半は各学生の研究領域に最も近い臨床施設に向いて参与観察を行わせ、臨床現場における具体的な課題を抽出して解決・改良の方策を模索させて研究内容に反映させる。</p> <p>③ 特別研究では、看護研究の基本的な知識・技術を身につけるコースワークから徐々に実践的なりサーチワークに移行させる。移行期は1年次後期とし、学生個別の能力と成長度に合わせて調整する。また、客観的評価とフィードバックができる公聴会を毎年設ける。1年次はプロトコル発表会、2年次は中間報告会、3年次は最終成果発表会とする。</p> <p>④ 研究者としての倫理観を養い、研究公正の重要性を自覚させるために、看護研究倫理特論の必修に加え、学内研究倫理セミナーまたは研究倫理eラーニングを毎年受講させる</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>① 各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。</p> <p>② 共通科目、専門科目及び後期専門演習においては、授業中の質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。</p> <p>③ 後期特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいては、博士論文の内容だけでなく、在学中に論文投稿した学術雑誌の査読内容とその対応、学会発表とその質疑応答、及び公聴会における発表と質疑応答の内容も評価材料とする。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>看護の理論的基盤の探究をとおして、高い倫理観と科学的、学際的視野をもち、自立して研究活動を行うことができる看護研究者、及び看護学教育の向上のために指導的役割を担う看護教育者を育成するとともに、国内外の他分野・多職種と協働し、高度な専門性が求められる保健医療福祉機関等において、高度な専門業務を担う人材を育成することを目的としています。そのような人材となり得る資質を有する学生を選抜するため、次のような入学者を受け入れる方針を設定しています</p> <p>①【基礎的な論文読解能力】看護学分野における日本語と英語の先行研究論文の読解・解釈ができる基礎的な知識と技術を有している。</p> <p>②【基本的な文章構成能力】自分の考えを論理的にまとめて文章表現できる基本的な知識と技術を有している。</p> <p>③【看護学研究への熱意】看護学の向上に役立つ研究に専念して、人々の健康に貢献したいという強い熱意と意志をもっている。</p> <p>④【高度な指導者・管理者・教育者としての自覚】看護学における指導者・管理者あるいは教育者となって、看護学の研究・教育・臨床の発展や人材の育成に身を捧げる覚悟がある。</p> <p>入学試験において、上記①を論文読解試験、②を小論文試験、③④を出願時提出書類と面接試験によって評価する。</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

(14) 助産学専攻科

<p>修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>助産学専攻科は、産科医療の高度化ならびに助産実践の多様性に対応し、女性と母子およびその家族のニーズに応えることができ、科学的根拠に基づく高度な助産診断能力および助産技術をもつ人材の育成、ならびに生命の尊厳と人間愛の精神を培い、助産師としての社会的使命と責務を認識し、安全で質の高い助産ケアを提供できる助産師の育成を目的とします。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を取得した学生は修了が認定され、助産師国家試験受験資格が与えられます。</p> <p>①助産学の専門知識と実践力を身につけ、助産師としての基礎的能力を修得している。＜DP1＞ ②生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観をそなえ、助産師としての責務と役割を果たす能力を有している。＜DP2＞ ③専門職業人として、生涯に亘り自己の資質の向上に努めることができる。＜DP3＞ ④女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対し、支援するための基礎的能力を有している。＜DP4＞</p>
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本学では修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある知識や能力等を修得する為に教育課程を編成し、教育内容、教育方法、学修成果の評価方法を以下のように定めます。</p> <p>【教育内容】 ①基礎助産学では助産診断、助産実践に必要な助産専門分野に対応するための基礎知識や技術を講義や演習を通じて学修し助産師としての基盤を築く。 ②実践助産学では母子や次世代家族がより健康な経過をたどるための支援方法、地域や連携施設における助産業務管理の在り方、地域の母子保健を推進するための保健・医療・福祉機関との連携、心理・社会的ハイリスクの母親と家族の支援に必要な知識を講義や演習、医療・福祉・保育の現場実習を通じて助産診断技術を修得する。 ③助産師としての知識と実践力をさらに充実させ女性のヘルスプロモーションのためのアロマセラピーの有用性、エビデンス、基礎的手法について修得すると共に、助産実践を科学的に分析するための研究理論と研究方法論を修得する。</p> <p>【教育方法】 ①講義、演習にかかわらず少人数で対話形式の指導を行い、学生の自発的学修、課題発見、解決模索の態度を重視し促す。 ②実習では臨地に出る前に学内で研鑽を積み、実習の到達目標を設定した上で臨地実習に望む。実習後には学内でカンファレンスなどの実習報告や指導を受けて実習到達度の確認を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ①各科目のシラバスに定める成績評価法にもとづき評価する。 ②講義科目、演習科目においては、授業中の質疑、意見、討論の内容、及び提出されたレポートの内容を重視する。 ③実習に関しては技術力、診断力、対応力、実習記録などをルーブリックなどの評価指標を基準に評価する。</p>
<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>①本学の建学の精神及び教育理念を十分に理解し、母子と次世代家族の健康を守ることを通じて社会に貢献しようとする志を強く有する方 ②「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実さを有する方 ③一人の人間としての豊かな人間性と倫理観に裏付けられた感性を有する方 ④高度な専門知識を身につけようとする意欲を有し、継続して努力ができる方 ⑤広い視野で現代社会における次世代家族をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決について情熱をもって追究できる方</p> <p>【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。</p>

1 学生への伝達・連絡について

大学から皆さんへの連絡事項（呼出し・休講・補講の伝達・その他の通知等）はすべて学内にある掲示板及びMORIPAや電子掲示板を通して行います。掲示された事項はその掲示当日から周知しているものとして取り扱いますので、掲示の見落としによって不利益をこうむらないよう毎日学内掲示板やMORIPAの掲示情報を見る習慣をつけて下さい（『見ていないから知らない』という理由は考慮しません）。詳細については下表を参照して下さい。

※掲示期間は、原則2週間です。

※MORIPAへのアクセス方法は、「Ⅷ. MORIPA（モリパ）」の頁を参照して下さい。

掲示板の種類	設置場所	管理者 (窓口)	内容
各学科・大学院・専攻科 掲示板	各棟 (※1)	各学科 各教員	・時間割、授業の内容、課題、持参物等に関する連絡 ・学科からのお知らせ 等
呼出し掲示板	E棟1階	各学科 各部署 各教職員	・学生の呼出しに関する掲示
教務課掲示板	E棟1階	教務課	・教務課で必要な手続きに関する連絡 等
学生支援課 掲示板	E棟1階	学生支援課	・奨学金、課外活動、学生会、ボランティア活動等、学生生活に関すること
健康管理センター 掲示板	E棟1階	健康管理 センター	・学生の健康に関わること
キャリアセンター 掲示板	E棟1階	キャリア センター	・各種セミナー情報 ・ボランティア情報（医療機関など）
総務課掲示板	E棟1階	総務課	・大学施設、設備備品、防火防災、大学行事に関すること
電子掲示板 (デジタルサイネージ)	各棟	各学科 各部署 各教職員	・大学からのお知らせ 等

※E棟はイーストポートを表します。

(※1) 各学科・大学院・専攻科掲示板の設置場所は以下の通りです。

看護学科	さくらポート4階	大学院（保健医療学専攻）	イーストポート4階
理学療法学科	あおいポート3階	大学院（看護学専攻）	ウエストポート2階
作業療法学科	チャンネルポート5階	大学院（医療科学専攻）	チャンネルポート4階
言語聴覚学科	あおいポート2階	助産学専攻科	ウエストポート2階
臨床検査学科	チャンネルポート6階	/	
臨床工学科	チャンネルポート3階		
診療放射線学科	さくらポート3階		
鍼灸学科	イーストポート2階		

2 学生証について

学生証は本学学生としての身分を証明する物です。入学と同時に作成される学籍に、学籍番号を付けて学籍簿に登録します。学生証には学籍簿に登録されている事項を記載し、学生個人に発行します。学生証(学籍番号)は、各種届出や手続き等を行う際にも必要となります。学内ではもちろんですが、求められたら提示できるよう、常に携帯しておいて下さい。

1) 学生証の提示を求められるケース

- (1)定期試験・追再試験等、試験を受ける時（受験資格証明となります。）
- (2)授業の出欠確認時
- (3)各種届出、手続き、書類の受取時
- (4)本学図書館（メディカル・アイ）を利用する時
- (5)通学定期券を購入する時
- (6)学割乗車券の購入および利用時
- (7)大学より物品等（備品・鍵等）の貸与を受ける時
- (8)その他

2) 学内電子マネー機能【2023年度入学生まで】

学生証には学内電子マネー機能が付いています。なお、2025年1月末に学内電子マネーの利用を終了します。利用終了に先立ち、2024年3月をもってチャージ（入金）機能を終了しておりますので、ご注意ください。

(1)利用できる場所

- ① Medi Cafe
- ② green shop（売店 [三省堂書店]）
- ③ SAKURA Cafe
- ④ 証明書等発行機

(2)利用履歴・残高確認

MORIPAで、学内電子マネーの利用履歴および残額確認ができます。

3) 学生証の再発行

学生証を紛失・汚損した場合は、再発行手続きが必要となります。

一度総務課窓口にお越しいただき、以下の手続きを行って下さい。なお、盗難にあった場合は、学生支援課並びに警察署に届け出て下さい。

(1)再発行の手続き

以下の書類を総務課に提出して下さい。

- ・ 学生証再発行願または学生証即日再発行願
- ・ 経緯報告書

再発行願は証明書等発行機で購入して下さい。経緯報告書は総務課でお渡します。

(2)手数料

通常再発行の場合は1,500円、学生証が急遽必要な場合の即日再発行には2,500円の手数料が必要です。

(3)発行日

学生証再発行にかかる時間は、通常再発行は3日、即日再発行は60分です。

※発行日は目安です。受付が集中する時期等は、通常よりお時間をいただく場合があります。

※大学休業日（土・日・祝日等）は、上記日数に含みません。

(4)学内電子マネーについて

学内電子マネーを利用している場合は、すぐにMORIPAの「カード利用停止」機能にて、カードの利用を停止して下さい。

学生証を再発行後、再度MORIPAの「利用許諾」機能より学内電子マネー利用規約に同意すると、引き続き学内電子マネーを利用できるようになります。（残高は引き継がれます）

※学内電子マネーの利用は2025年1月末に終了します。

4) 学生証の返却

次のような場合は学生証を総務課へ返却して下さい。

(1)退学・除籍時

(2)卒業・修了時

(3)再発行後に旧学生証が見つかった時 ※旧学生証を返却

5) 学生証の記載事項変更

学生証の記載事項に変更がある場合は、すみやかに変更手続きを行って下さい。

・氏名：総務課窓口までお越し下さい。

・現住所等（氏名以外のその他記載事項）：MORIPAから学籍情報変更手続きを行って下さい。

※詳細はMORIPAに掲示されているマニュアルを確認して下さい。

③ 通学定期乗車券（通学定期券）、学割乗車券、実習用通学定期乗車券の購入について

本学学生には、以下の公共交通機関の学生割引（通学定期または学割証）が適用されます。それぞれ使用上の注意を守って利用して下さい。

1) 通学定期乗車券の購入

本学の学生が通学を目的として、交通機関の定期乗車券を購入する際にのみ、割引制度を受けることができます。以下の項目をよく読み、各自購入して下さい。

(1)通学定期券として購入できる乗車券は、「居住地の最寄り駅」から大学最寄りの「コスモスクエア駅」までの最短区間の乗車券です。

(2)通学定期券を購入する際は以下の物が必要です。

・学生証

・通学証明書（学生証裏面貼付）

・定期乗車券購入申込書（各鉄道会社定期券発売所窓口等で交付されます。）

なお、通学証明書については、現住所等が証明されています。内容に変更や誤りがあった場合はすみやかにMORIPAから変更手続きを行い、総務課まで通学証明書の再発行にお越し下さい。

(3)区間の偽りや、通学以外の目的（課外活動・アルバイト通勤等）で購入することは不正購入となります。不正購入はいかなる理由であっても認められません。本人に多額の追徴金が課せられる

ばかりか、本学学生の通学定期乗車券の販売が制限される場合がありますので、絶対に不正購入はしないで下さい。

2) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)による乗車券の購入

学割証による乗車券購入制度は、旅客鉄道会社(JR)が指定する学校の学生生徒が片道100kmを超える乗車券を購入する際に認められている割引制度です。

(1)購入できる乗車券

旅客鉄道会社(JR)の「鉄道および航路の合計乗車区間が片道100kmを超える乗車券」で、片道乗車券、往復乗車券、周遊乗車券等があります。

(2)乗車券の割引率

乗車区間の大人普通旅客運賃の2割引です。

(3)学割証の発行

- ① 希望者は証明書等発行機で手続きを行って下さい。
- ② 学割証の有効期限は発行日から3ヶ月です。ただし、卒業する学生の有効期限は、発行日にかかわらず卒業式の日となります。

(4)学割証使用についての注意

- ① 学割証の発行は年間15枚までで本人に限って使用できる物です。他人への譲渡・貸し借り、さらに勝手に記載内容を変更すると無効になります。また、使用時は必ず学生証を携帯して下さい。
- ② 不正な使用により、当事者のみでなく全学に発行停止の処分が下される場合があります。学生全員に迷惑がかかることのないよう正しく使用して下さい。
- ③ 不正使用は罰則の対象になります。

3) 実習用通学定期乗車券の購入

※学科によって実習時期および申請方法が異なるため、事前に教務課に確認して下さい。

実習用通学定期乗車券は、免許・資格取得のために実習施設に概ね1ヶ月以上通う場合に適用される通学定期券です。実習施設までの通学費用を大学が負担するというものではありません。

(1)購入できる乗車券

実習用通学乗車券として購入できる乗車券は、「居住地の最寄り駅」から「実習施設の最寄り駅」までの最短区間の乗車券です。1ヶ月単位での購入になりますので、事前に実習地までの最短経路と定期券または回数券等のいずれが安く購入できるかを比較したうえで申請して下さい。

(2)実習用通学定期証明書の発行

- ① 実習用通学定期乗車券を購入するには事前申請が必要です。希望者は教務課で専用の用紙を受け取り、所定の事項を記入後提出して下さい。
- ② 提出期限は実習開始日より60日前とします。また、申請後の経路変更は出来ません。
- ③ 各交通機関から通学証明書の発行が承認されるまで時間を要しますので、実習開始日より1週間前に教務課へ受け取りに来て下さい。

(3)実習用通学定期乗車券の購入

- ① 実習用通学定期乗車券を購入する場合は、承認印を受けた実習用通学定期証明書と学生証を

駅の定期券発売窓口に提出して下さい。

- ② 別途、窓口備えつけの購入申請書が必要になる場合があります。
- ③ 交通機関によっては予め定期券発売期間が定められている場合がありますので、確認の上購入して下さい。
- ④ 急な事情により定期券を購入しない場合は、承認印を受けた実習用通学定期証明書を必ず教務課に返還して下さい。

4 大学の開館時間、閉館日について

1) 平日の開館時間について

平日（閉館日を除く）8：00～20：30

※ただし、19：30～20：30は学生ホール、チャンネルクラブ、図書館のみ利用可能です。

2) 土曜日、日曜日の開館時間について

土曜日、日曜日（閉館日を除く）11：00～17：00

※土曜日は図書館（メディカル・アイ）、学生ホール、チャンネルクラブのみ開館となり窓口業務は休止しています。但し、部活動での利用については指導者帯同を条件に館内施設の利用を認めることがあります。

※日曜日の開館については別途掲示しますが、大学行事等により閉館することがあります。なお、窓口業務は休止しています。

3) 閉館日について

(1) 祝日

(2) 夏季および冬季休業期間（スケジュール参照）

(3) 大学行事等による閉館（別途案内）

※図書館（メディカル・アイ）の、開館時間の変更および臨時の休館・開館については、別途掲示します。

5 各種手続き・届出等について

1) 事務取扱い時間・証明書等発行機稼働時間

月～金曜日（閉館日を除く）9：00～18：00 ※厳守して下さい。

2) 各種手続き、届出等の窓口（申し込み・受け取りには学生証の提示が必要です）

原則、書類の申込み、受け取りは本人が行って下さい（代理申込み、受け取りは認めません）。

以下に記載している以外で、届出等が必要な事項が発生した場合は、すみやかに担当窓口へ届け出て下さい。

※即日発行以外の発行日はあくまでも目安です。申請が集中する時期は、通常より発行日数がかかる場合がありますので、早めの申請を心がけてください。

※大学休業日（土・日・祝日等）は、上記日数に含みません。

(1)証明書（証明書等発行機で発行可）

項目	窓口	手数料	発行日(目安)	備考
学割証	学生支援課	無料	即日	※有効期限は3ヶ月 (卒業する学生は卒業式の日)
在学証明書	学生支援課	200円	即日	
成績証明書	学生支援課	200円	即日	
卒業見込証明書	学生支援課	200円	即日	
修了見込証明書	学生支援課	200円	即日	
健康診断証明書	健康管理センター	200円	即日	発行月4～5月：前年度健康診断結果 発行月6月以降：当年度健康診断結果

※証明書等発行機に備え付けの証明書用封筒は、必要な場合のみ証明書を折り曲げて封入し、利用してください。また、厳封が必要な場合は封緘印を押印します（開封無効）ので、申し出てください。

(2)申請書（証明書等発行機で発行可）

以下の発行を希望する場合は証明書等発行機で申請書を発行の上、窓口で手続きを行ってください。

項目	窓口	手数料	発行日(目安)	備考
学生証再発行	総務課	1,500円	3日後	※別途経緯報告書の提出が必要
学生証即日再発行	総務課	2,500円	60分後	
名札ケース	総務課	300円	3日以内	
推薦書	学生支援課	400円	2週間後	事前に各学科担任 もしくはチューターに 伝えておくこと
推薦書(就職関係)	キャリアセンター			
教職に関する 各種証明書	教職支援センター	200円	1週間後	
その他証明書発行	学生支援課	200円	3日～1週間後	在学証明書等で所定の 様式がある場合等

※所定様式のある証明書等は、発行に3日～1週間要します。書類により作成にかかる日数は異なりますので、余裕を持って学生支援課にて申込をしてください。

(3)その他

以下の手続きについては、各窓口で手続きを行ってください。

項目	窓口	手数料	発行日(目安)	備考
通学証明書	総務課	無料	3日以内	
MORIPA パスワード再発行	情報システム課	無料	即日	MORIPAから 自分で再設定可
MORIメール パスワード再発行	情報システム課	無料	即日	Microsoft365から 自分で再設定可
証明書等発行機 暗証番号リセット	情報システム課	無料	即日	
公欠願 (就職・進学試験)	キャリアセンター	無料	—	証明書類等必要
公欠願 (忌引・感染症・教 職課程関連・裁判員 制度等)	教務課	無料	—	証明書類等必要

実習用 通学定期証明書	教務課	無料	実習開始日より 1週間前	申請は実習開始日より 60日前まで
就職先からの証明書等	キャリアセンター 健康管理センター	200円	1週間後	就職先等の書式による証明書
大学からの貸与物の 破損、紛失	各窓口	実費	—	
B型肝炎ワクチン (1クール目3回分)	健康管理センター	2,000円	—	1クール目補助あり 2クール目一般料金
小児感染症 各種ワクチン	健康管理センター	2,000円	—	MR (麻疹・風疹) 水痘・流行性耳下腺炎

※本学所定書式の履歴書は、各自MORIPAよりダウンロード・印刷をしてください。

3) 公欠 (忌引・感染症・教職課程関連・裁判員制度等)

公欠願(忌引・感染症・教職課程関連・裁判員裁判等)の提出は、登校許可日(公欠日後)より**1週間以内**に提出してください。やむを得ない事情(必要書類を準備できない場合等)により提出期限内に提出することができない場合は、提出期限内に必ず教務課問い合わせメールkyoumu-support@morinomiya-u.ac.jpにメール連絡をしてください。提出(提出できない場合はメール連絡)が、提出期限より超過している場合は公欠の申請を受付することができません。

公欠願に添付いただく証明書類については、原本・コピーのいずれでも可です。ただし、一度提出いただいた証明書類はいかなる理由においても返却できませんので、証明書類の原本が手元に必要な方はコピーを提出してください。

(1) 忌引

葬儀、服喪、その他親族の死亡に伴い行われる行事(以下、葬儀)に対し、公欠を認めています。公欠日数は原則、証明書類(会葬礼状等)に記載されている日を含む連続した以下の日数です。なお、公欠となる親族の範囲は二親等までです。直系、姻族は問いません。

公欠日後、**1週間以内**に公欠願と証明書類(会葬礼状等)をもって教務課まで届け出て下さい。

- ① 配偶者・子の場合は、証明書に記載されている日を含む連続した7日(休日含む)。
- ② 一親等(父母)の場合は、証明書に記載されている日を含む連続した5日(休日含む)。
- ③ 二親等の場合は、証明書に記載されている日を含む連続した3日(休日含む)。

※書類不備により期限を遅れた際は公欠となりません。

※法事(一周忌や三回忌、七回忌などの年忌法要)の場合は、忌引き扱いにはなりません。

※公欠と認められる上記の日数は、土日祝祭日等を含んだ日数です。

日程 曜日	前日 木	葬儀 金	1日後 土	2 日	3 月	4… 火…
例① 葬儀前日から公欠の場合				申請期間 (5日間の場合)		
例② 葬儀日から公欠の場合				申請期間 (3日間の場合)		

次のような申請は公欠が認められません

例① 葬儀日を含まない				申請期間		
例② 日程が連続しない		申請期間				申請期間

(2)感染症（登校停止・公欠等）

対象となる感染症は下記の疾患です。発症日、罹患期間、登校許可日が記載された診断書または感染症登校許可証明書を、登校許可日より1週間以内に健康管理センターに提出、その後教務課にて公欠の申請を行って下さい。（事前相談の必要があれば教務課または健康管理センターへ連絡して下さい。）

※感染症登校許可証明書は本学ホームページよりダウンロードできます。ただしWill申請には利用できません。（Will申請では、医師の診断書が必要です。）

	対象疾病（潜伏期間）	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎（ポリオ） ジフテリア 重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルスであるものに限る） 中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルスであるものに限る） 特定鳥インフルエンザ	治癒するまで
第二種	インフルエンザ（1～4日）	発症した後（発熱の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症（2～7日）	発症した後5日を経過し、かつ、症状軽快後1日を経過するまで
	百日咳（5～21日）	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
	麻疹（はしか）（7～18日）	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふく）（12～25日）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風疹（14～23日）	発疹が消失するまで
	水痘（主に14～16日）	すべての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱（プール熱）（2～14日）	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核（2年以内、特に6ヶ月以内に多い） 髄膜炎菌性髄膜炎（1～10日）	主治医において感染のおそれがないと認められるまで
	コレラ（数時間～5日）※ 細菌性赤痢（1～7日）※ 腸管出血性大腸菌感染症（10時間～6日） 腸チフス（3～60日）※ パラチフス（1～10日）※ 流行性角結膜炎（2～14日） 急性出血性結膜炎 ①EV70（平均24時間） ②CA24v（2～3日）	主治医において感染のおそれがないと認められるまで ※治癒するまで出席停止が望ましい

その他 感染症	感染性胃腸炎 ①ノロウイルス（12～48時間） ②ロタウイルス（1～3日） サルモネラ感染症（6～72時間） カンピロバクター感染症（主に2～5日） マイコプラズマ感染症（1～4週） インフルエンザ菌感染症（1～4週） 肺炎球菌感染症（1～4週） 溶連菌感染症（2～5日） 伝染性紅斑（4～21日） RSウイルス感染症（2～8日） EBウイルス感染症（30～50日） 単純ヘルペスウイルス感染症（新生児以降は2日～2週間） 帯状疱疹（特定できない） 手足口病（3～6日） ヘルパンギーナ（3～6日） A型肝炎（15～50日） B型肝炎（45～160日） 皮膚真菌症 ①カンジダ感染症 ②白癬（数日～数週間）	感染症の種類や各地域、学校における感染症の発生・流行の態様等を主治医またはその他医師が考慮の上で判断する
	伝染性膿痂疹（とびひ）（2～10日） 伝染性軟属腫（水いぼ）（主に2～7週） アタマジラミ症（産卵からふ化までは10～14日、成虫までは2週） 疥癬（感染して約1～2ヵ月）	出席停止の必要性は低いが、感染症の種類や各地域、学校における感染症の発生・流行の態様等を主治医またはその他医師が考慮の上で判断する

参考資料「学校において予防すべき感染症の解説」2018年3月発行
「学校において予防すべき感染症の種類等の所要」2023年5月改正

4) 現住所等の変更

現住所や電話番号等に変更が生じた場合にはすみやかにMORIPAから変更手続きを行って下さい。

詳細はMORIPAに掲示されているマニュアルを確認して下さい。

5) 学内での集団行動

(1)教室の利用

授業期間内・授業期間外（土・日・祝日等大学休業日は除く）に、授業以外の目的（グループ学習等）で教室等を使用する場合は、使用日の7日前までに施設使用願申込書兼許可書を学生支援課へ提出して下さい。

(2)アクティブラーニング・スポットの利用

アクティブラーニング・スポットは、グループでの演習や討論、部活やサークルのミーティング等で利用可能です。利用可能時間は最大2時間です。また、アクティブラーニング・スポット利用者に限り、ノートPCの貸し出しも行っています。アクティブラーニング・スポットを利用したい場合は、学生支援課まで申し出て下さい。

<設置場所>

イーストポート1階(3ヶ所)・2階(2ヶ所)・3階(2ヶ所)、ウエストポート1階(1ヶ所)、2階(1ヶ所)、キャナルポート7階(2ヶ所)

(3)学内施設・設備使用時の禁止事項

本学の施設・設備の使用について、以下の事由での使用は禁止されています。

- ① 営利を目的とするもの
- ② 違法又は不当な行為を行うもの
- ③ カルトや宗教、自己啓発セミナー等の勧誘や紹介
- ④ その他管理者において不適当と認められるもの



6 MORIメールとMicrosoft365について

「MORIメール」とは、本学学生が、在学中だけでなく、卒業後も継続して使用できるメールサービスです。MORIメールはMicrosoft社のMicrosoft365サービスを利用しています。

「Microsoft365」は、WEBブラウザを通じて最新のOffice（Outlook、Word、Excel等）を利用できるクラウドサービスです。WEBブラウザ上だけでなく、パソコン・スマートフォン等にOfficeをインストールして使用することもできます。Microsoft365を利用する際は、下記のメールアドレス（Microsoft365アカウント）とパスワードで認証が必要です。

1) メールアドレス（Microsoft365アカウント）とパスワード設定

初回ログイン時、メールアドレスと仮パスワードを入力し、新しいパスワードを設定して下さい。

設定はこちらから

■Microsoft365ログイン先：<https://portal.office.com>



■メールアドレス（Microsoft365アカウント）：学籍番号@s.morinomiya-u.ac.jp

※学籍番号にアルファベットが含まれる場合、アルファベットは小文字となります。

■仮パスワード：M生年月日@

例) 2001年12月8日生まれの場合：M20011208@

新しいパスワードは、8～16文字で、①大文字、②小文字、③数字、④記号のうち、3種類を組み合わせて設定する必要があります。

パスワードを設定後、詳細情報（認証用の連絡先）の登録を求められます。パスワード紛失時に必要となりますので、携帯電話番号もしくは個人メールアドレス（どちらか一つ）を登録してください。

2) パスワードの紛失および再発行

事前に認証用の連絡先を登録しておく、パスワードを忘れた場合でもご自身でパスワードをリセット（再設定）できます。

パスワードリセットができない場合は、学生証を持参の上、情報システム課まで申し出て下さい。

3) Microsoft365 (Office) の無料インストール

在学中に限り、個人所有の端末(パソコン(Windows/Mac) 5台・タブレット 5台・スマートフォン 5台)に、最新のMicrosoft Office (Excel、Word、PowerPointなど)を無料でインストールし、利用することができます。パソコンの場合は、該当の端末でMicrosoft365にログインし、Microsoft365アプリをインストールして下さい。スマートフォンやタブレット端末の場合は、アプリストアより必要なアプリをダウンロードして下さい。

4) 卒業後の注意点

- ・卒業後は、メールおよび予定表のみ利用可能です。OneDriveは利用できなくなりますので、必要なデータは卒業前に別の場所へ移動して下さい。
- ・Microsoft365アプリの無料ダウンロード・使用は、在学中のみのサービスです。

5) Microsoft365利用マニュアル

操作方法等の詳細については、「Microsoft365利用マニュアル」を参照して下さい。

 [詳細はこちら](#) Microsoft365利用マニュアル



7 緊急連絡時の対応について

大学の緊急連絡は、すべて大学ホームページとMORIPAの掲示板で行います。個人に大学から直接連絡することはありません。

災害発生時等の登校に疑問を感じた際は大学に向かう前にパソコンまたはモバイル端末で確認し、適切な行動をとって下さい。

1 利用にあたっての心得

- 1) 他の利用者の迷惑にならないよう、静かに利用して下さい。
- 2) 携帯電話などは電源を切っておくようにして下さい。
- 3) 所蔵資料・機器・設備を大切に扱い、汚損しないようにして下さい。
- 4) 館内での飲食および、紙コップ・紙パック等、蓋の出来ない飲食物の持ち込みを禁止します。(但し、リフレッシュゾーン内は、蓋の付いた飲み物のみ持ち込み可。)
- 5) リフレッシュゾーン以外の館内で飲食物などをカバンから出さないで下さい。
- 6) 貴重品は必ず身につけ、自己の責任において管理して下さい。
- 7) 座席に荷物を置いたまま長時間離れないで下さい。
- 8) 図書館内掲示板(リフレッシュゾーン入口)に、重要な連絡事項を掲示しますので、図書館利用時には確認するようにして下さい。
- 9) 貸出された本は期限内に返却して下さい。なお返却が遅れている場合やその他伝達事項がある場合、呼出し掲示板にてお知らせしますので、確認のうえ速やかに返却ボックスもしくは図書館カウンターに返却して下さい。
- 10) 著しく規律に反した行為をした者に対しては、利用を禁止することがあります。利用中は館員の指示に従って下さい。

2 利用案内

1) 開館時間・休館日

(1) 開館時間

月曜日～金曜日 8:00～20:30

土曜日 11:00～17:00

※日曜日の開館については別途掲示します。

(2) 休館日

① 国民の祝日

② 夏季・冬季の休業期間、その他大学の定める休業日

※開館時間の変更および臨時の休館・開館については、別途掲示します。

2) 入退館時の手続き

図書館の出入り口には、セキュリティ対策のため入退館ゲートを設置しています。入退館時はゲート前で学生証をかざしてください。

3) 閲覧と貸出・返却

(1) 図書館利用証

本学学生は、学生証をもって図書館利用証とします。

(2) 図書の閲覧

① 開架書架にある図書は自由に閲覧できます。

② 閉架書架に収蔵されている図書は図書館カウンターにお問い合わせ下さい。

(3) 図書の貸出

- ① 図書を館外へ持ち出す場合は、必ず図書館カウンターで貸出手続きを行って下さい。（貸出手続きをしないで図書を持ち出すと、警報ブザーが鳴ります。）
- ② 赤ラベルの図書、雑誌、製本雑誌、DVD等の貸出はできません。（館内利用のみです。）
- ③ 貸出冊数は3冊まで、貸出期間は2週間以内とします。
- ④ 貸出期限内に延長を希望する図書を図書館カウンターに持参し、手続きすると、貸出期間を延長することができます。延長回数は1回のみ、延長期間は手続きした日から2週間です。
- ⑤ 一日の間に館外へ図書を持ち出し、利用する事ができる「閲覧貸」という制度があります。一般の貸出とは別に、1人合計3冊まで利用できます。
- ⑥ 貸出された図書の転貸や、他人の利用証を使つての貸出を禁止します。
- ⑦ 飲料や雨水による染み、書込み、破れ等、資料を著しく汚損、または紛失した場合は、同一の資料等をもって弁償していただきます。


(4)返却

- ① 貸出期限内に、図書館カウンターに返却して下さい。
なお休館日および閉館時には、図書館入口前の「返却ボックス」に返却してください。
- ② 返却が遅れた場合は、返却日の翌日から遅れた日数分を貸出停止期間とします。
なお、貸出停止期間内でも、一日貸出しである「閲覧貸」はできます。

4) 機器の利用・OPAC利用・文献検索

(1)図書館内のパソコン

- ① PCゾーンに設置されているパソコンと貸出用のノートパソコンをご用意しています。
蔵書検索や論文検索の他に、課題・レポートの作成や一般のネット検索にも利用できます。
なおパソコン内にファイルの保存はできませんので、各自でUSBメモリなどの記録媒体を用意して下さい。
- ② ノートパソコンは館内でのみの利用となり、図書館カウンターでの貸出手続きが必要です。
- ③ 「附属図書館WebOPAC」で、館内資料の検索や、書誌情報・書架位置・貸出の有無の確認をすることができます。

 [詳細はこちら](https://opac-library.morinomiya-u.ac.jp/drupal/) 森ノ宮医療大学附属図書館WebOPAC

<https://opac-library.morinomiya-u.ac.jp/drupal/>



- ④ 文献検索用のデータベースで、医学論文の検索や、書誌情報・収録雑誌・抄録の有無の確認をすることができます。
- ⑤ 音楽サイトの視聴の際はヘッドフォンやイヤホンを利用して下さい。なお周囲に迷惑を及ぼすような音を出してのご利用は控えて下さい。
- ⑥ 印刷するときは、各自で印刷用紙をご用意下さい。
A4サイズ、白黒・片面のみ対応しております。なお印刷用以外の用紙は、紙詰まりの原因となりますので、使用しないで下さい。

(2)図書館内のAV機器

- ① 図書館で所蔵する映像資料を図書館内に限り視聴することができます。
- ② 視聴したい資料の空ケースを持って図書館カウンターに申し出て下さい。
- ③ ヘッドホンも貸出しております。ご希望の方は図書館カウンターに申し出て下さい。

(3) 図書館内のコピー機

- ① コピー機を館内資料の複写専用として設置しています。館内資料以外を複写する場合は館外のコピー機を利用して下さい。
- ② 必ず事前に「コピー申込用紙」に記入して図書館カウンターに提出の上、複写するようにして下さい。
- ③ 著作権法で認められた範囲内での複写を遵守して下さい。

5) 図書館で受けられるサービス

(1) レファレンス・サービス

図書館では、皆さんの学習・調査・研究に必要な文献および情報について調査支援します。

次のような案内や調査が必要なときは、気軽に図書館スタッフにお尋ね下さい。

- ① 図書館資料の検索・利用法の案内
- ② 学術論文の検索・入手法の案内
- ③ 特定の質問事項に対する調査・回答

(2) 貸出予約とリクエスト制度

- ① 借りたい資料が貸出中の場合は、予約することができます。図書館カウンターの予約用紙に必要な事項を記入し、申し込んで下さい。返却されてきましたら、図書館用掲示板にてお知らせしますので、連絡後2週間以内に図書館カウンターまで取りに来て下さい。
- ② 図書館で購入してほしい資料がある場合は、リクエストすることができます。図書館カウンターのリクエスト用紙に必要な事項を記入し、申し込んで下さい。なお、購入は附属図書館運営委員会の承認が必要となりますので、購入できない場合もあります。予めご了承下さい。

(3) データベース検索と文献の取寄せ

- ① 学内のパソコンからデータベースにアクセスし、研究・学習に必要な論文の情報検索をすることができます。データベースによっては同時アクセス制限があります。ログインできない場合は時間をおいて再度ログインして下さい。目的の論文を掲載する雑誌が図書館にあるかどうかを、「所蔵確認ボタン」で確認することができます。なお、終了するときには必ず「ログアウト」して下さい。
- ② それぞれのデータベースの利用規程を必ず守って利用して下さい。
- ③ 図書館で所蔵していない論文や学内からダウンロードできない論文、その他一般公開されていない論文などの複写を他大学図書館、機関から取寄せることができます。(担当教員を通じての申込が必要です。)

(4) 相互利用

- ① 他大学の図書館を利用する場合、他大学図書館利用願が必要です。利用を希望する時は、事前に図書館カウンターでお問合せ下さい。
- ② 他大学等で提携している図書館に所蔵されている資料を取り寄せて閲覧することが出来ます(相互貸借制度)。

(5) グループ学習室の利用

- ① グループ（3名以上）でグループ学習やミーティング等を実施の際に利用できます。
- ② 利用可能時間は、月曜日～金曜日の9：00～20：00です。（休館日を除く）
- ③ 利用を希望する方は、図書館カウンターで事前に予約をしてください。
※予約が埋まっている場合は利用できません。
- ④ 利用時間は2時間以内とし、予約がない場合に限り、更新手続きにより更に2時間継続利用が可能です。
- ⑤ その他利用方法等については、図書館スタッフの指示に従って下さい。
- ⑥ 事情により利用を休止する場合があります。なおこれについては、別途掲示します。

(6) クワイエットゾーンの利用

- ① 一切の私語を禁止した個人学習専用コーナーとなります。
- ② この場所でのグループ学習や、私語は謹んで下さい。

1 授業時間・学期

1) 授業時間

(1)平日の授業

平日（月曜日～金曜日）の授業時間は次の通りです。

第1時限：9：00～10：30

第2時限：10：40～12：10

第3時限：13：00～14：30

第4時限：14：40～16：10

第5時限：16：20～17：50

第6時限：18：00～19：30 ※授業の都合により第6時限を開講することがあります。

2) 学年と学期

学年開始日は4月1日、終了日は3月31日です。1学年2学期制を採用し、各学期の開始日および終了日は次の通りです。

(1)前期 4月1日より9月30日まで

(2)後期 10月1日より3月31日まで

※授業日程についてはスケジュールを参照下さい（具体的な日程については別途お知らせします）

3) 休日と休業日

(1)定期休日および定期休業日

定期休日および定期休業日は次の通りです。

① 休日

ア. 土曜日及び日曜日

イ. 国民の祝日に関する法律に定める日

② 休業日

ア. 夏期休業：8月中旬～9月下旬まで

イ. 冬期休業：12月下旬～翌年1月上旬まで

ウ. 春期休業：3月下旬

エ. 特別休業：具体的な日程については掲示します。

オ. 上記以外の臨時休業：災害等が発生した場合

(2)休業日の授業の実施

上記の休日、休業日にかかわらず、学長が教育上必要であると認めた場合は、休業日に授業を行うことがあります。

① 特別な行事

② 授業日に臨時休業があった場合の代替授業

③ その他、休業日であっても、教育上その日に授業を行うことが望ましい場合

2 出席の取り扱い

1) 授業の出席

- (1) 授業担当教員が毎授業時に出席を確認します。
 - (2) 点呼時の返答および出欠管理端末等での出席確認が無い場合は欠席となります。
 - (3) 公欠事項に該当する理由で欠席する場合は、登校後、提出期限内に公欠届と証明書類を教務課へ提出して下さい。
 - (4) 出席時間数について
 - ① 講義科目は原則として授業時数の2/3以上の出席をしなければ成績評価の対象となりません。
 - ② 教養科目群、学部共通科目群・共通科目群（2022年度以降入学生）、学科専門科目群の専門基礎科目および専門基礎分野の演習科目は原則として授業時間数の2/3以上の出席をしなければ成績評価の対象となりません。
 - ③ 実習科目・実験科目は原則として授業時数の4/5以上の出席をしなければ成績評価の対象となりません。ただし、臨床・臨地系実習については原則、欠席は認めません。
 - ④ その他の科目は原則として授業時間数の2/3または4/5以上の出席をしなければ成績評価の対象となりません。
- ※必要となる出席時間数については「シラバス」でそれぞれ確認して下さい。

2) 遅刻、早退(0.5回の欠席となります。)

- (1) 授業開始後30分以内の入室は遅刻となります。
- (2) 授業終了前30分以内の退出は早退となります。
- (3) 授業開始後30分を経過した場合の入室、授業終了前30分以上の退室は欠席となります。
- (4) 2回の遅刻または早退は1回の欠席とします。(1回の遅刻または早退は0.5回の欠席とします。)

【成績評価対象外（以下、「無資格」という）となる欠席回数一覧】

	講義科目	演習科目		実習・実験科目
	出席基準：2/3以上	出席基準：2/3以上	出席基準：4/5以上	出席基準：4/5以上
半期8回 授業	3回以上の 欠席で無資格	3回以上の 欠席で無資格	2回以上の 欠席で無資格	2回以上の 欠席で無資格
半期15回 授業	5.5回以上の 欠席で無資格	5.5回以上の 欠席で無資格	3.5回以上の 欠席で無資格	3.5回以上の 欠席で無資格
通年30回 授業	10.5回以上の 欠席で無資格	10.5回以上の 欠席で無資格	6.5回以上の 欠席で無資格	6.5回以上の 欠席で無資格

3) 公欠

次の各項目に該当する場合は欠席となりません。

- (1) 忌引
 - ※忌引日数等は、「Ⅲ. 大学生活の必要事項」の「5. 各種手続き・届出等について」の頁を参照して下さい。
- (2) 感染症

※出席停止期間等は、「Ⅲ. 大学生生活の必要事項」の「5. 各種手続き・届出等について」の頁を参照して下さい。

(3)就職・進学試験

※下記の項目に反する場合は公欠が認められませんので注意して下さい。

- ① 4年生のみ対象となります。
- ② 試験日当日のみ認めます。(説明会は認められません)
※なお、内定取得後の、内定式および入職前研修については、公欠が認められる場合があります。事前にキャリアセンターへ相談して下さい。
- ③ 授業は公欠を認めますが、大学の試験日については公欠を認めません。
- ④ 学外実習中等の場合は事前に各学科教員へ相談して下さい。
- ⑤ 就職・進学試験に関する公欠願は、試験日までにキャリアセンターで受け取って下さい。
- ⑥ 公欠願には、受験先担当者の署名、捺印もしくは試験の受験を証明する書類(受験票等)の添付が必要です。
- ⑦ 公欠願は就職・進学試験後、1週間以内にキャリアセンターへ提出して下さい。

(4)教職課程の教育実習等に関する公欠

- ① 教育実習事前説明会、教育実習、介護等体験実習に関する公欠願は、教職支援センターで受け取って下さい。
- ② 公欠願には説明会の実施日や実習期間等を記入し、教職支援センターへ提出期限内に提出して下さい。

(5)裁判員に指名されその手続き、および裁判員として選任され裁判に参加した場合



Ⅲ 在籍(在学)、休学、復学、退学

1) 在籍(在学)

学部：卒業までの在学期間は、4年以上から8年以内です(編入学等は除く)。

専攻科：修了までの在学期間は、1年以上から2年以内です。

大学院：修了までの在学期間は、修士課程および博士前期課程は2年以上から4年以内、博士後期課程は3年以上から6年以内です(いずれも転入学等は除く)。

2) 休学

(1)病気その他やむを得ない事由により3ヶ月以上修学することができない場合、本学所定の休学願にその事由を記載のうえ提出して下さい。学長が正当と認めた場合は休学することができます。

(2)休学を希望する場合は担任・チューターに相談の上、すみやかに届け出て下さい。

(3)病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付して下さい。

(4)休学は原則当該学年限りとしますが、特別な理由があり、その理由が妥当であると学長が認めた場合、引き続き休学を認められることがあります。

(5)休学期間は原則1年間とし、通算で4年間を超えることはできません。

(6)休学期間中は在学期間に含まれません。

(7)休学中の学納金は、学則第46条に基づき当該年度の授業料の5分の1とします。

3) 復学

- (1)休学中であった者が復学しようとする場合は、所定の復学願に、復学事由（休学の事由が消滅した旨）を記載のうえ提出して下さい。
- (2)学期途中の復学は認められません。復学する1ヶ月前までに担任・チューターに相談の上、復学願を提出して下さい。
- (3)病気を理由に休学した場合は、回復を証する医師の診断書を添付して下さい。

4) 退学と除籍

- (1)退学しようとする者は、担任・チューターに相談のうえ、所定の退学願に必要事項を記載し、提出して下さい。
- (2)除籍
次の各項に該当する者は除籍処分となります。
 - ① 学納金の納入を怠り、督促しても納入しない者
 - ② 学則で定める在学年限を超えた者



4 学習マナー

1) 服装

- (1)通学時：学生としてふさわしい服装であること。
- (2)座学時：通学時と同様、学生としてふさわしい服装であること。
- (3)実技・実習・実験時：指定された制服を着用すること。
- (4)式典参列時：厳粛な雰囲気壊さない、式典にふさわしい服装で臨席すること。

2) 身だしなみ

医療に携わる者として、ふさわしい身だしなみであること。特に実技・実習の参加に関しては、一定の基準に則さない身だしなみの場合は参加を許可しません。

例えば、他人に嫌悪を来すような染髪、長髪、マニキュア、ピアス・イヤリング・ブレスレット・ネックレス等の装飾品の着用は禁止します。また、食堂・カフェでの白衣(ケーシー型・長衣)を着用しての利用も禁止しています。

3) 礼儀と言葉遣い、その他

- (1)日ごろから医療に携わる者としてふさわしい礼儀、言葉遣いを心がけて下さい。
- (2)登下校時の挨拶は基本です。
- (3)授業中は携帯電話等の機器類の電源は必ず切っておいて下さい。
- (4)机、椅子、壁、備品等への落書きや、故意に破損・紛失した場合は懲戒処分および弁償の対象となります。
- (5)更衣室にある各自のロッカーは整理整頓し、防災上ロッカーの上に私物を置かないで下さい。

Ⅴ 気象異常・ストライキ時の授業休講

次のような場合には、学長の判断により授業を休講にすることがあります。

1) 気象状況等による授業休講

- (1)大阪府下に台風による暴風警報または特別警報が発令された場合は学長の判断により授業を休講にすることがあります。

警報発令状況	授業への対応
午前7時の時点で発令されている場合	第1時限、第2時限の授業を休講することがあります。
午前10時の時点で発令されている場合	第3時限以降の授業を休講することがあります。
休講の指示後、警報が解除となった場合	授業を再開することがあります。

- (2)異常気象や災害に伴い、交通機関が運行停止等になった場合は学長の判断により授業を休講にすることがあります。

※異常気象や災害に伴う、交通事情が地域により異なる場合は地域ごとに別途考慮します。

2) 交通機関のストライキ等による授業休講

- (1)交通機関がストライキの場合

午前7時時点で大阪メトロの交通機関（地下鉄、バス）がストライキ中であるときは授業を休講とします。また、関西圏における下記の交通機関については、必要に応じて別途考慮します。

- ① JR西日本 大阪府下全域
- ② 関西大手私鉄（近鉄、京阪、南海、阪急、阪神）

- (2)交通機関の事故等による延着の場合

交通機関の遅延が起り、授業を遅刻もしくは欠席する場合は、以下の通りとなります。

授業期間	遅延証明書(紙またはWeb)を提示の上、担当教員の判断を仰いでください。
定期試験および追・再試験期間	遅延証明書(紙またはWeb)を提示の上、担当教員もしくは教務課の指示に従ってください。

※遅延証明書の提示が無く、授業開始後30分以内であれば遅刻扱い、授業開始後30分以上経っている場合は、欠席扱いとなります。

※交通機関の遅延が一時的または局所的な場合、授業は休講となりません。

1 履修について

1) 教育課程の編成

本学の教育課程は、教養科目群、学部共通科目群・共通科目群（2022年度以降入学生）、学科専門科目群、教職に関する科目の4群にて構成されています。

(1) 教養科目群

人として社会人として必要な知性と教養を身につけ、人格を磨き、医療に携わる者としての品位と倫理観を養うための科目である。

(2) 学部共通科目群、共通科目群（2022年度以降入学生）

保健医療学部、看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部各学科の学生が、共通する科目を受講する医療の基礎となる科目である。

(3) 学科専門科目群

それぞれの学科において必要な学識と技術を学び、はり師、きゅう師、理学療法士、看護師、臨床検査技師、作業療法士、臨床工学技士、診療放射線技師として社会的自立を図り、社会に貢献しうる能力を養うために学ぶ科目である。また、当該科目群は学科により次の各項目に分類される。

① 看護学科

（2018年度以降入学生対象）

専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱおよび統合分野の4つに分類される。専門基礎分野は、看護師として必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱおよび統合分野はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

（2022年度以降入学生対象）

専門基礎分野、および専門分野の2つに分類される。専門基礎分野は、看護師として必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門分野はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

② 理学療法学科

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、理学療法士として必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門科目はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

③ 作業療法学科

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、保健・医療・福祉に携わる者として共通に理解しておくべき知識・技術を学修する。専門科目では、作業療法士としての専門性を高めるために必要とされる科目を配置し、さらに将来、医療だけでなく地域や教育・研究等様々な分野に進むことができるように、その基礎となる科目を体系的に学修する。

④ 言語聴覚学科

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、言語聴覚士として必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門科目はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

⑤ 臨床検査学科

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、専門科目を学ぶための基礎的事項の修得のみならず、広く保健医療に携わる者の共通理解を必要とする知識の修得を目指す。専門科目では、臨床検査を实践するうえで必要となる知識と技術が系統的・体系的につながり、総合的に理解が深まるよう学修する。

⑥ 臨床工学科

専門基礎分野、専門科目、専門特講および研究分野の4つに分類される。専門基礎分野は臨床工学の理論と実践の基盤となる医学・理工学の知識を修得する科目であり、専門科目、専門特講および研究分野においてはそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

⑦ 診療放射線学科

専門基礎科目、専門科目、専門特講および研究分野の4つに分類される。専門基礎科目は、医学・理工学・放射線学の基礎的な知識を修得する科目であり、専門科目は、診療放射線学を实践するうえで必要となる知識と技術を系統的に学習する。専門特講、研究分野は、総合的に理解が深まるよう学び、4年間にわたって体系的に学修する。

⑧ 鍼灸学科 鍼灸コース

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、はり師、きゅう師として必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門科目はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

⑨ 鍼灸学科 スポーツ特修コース

専門基礎科目、および専門科目の2つに分類される。専門基礎科目は、はり師、きゅう師、保健体育科教員、健康運動実践指導者に必要な専門知識と技術を学ぶための基礎となる知識を修得する科目であり、専門科目はそれぞれに必要な専門的知識と技術を学び、4年間にわたって体系的に学修する。

(4) 教職に関する科目

① 看護学科

養護教諭一種免許に必要な科目である。学校内で児童・生徒の健康を専門的に扱い、児童の養護を掌る教員を養成するための知識・技術を学修する。看護学科に所属する学生のみ履修可能である。(但し、保健師課程との同時履修はできない。)

② 鍼灸学科 スポーツ特修コース

中学校教諭一種免許及び高等学校教諭一種免許取得に必要な科目である。鍼灸学科において、生涯にわたり継続可能な運動指導を生徒の発達段階や能力に応じ教授できる教員を養成するための知識・技術を学修する。スポーツ特修コースを専攻している学生のみ希望することができる。

2) 単位制度

単位とは学修時間を表す名称である。1単位は(1)教員が教室等で授業を行う時間、(2)学生が事前・事後に行う予習・復習時間の合計が45時間を要する学修内容で構成される。そして、1単位を修得するためには、45時間の学修に加え、試験に合格することが必要である。

(1) 単位の算定

前述のとおり、1単位は予習・復習を含めて45時間の学修内容で構成される。また、45時間の中で授業時間が占める割合を講義、演習等の授業形態ごとに原則、次の基準で定めている。

講義	15時間の授業をもって1単位とする
演習	30時間の授業をもって1単位とする
実験、実習および実技	45時間の授業をもって1単位とする

したがって、1単位あたり講義で30時間、演習で15時間の予習・復習を行う必要がある。なお、「講義」および「演習」について授業時間15～30時間の範囲内で1単位、「実験」「実習」及び「実技」について授業時間30～45時間の範囲内で1単位に設定することがある。

3) 授業

(1) 授業の種類

授業科目は、履修区分、開講期により以下のとおり分類される。

① 履修区分による分類

必修科目	必ず履修して、その単位を修得しなければならない科目
選択科目	自由に選んで履修し、その中から卒業に必要な所定の単位を修得すべき科目
他大学等履修科目	大学コンソーシアム大阪科目、放送大学科目等

② 開講期による分類

通年科目	前期と後期を通じて授業を行う科目または年次をまたがって授業を行う科目
前期科目	前期のみで授業を完結する科目
後期科目	後期のみで授業を完結する科目

なお、授業の中には、一定期間に集中的に連続して行われる集中講義等がある。

4) 単位認定

他大学等で履修した科目について、以下の科目区分で修得した単位として認定されます。なお、認定される単位数には上限があります。

大学コンソーシアム大阪	<教養科目群> 上限2単位まで算入することができる
放送大学科目	<教養科目群> 上限2単位まで算入することができる

5) 他大学等の既修得単位の認定

教育上有益と認められる場合は、入学前に他大学・医学関係専修専門学校（以下他大学等という）で修得した科目と単位について以下の通り取り扱われます。

- (1) 他大学等において修得した単位は、本学においても単位が認定されます。ただし、認定にあたっては学力試験等の一定基準を設けることがあります。
- (2) 単位認定の対象科目は、本人の願い出（①既修得単位認定願書、②単位認定申請書）をもとに教

授会にて検討されます。

(3)認定できる単位は最大60単位までです。(大学院は10単位までです)

(4)単位認定の願い出は入学時の年度初めの履修登録時に対象科目すべてをまとめて教務課まで届け出て下さい。

(5)①既修得単位認定願書には、②単位認定申請書、③他大学等の成績証明書、④他大学等のシラバスを添えて教務課へ提出して下さい。

6) 卒業

(1)本学に4年以上(編入学生については別途定める)在学し、所定の単位を修得した場合卒業が認定される。

(2)卒業要件単位は別に定める項目を参照すること。

7) 履修に関する基本事項

大学における授業科目の履修は、学則や教務規程に従う必要がある。履修方法を誤ると、成績評価の対象にならないので、各学科の授業科目・シラバス・授業時間割等を参照して、適切な履修計画をたてること。

(1)履修登録単位数の上限(CAP制)

半期および通年で履修できる単位数の上限は以下の通りです。

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科
半期	24単位	24単位	24単位	24単位
通年	48単位	48単位	44単位	48単位
	臨床検査学科	臨床工学科	診療放射線学科	鍼灸学科
半期	24単位	22単位		24単位
通年	44単位	44単位	44単位	48単位

ただし、次の授業科目は、履修登録単位数の上限の対象から除かれます。

- ① 資格取得に必要と学長が認めた場合
- ② 他大学等において行う「大学コンソーシアム大阪」等、本学が認めた単位互換授業科目
- ③ 卒業要件外科目、臨床または臨地での実習科目および集中講義で開催される実習科目
- ④ 本学において既修得単位として認定された科目

(2)授業科目と履修区分

授業科目とその履修区分は、「履修案内VI」のカリキュラム表を参照してください。

(3)履修科目の決定

- ① 学科が定める必修科目および選択科目は、開講年次・クラス・曜日・時限を指定して「所属学科の授業時間割表」に配当されている。所属学科の履修指導と授業時間割の指定に従って、履修科目を決定すること。
- ② 授業科目は①のとおり、授業時間割表の指定どおりに履修することを原則とするが、所属学科の当該年次より以前の学年に配当された授業科目においては、その限りでない。なお、当該年次より高い学年に開講される授業科目については、履修できない。

- ③ 授業科目を履修する場合、先修条件として、他の授業科目の単位修得が必要な科目があるため、別に定める項目を参照し履修すること。
 - ④ 同一科目名称であっても、他学科を対象に開講される授業科目を履修することはできない。
- (4)履修者数の調整
- 受講希望者が講義室等の収容定員を超えたときは、履修区分等も考慮した抽選等によって履修者数の調整を行うことがある。また、講義室の収容定員により、あらかじめ人数を制限して履修登録を行うことがある。
- (5)履修登録
- 履修する授業科目の届出は、前期及び後期の履修登録期間中にWEB上のMORIPAより登録を行う。登録方法等については、「履修登録の注意事項と登録方法」の項およびMORIPAマニュアルを参照すること。
- (6)再履修
- 当該年度において単位修得が認められなかった授業科目については、翌年度以降、再履修しなければその単位を修得することができない。
- ① 再履修は所属学科の授業時間割表に指定されたクラスで受講すること。
 - ② 再履修の履修登録は、通常の履修科目と同様に行うこと。
- (7)編入学生の履修
- ① 編入学前に修得した単位が本学の卒業要件単位として認定されなかった場合、改めて本学の授業科目を履修しなければ単位修得できない。

8) 履修登録の注意事項と登録方法

- (1)履修登録の注意
- ① 配当学年

各授業科目に定められている配当学年の授業を履修すること。

シラバスの「配当学年」を参照すること。

ただし、再履修および所属学年次以下の科目についてはこの限りではない。
 - ② 同一科目の履修

同一年度において、同じ科目を履修登録することはできない。
 - ③ 同一時間割コマの重複

原則として、同一コマに配当された授業を履修することはできない(ただし、15週のうち重複する週が無い場合は履修することができる場合がある)。
- (2)履修登録方法
- ① 履修登録

履修登録は前期、後期につきそれぞれ定められた期間にて行うこと。
 - ② 履修科目の公表

指定された期日に履修科目を公表するため各自MORIPAで必ず確認すること。
 - ③ 履修登録の方法

履修登録は指定された期限内にMORIPAにて行うこと。また、必修科目、選択科目ともに登録が必要であるため登録漏れに注意すること。

Ⅱ 先修条件等について

1) 先修条件とは

先修条件とは、授業科目の履修において、科目ごとに先に別科目の単位の修得を必要としている条件のことを表します。先修条件を定めている科目については、その条件を満たさなければ当該科目の履修を認めません。各学科において、次項より定める先修条件を参照し履修してください。

2) 看護学科における先修条件

(1)2021年度入学生対象

① 基礎看護学実習Ⅱの先修条件

2年次後期に開講する「基礎看護学実習Ⅱ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 基礎看護学実習Ⅰ
- ii. 看護理論
- iii. 生活援助論Ⅰ・Ⅱ
- iv. 診療援助論Ⅰ・Ⅱ
- v. 看護過程演習

② 専門分野Ⅱ「臨地実習」の先修条件

- i. 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ii. 当該領域の必修科目の概論、各援助論の全てを履修し、単位を修得しておかなければ当該領域の実習を履修することはできない。

③ 統合分野「臨地実習」の先修条件

- i. 在宅看護論実習は、専門分野Ⅱ「臨地実習」16単位のうち13単位、および、「在宅看護概論」（2単位）、「在宅看護援助論Ⅰ」（1単位）、「在宅看護援助論Ⅱ」（1単位）を修得しておかなければ履修できない。
- ii. 公衆衛生看護学実習*は、3年後期までの臨地実習19単位、および、統合分野「公衆衛生看護学」（16単位）、「主題実習Ⅰ」（2単位）を修得しておかなければ履修できない。
*但し、公衆衛生看護学実習と主題実習Ⅰは開講時期が重なるため、単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。
- iii. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16単位のうち10単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また上記(i)で、在宅看護論実習が履修できない学生は、主題実習Ⅰの在宅領域を選択できない。
- iv. 主題実習Ⅱ*は、公衆衛生看護学実習の単位を修得しておかなければ履修できない。
*但し、主題実習Ⅱと公衆衛生看護学実習は開講時期が重なるため単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。

④ 卒業研究の先修条件

卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。

- i. 教養科目群の必修科目14単位のうち10単位

- ii. 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目14単位
- iii. 専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16単位のうち10単位

(2)2022年度入学生対象

1. 専門分野「臨地実習」先修条件

① 基礎看護学実習Ⅱの先修条件

2年次後期に開講する「基礎看護学実習Ⅱ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 看護理論
- ii. 生活援助論Ⅰ・Ⅱ
- iii. 診療援助論Ⅰ・Ⅱ
- iv. 看護過程演習
- v. 基礎看護学実習Ⅰ

② 成人看護学実習Ⅰ(急性)、成人看護学実習Ⅱ(慢性)、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習(以下、臨地実習(急性・慢性・老年・母性・小児・精神と称す))の先修条件

3年次後期に開講する臨地実習(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 基礎看護学実習Ⅱ
- ii. 当該領域の必修科目の概論、援助論

③ 地域・在宅看護論実習Ⅱの先修条件

4年次前期に開講する「地域・在宅看護論実習Ⅱ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 地域・在宅看護概論
- ii. 地域・在宅看護援助論Ⅰ
- iii. 地域・在宅看護援助論Ⅱ
- iv. 地域・在宅看護論実習Ⅰ
- v. 臨地実習(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 15単位のうち12単位

④ 主題実習Ⅰの先修条件

4年次前期の主題実習Ⅰは、臨地実習(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 15単位のうち9単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても臨地実習で不可となった領域は選択できない。また上記③で、地域・在宅看護論実習Ⅱが履修できない学生は、主題実習Ⅰの地域・在宅看護論領域を選択できない。

⑤ 公衆衛生看護学実習の先修条件

公衆衛生看護学実習は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 3年次後期までの臨地実習19単位
- ii. 専門分野「公衆衛生看護学」(16単位)
- iii. 「主題実習Ⅰ」(2単位)

*但し、公衆衛生看護学実習と主題実習Ⅰは開講時期が重なるため、単位の修得と同等程度

の内容の修得が認められていること。

⑥ 主題実習Ⅱの先修条件

主題実習Ⅱは、公衆衛生看護学実習及び主題実習Ⅰを履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

但し、主題実習Ⅱと公衆衛生看護学実習及び主題実習Ⅰは開講時期が重なるため、単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。

2. 専門分野「卒業研究」の先修条件

卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（地域・在宅看護論実習Ⅱを除く）を修得しておくこと。

i. 教養科目群の必修科目14単位のうち10単位

ii. 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目14単位

iii. 専門分野「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）15単位のうち9単位

(3)2023年度以降入学生対象

① 基礎看護学実習Ⅱの先修条件

2年次後期に開講する「基礎看護学実習Ⅱ」は、以下の科目を2年次前期までに単位を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 看護学概論

ii. 看護理論

iii. 生活援助論Ⅰ

iv. 基礎看護学実習Ⅰ

v. 生活援助論Ⅱ

vi. 診療援助論Ⅰ

vii. 診療援助論Ⅱ

viii. 看護過程演習

② 成人看護学実習Ⅰ（急性）、成人看護学実習Ⅱ（慢性）、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習（以下、臨地実習（急性・慢性・老年・母性・小児・精神と称す））の先修条件

3年次後期に開講する臨地実習（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ

ii. 当該領域の必修科目の概論、各援助論

③ 地域・在宅看護論実習Ⅱの先修条件

4年次前期に開講する「地域・在宅看護論実習Ⅱ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 地域・在宅看護概論

ii. 地域・在宅看護論実習Ⅰ

iii. 地域・在宅看護援助論Ⅰ

iv. 地域・在宅看護援助論Ⅱ

- v. 臨地実習（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）15単位
- ④ 主題実習Ⅰは、臨地実習（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）15単位を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
- ⑤ 公衆衛生看護学実習・主題実習Ⅱは、以下の科目を履修し単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. 3年次後期までの臨地実習19単位
 - ii. 専門分野「公衆衛生看護学」16単位

3) 理学療法学科における先修条件

(1)2018～2019年度入学生対象

- ① 臨床評価実習の先修条件

3年次に開講する臨床評価実習は、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

 - i. 基礎理学療法学Ⅰ
 - ii. 基礎理学療法学演習
 - iii. 臨床見学実習
 - iv. 検査測定実習
- ② 臨床総合実習Ⅰの先修条件

4年次に開講する臨床総合実習Ⅰは、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

 - i. 臨床理学療法評価学
 - ii. 基礎理学療法学Ⅱ
 - iii. 臨床理学療法評価学演習
 - iv. 臨床評価実習
- ③ 臨床総合実習Ⅱの先修条件

4年次に開講する臨床総合実習Ⅱは、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

 - i. 臨床総合実習Ⅰ

(2)2020年度以降入学生対象

- ① 臨床評価実習の先修条件

3年次に開講する臨床評価実習は、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

 - i. 基礎理学療法学Ⅰ
 - ii. 基礎理学療法学実習
 - iii. 臨床見学実習
 - iv. 検査測定実習
- ② 臨床総合実習Ⅰの先修条件

4年次に開講する臨床総合実習Ⅰは、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

- i. 臨床理学療法評価学
 - ii. 基礎理学療法学Ⅱ
 - iii. 臨床理学療法評価学実習
 - iv. 臨床評価実習
- ③ 臨床総合実習Ⅱの先修条件
- 4年次に開講する臨床総合実習Ⅱは、下記の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
- i. 臨床総合実習Ⅰ

4) 作業療法学科における先修条件

(1)2021年度以降入学生対象

- ① 臨床評価実習の先修条件
- 3年次に開講する「臨床評価実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。また、実習に先立って開催される事前セミナーに参加することを必要とする。
- i. 3年次前期までの専門科目の必修科目
- ② 臨床総合実習の先修条件
- 4年次前期に開講する「臨床総合実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。また、実習に先立って開催される事前セミナーに参加することを必要とする。
- i. 3年次後期までの専門基礎科目の必修科目
 - ii. 3年次後期までの専門科目の必修科目

5) 言語聴覚学科における先修条件

(1)2024年度以降入学生対象

- ① 臨床実習Ⅱ（評価実習）の先修条件
- 3年次に開講する「臨床実習Ⅱ（評価実習）」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。また、実習に先立って開催される事前セミナーに参加することを必要とする。
- i. 3年次前期までの専門科目の必修科目
- ② 臨床実習Ⅲ（総合実習）の先修条件
- 4年次前期に開講する「臨床実習Ⅲ（総合実習）」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。また、実習に先立って開催される事前セミナーに参加することを必要とする。
- i. 3年次後期までの専門基礎科目の必修科目
 - ii. 3年次後期までの専門科目の必修科目

6) 臨床検査学科における先修条件

(1)2020年度以降入学生対象

- ① 臨地実習の先修条件

3年次後期に開講する「臨地実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年前期までに配当された学科専門科目群の必修科目

(2)2022年度以降入学生対象

① 臨地実習の先修条件

3年次通年で開講する「臨地実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得もしくは単位修得と同等程度の内容の修得が認められなければ履修できない。

i. 3年前期までに配当された学科専門科目群の必修科目

※3年次前期に履修した科目の単位が修得できなかった場合、臨地実習の履修を取り消す。

7) 臨床工学科における先修条件

(1)2021年度以降入学生対象

① 臨床実習の先修条件

4年次前期に開講する「臨床実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

3年後期までに配当された「学科専門科目群 専門科目」の以下の科目区分の必修科目

i. 医用機器学

ii. 生体機能代行装置学

iii. 医用安全管理学

iv. 関連臨床医学

(2)2023年度以降入学生対象

① 臨床実習の先修条件

4年次に開講する「臨床実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

3年後期までに配当された「学科専門科目群 専門科目」の以下の科目区分の必修科目、および、3年後期配当科目の総合評価実習

i. 医用機器学及び臨床支援技術

ii. 生体機能代行技術学

iii. 医療安全管理学

iv. 関連臨床医学

(3)2024年度以降入学生対象

① 臨床実習の先修条件

4年次に開講する「臨床実習」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

3年後期までに配当された「学科専門科目群 専門科目」の以下の科目区分の必修科目、および、3年後期配当科目の総合評価実習

i. 医用機器学及び臨床支援技術

ii. 生体機能代行技術学

iii. 医療安全管理学

iv. 関連臨床医学

② 専門特講の先修条件

4年次後期に開講する「専門特講」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 4年配当科目の臨床実習（6単位）

*但し、臨床実習と専門特講は開講時期が重なるため、単位の修得と同等程度の内容の修得が認められていること。

8) 診療放射線学科における先修条件

(1)2021年度以降入学生対象

① 臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱの先修条件

3年次後期に開講する「臨床実習Ⅰ」および「臨床実習Ⅱ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年前期までに配当された学科専門科目群の必修科目

② 臨床実習Ⅲの先修条件

4年次前期に開講する「臨床実習Ⅲ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年後期までに配当された学科専門科目群の必修科目

(2)2024年度以降入学生対象

① 臨床実習ゼミナールⅡ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲの先修条件

3年次後期に開講する「臨床実習ゼミナールⅡ」「臨床実習Ⅱ」および「臨床実習Ⅲ」は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年次前期までに配当された学科専門科目群の必修科目

② 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの先修条件

3年次後期に開講する「卒業研究Ⅰ」および4年次に開講する「卒業研究Ⅱ」は以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年次前期に配当された「研究法入門」

③ 診療放射線学総合演習Ⅰ、診療放射線学総合演習Ⅱの先修条件

4年次後期に開講する「診療放射線学総合演習Ⅰ」および「診療放射線学総合演習Ⅱ」は以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年次後期に配当された「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」

ii. 4年次前期に配当された「診療放射線技術総論」

9) 鍼灸学科における先修条件等

(1)2021年度以降入学生対象

① 鍼灸総合演習Ⅰ、鍼灸総合演習Ⅱ、鍼灸総合演習Ⅲの先修条件

4年次に開講する鍼灸総合演習Ⅰ、鍼灸総合演習Ⅱ、鍼灸総合演習Ⅲは以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。

i. 3年次までに開講する専門基礎科目のうち36単位以上の必修科目

- ii. 専門科目のうち基礎はりきゅう学、臨床はりきゅう学の臨床鍼灸学（OSCE対策）を含む20単位以上の必修科目
- ② 附属施術所基礎実習の先修条件
3年次に開講する附属施術所基礎実習は、以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. 1年次までに開講する専門基礎科目のうち人体の構造と機能と、専門科目のうち基礎はりきゅう学において、16単位以上の必修科目
- ③ 附属施術所応用実習・学外見学実習Ⅱの先修条件
4年次に開講する附属施術所応用実習および学外見学実習Ⅱは以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. 附属施術所基礎実習
- ④ 卒業研究Ⅱの先修条件
4年次に開講する卒業研究Ⅱは以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. 卒業研究Ⅰ
- ⑤ スポーツ鍼灸学総論、スポーツ鍼灸学各論（選択科目）の先修条件
3年次に開講するスポーツ鍼灸学総論、スポーツ鍼灸学各論は以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. テーピング技術論
- ⑥ トレーニング科学演習Ⅰ、トレーニング科学演習Ⅱ（選択科目）の先修条件
1年次に開講するトレーニング科学演習Ⅰ、トレーニング科学演習Ⅱは以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない。
 - i. スポーツ実習Ⅰ体づくり運動
 - ii. スポーツ実習Ⅴダンス
- ⑦ トレーニング科学演習Ⅰ、トレーニング科学演習Ⅱ（選択科目）の先修条件
1年次に開講するトレーニング科学演習Ⅰ、トレーニング科学演習Ⅱはあわせて履修しなければならない。
- ⑧ 老年ケア演習（選択科目）の先修条件
3年次に開講する老年ケア演習は以下の科目もあわせて履修しなければならない。
 - i. 介護学概論

10) 助産学専攻科における先修条件

- ① 助産学実習Ⅰ・Ⅱの先修条件
助産学実習Ⅰ・Ⅱ*は、助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの前期に実施する中間試験に合格しなければ履修することができない。（履修の取り消し）
また、分娩介助技術学演習、新生児診断・発達論、助産学総論、助産管理学、ウイメンズヘルスとりプロダクティブケアの単位を修得しておかなければ履修できない。
*分娩介助技術学演習、新生児診断・発達論、助産学総論、助産管理学、ウイメンズヘルスとりプロダクティブケアは、助産学実習Ⅰ・Ⅱの実施時期より前に単位認定の評価を行

い、合格しなければ助産学実習Ⅰ・Ⅱの履修を取り消す。

② ハイリスク母子実習・地域母子保健実習の先修条件

ハイリスク母子実習・地域母子保健実習*は、ハイリスク母子支援論、地域母子保健学の単位を修得しておかなければ履修できない。

*ハイリスク母子支援論、地域母子保健学は、ハイリスク母子実習・地域母子保健実習の実施時期より前に単位認定の評価を行い、合格しなければハイリスク母子実習・地域母子保健実習の履修を取り消す。

Ⅲ 「カリキュラムマップ」と「科目ナンバリングコード」について

1) カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは授業科目と教育目標の関係を表すものです。ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかを示します。授業科目の順次性や関連性が一目でわかり、自らの学修内容の把握に役立ちます。学科ごとに作成されているので履修計画を立てる際に活用してください。

※「カリキュラムマップ」はMORIPAの掲示板で確認してください。

2) 科目ナンバリングコードとは

「科目ナンバリングコード」とは本学で開講している科目に付与されているナンバリングコードのことです。「科目ナンバリングコード」は、その科目の分野、学修段階、履修順序、難易度などを基に付与されています。「科目ナンバリングコード」によって、教育課程を体系的にわかりやすく明示し、教育課程の可視化を行っています。シラバスにも記載されておりますので、履修登録の際に「カリキュラムマップ」とあわせて確認してください。



保健医療学部 看護学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件		
				必修	選択			
教養科目群	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修14単位 選択2単位以上		
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	2	2	15			
	情報処理	演習	1前	2	15			
	統計学	演習	1前	2	15			
	心理学	講義	1後	2	15			
	生命倫理学	講義	1前	2	15			
	哲学	講義	1後	2	15			
	社会福祉学	講義	1前	2	15			
	日本国憲法	講義	1後	2	15			
	東洋史概説	講義	1前	2	15			
	西洋史概説	講義	2	2	15			
	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
英会話	演習	2前	2	15				
医学英語	演習	2後	2	15				
基礎英語演習	演習	2前	2	15				
応用英語演習	演習	2後	2	15				
小計			14	24				
計(履修方法・卒業要件)			14	2		16		
学部共通科目群	MBS(Morinomya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修7単位 選択4単位以上		
	チーム医療見学実習	講義	1前	1	15			
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15			
	チーム医療論	演習	2後	1	30			
	JPA論	演習	3前	1	15			
	基礎体育	演習	1後	2	30			
	健康管理学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15			
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	栄養学	講義	1後	2	15			
	身体運動科学	講義	2後	2	15			
	東洋医療概論	講義	2後	2	15			
	統合医療概論	講義	2後	2	15			
	小計			7	14			
	計(履修方法・卒業要件)			7	4			11
学科専門科目群	形態機能学Ⅰ	講義	1前	1	30	必修23単位 選択2単位以上 ※印は卒業要件		
	形態機能学Ⅱ	講義	1前	1	30			
	形態機能学Ⅲ	講義	1後	1	30			
	形態機能学Ⅳ	講義	1後	1	30			
	フィジカルアセスメント	演習	2前	2	30			
	生化学	講義	1後	2	15			
	発達心理学	講義	1前	2	15			
	微生物学	講義	1後	1	30			
	病理学	演習	1後	1	30			
	臨床薬理学	講義	2前	1	30			
	臨床病態学Ⅰ	講義	2前	1	30			
	臨床病態学Ⅱ	講義	2前	1	30			
	臨床病態学Ⅲ	講義	2後	1	30			
	臨床病態学Ⅳ	講義	2後	1	30			
	臨床病態学Ⅴ	講義	2後	1	30			
	臨床心理学	講義	1後	2	15			
	医療概論	講義	1前	1	30			
	公衆衛生学	講義	1後	2	15			
	看護関係法規	講義	2前	2	15			
	保健統計学 ※	講義	2前	2	15			
	疫学 ※	講義	2後	2	15			
	小計			21	8			
	計(履修方法・卒業要件)			21	2			23

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件		
				必修	選択			
専門分野Ⅰ 実地実習	看護学概論	講義	1前	1	15	必修15単位		
	看護理論	講義	1後	2	15			
	生活援助Ⅰ	演習	1前	2	30			
	生活援助Ⅱ	演習	1後	2	30			
	診療援助Ⅰ	演習	1後	2	30			
	診療援助Ⅱ	演習	2前	2	30			
	看護過程演習	演習	2前	1	30			
	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1前	1	45			
	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2後	2	45			
	小計			15	0			
	計(履修方法・卒業要件)			15	0			15
	専門分野Ⅱ 実地実習	成人看護学概論	講義	2前	2		15	必修38単位
		成人看護援助Ⅰ	演習	2後	1		30	
		成人看護援助Ⅱ	演習	2後	1		30	
		成人看護援助Ⅲ	演習	3前	1		30	
成人看護援助Ⅳ		演習	3前	1	30			
成人看護学概論		講義	2前	2	15			
老年看護援助Ⅰ		演習	2後	1	30			
老年看護援助Ⅱ		演習	3前	1	30			
母性看護学概論		講義	2前	2	15			
母性看護援助Ⅰ		演習	2後	1	30			
母性看護援助Ⅱ		演習	3前	1	30			
小児看護学概論		講義	2前	2	15			
小児看護援助Ⅰ		演習	2後	1	30			
小児看護援助Ⅱ		演習	3前	1	30			
精神看護学概論		講義	2前	2	15			
精神看護援助Ⅰ	演習	2後	1	30				
精神看護援助Ⅱ	演習	3前	1	30				
成人看護学実習Ⅰ(急性)	実習	3後	3	45				
成人看護学実習Ⅱ(慢性)	実習	3後	3	45				
老年看護学実習Ⅰ	実習	3後	3	45				
老年看護学実習Ⅱ	実習	3後	1	45				
母性看護学実習	実習	3後	2	45				
小児看護学実習	実習	3後	2	45				
精神看護学実習	実習	3後	2	45				
小計			38	0				
計(履修方法・卒業要件)			38	0		38		
在宅 実地実習Ⅰ	在宅看護概論	講義	2前	2	15	22単位 選択1単位以上 ※印の科目は必修23単位 ※印の科目は必修20単位 ※印は卒業要件		
	在宅看護援助Ⅰ	演習	2後	1	30			
	在宅看護援助Ⅱ	演習	3前	1	30			
	外来看護論	講義	3前	1	15			
	健康教育論	講義	2後	2	15			
	家族看護学	講義	3前	1	15			
	看護管理論	講義	4後	1	15			
	災害・国際看護論	講義	4後	1	15			
	義務概説	講義	2前	2	15			
	学校保健	講義	1後	2	15			
	健康相談活動論	講義	2後	2	15			
	公衆衛生看護学概論	講義	2前	2	15			
	公衆衛生看護学演習 ※	演習	3前	2	30			
	公衆衛生看護学活動Ⅰ ※	講義	2後	2	15			
	公衆衛生看護学活動Ⅱ ※	講義	2後	2	15			
公衆衛生看護学活動Ⅲ ※	講義	3前	2	15				
公衆衛生看護学活動Ⅳ ※	講義	3前	2	15				
公衆衛生看護管理論 ※	講義	3前	2	15				
保健医療福祉行政論 ※	講義	3前	2	15				
在宅看護論実習	実習	4前	2	45				
公衆衛生看護学実習 ※	実習	4前	4	45				
主題実習Ⅰ	実習	4前	2	45				
主題実習Ⅱ ※	実習	4前	1	45				
看護研究	演習	3前	1	30				
卒業研究	演習	4連	2	30				
臨床看護学セミナーⅠ	演習	4前	2	30				
臨床看護学セミナーⅡ	演習	4後	2	30				
公衆衛生看護学セミナー ※	演習	4後	1	30				
臨床看護技術セミナー	演習	4後	1	30				
小計			22	28				
計(履修方法・卒業要件)			22	1		23		
計(履修方法・卒業要件)			117	74		191		

卒業要件(最低必要単位数) 117 9 126

VI 履修案内

教職課程【養護教諭一種免許】（2019年度以降入学生対象）

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位あたりの時間数	免許取得要件
				必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	養一種免 必修30単位
	教職論	講義	1前	2		15	
	教育行政学	講義	1後	2		15	
	教育心理学	講義	1後	2		15	
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育課程論	講義	2前	2		15	
	道徳教育論	講義	2後	2		15	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15	
	特別活動論	講義	2後	2		15	
	教育方法論	講義	3前	2		15	
	生徒指導論	講義	2前	2		15	
教育実践に関する科目	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15	
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	4前	5		30	
	教職実践演習(養護教諭)	演習	4後	2		15	
開講単位合計				30	0		

VI

履修案内

教職課程【養護教諭一種免許】（2022年度以降入学生対象）

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位あたりの時間数	免許取得要件
				必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	養一種免 必修3 1単位
	教職論	講義	1前	2		15	
	教育行政学	講義	1後	2		15	
	教育心理学	講義	1後	2		15	
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15	
	教育課程論	講義	2前	2		15	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	講義	2後	2		15	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15	
	特別活動論	講義	2後	2		15	
	教育方法論	講義	3前	2		15	
	ICT活用の理論と実践	演習	2後	1		15	
	生徒指導論	講義	2前	2		15	
教育実践に関する科目	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15	
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	4前	5		30	
	教職実践演習(養護教諭)	演習	4後	2		15	
開講単位数合計				31	0	31	

保健医療学部 理学療法学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	紀年単位数	単位数		履修方法及び卒業要件		
				必修	選択			
教養科目群	基礎セミナー	演習	1前	2	15	必修14単位 + 選択2単位以上		
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	1前	2	15			
	情報処理	演習	1前	2	15			
	統計学	演習	3前	2	15			
	小計			6	6			
	心理学	講義	1前	2	15			
	生命倫理学	講義	1前	2	15			
	哲学	講義	1後	2	15			
	社会福祉学	講義	1前	2	15			
	日本国憲法	講義	1後	2	15			
	東洋史概説	講義	3前	2	15			
	西洋史概説	講義	3前	2	15			
	小計			4	10			
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
	英会話	演習	2前	2	15			
	医学英語	演習	2後	2	15			
	基礎英語演習	演習	2前	2	15			
	応用英語演習	演習	2後	2	15			
	小計			4	8			
	計(履修方法・卒業要件)			14	2	16		
	学部共通科目群	MBS(Morimoto's Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修5単位 + 選択2単位以上	
		チーム医療見学実習	演習	1前	1	15		
		医療コミュニケーション	講義	2前	1	15		
		チーム医療論	演習	2後	1	30		
		IPW論	演習	3前	1	15		
		基礎体育	演習	1前	1	30		
		健康科学Ⅰ(スポーツ・社会学を含む)	講義	1前	2	15		
健康管理学Ⅰ		講義	2前	2	15			
健康管理学Ⅱ		講義	2後	2	15			
栄養学		講義	2後	2	15			
身体運動科学		講義	2後	2	15			
東洋医療概論		講義	2後	2	15			
統合医療概論		講義	3前	2	15			
小計				5	15			
計(履修方法・卒業要件)			5	2	7			
学専門科目群	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1前	1	30	必修15単位		
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1後	1	30			
	人体の構造Ⅰ(神経系)	講義	1前	2	15			
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1後	2	15			
	人体の構造実習	実習	2後	1	30			
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1前	2	15			
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1後	2	15			
	基礎運動学	講義	1後	1	30			
	臨床運動学	演習	2前	1	30			
	運動学実習	演習	1後	1	30			
	臨床心理学	演習	1後	1	30			
	小計			15	0			
	計(履修方法・卒業要件)			15	0		15	
	学専門科目群	リハビリテーション概論	講義	1前	2		15	必修19単位 + 選択1単位以上
		公衆衛生学	講義	1後	2		15	
生化学		講義	2前	2	15			
病理学		講義	2前	2	15			
臨床病態学Ⅰ		講義	2前	2	15			
臨床病態学Ⅱ		講義	2後	2	15			
臨床病態学Ⅲ		講義	2後	2	15			
整形外科学		講義	2前	2	15			
小児科学(人間発達学)		講義	2後	2	15			
精神医学		講義	2前	2	15			
リハビリテーション医学		講義	2前	2	15			
チーム/リハビリテーション概論		講義	2前	1	30			
介護学概論・ボランティア活動論		演習	2後	1	30			
スポーツ医学		演習	3前	1	30			
テーピング技術論		演習	2後	1	30			
小計			19	7				
計(履修方法・卒業要件)			19	1	20			

区分	授業科目	授業形態	紀年単位数	単位数		履修方法及び卒業要件				
				必修	選択					
学専門科目群	医療関係法規論	講義	1前	2	15	必修6単位				
	理学療法概論	演習	3後	1	30					
	基礎理学療法学Ⅰ	演習	2前	1	30					
	基礎理学療法学Ⅱ	演習	3前	1	30					
	基礎理学療法学実習	実習	2後	1	45					
	小計			6	0					
	計(履修方法・卒業要件)			6	0		6			
	学専門科目群	職場管理教育(を含む)	講義	3後	1		15	必修2単位		
		職業倫理	講義	3後	1		15			
		小計			2		0			
		計(履修方法・卒業要件)			2		0		2	
		学専門科目群	理学療法評価学総論	演習	1後		1		30	必修5単位
			理学療法評価学各論	演習	2前		2		30	
			臨床理学療法評価学(動作分析)	演習	3前		1		30	
			臨床理学療法評価学実習	演習	3通		1		45	
小計					5	0				
計(履修方法・卒業要件)			5	0	5					
学専門科目群			基礎日常生活活動学	演習	1後	1	30		必修20単位	
			基礎運動療法総論	演習	2前	1	30			
			基礎運動療法各論	演習	2後	1	30			
			物理療法学	演習	1後	1	30			
			運動器系理学療法学Ⅰ	演習	2後	1	30			
	運動器系理学療法学Ⅱ		講義	3前	2	15				
	運動器系理学療法学Ⅲ		演習	3前	1	30				
	神経系理学療法学Ⅰ		演習	2後	1	30				
	神経系理学療法学Ⅱ		講義	3前	2	15				
	神経系理学療法学Ⅲ	演習	3前	1	30					
	内部障害系理学療法学Ⅰ	講義	2後	1	30					
	内部障害系理学療法学Ⅱ	講義	3前	2	15					
	内部障害系理学療法学Ⅲ	演習	3前	1	30					
	発達障害系理学療法学	演習	3前	1	30					
	義肢装具学	講義	2後	2	15					
臨床理学療法治療学実習	演習	4通	1	45						
小計			20	0						
計(履修方法・卒業要件)			20	0	20					
学専門科目群	地域理学療法学	講義	2後	2	15	4単位				
	生活環境論	講義	2後	1	30					
	老年期理学療法学	演習	3後	1	30					
	小計			4	0					
	計(履修方法・卒業要件)			4	0		4			
	学専門科目群	理学療法臨床推論概論	講義	2後	1		15	+ 選択1単位以上 必修5単位以上		
		理学療法臨床推論演習	演習	3前	1		30			
		総合リハビリテーションIPW演習	演習	3前	1		30			
		理学療法特論Ⅰ	演習	3後	1		30			
		理学療法特論Ⅱ	演習	4前	1		30			
		理学療法特論Ⅲ	演習	4後	2		30			
		運動器系理学療法セミナー	演習	4前	1		30			
		神経系理学療法セミナー	演習	4前	1		30			
		内部障害系理学療法セミナー	演習	4前	1		30			
		地域理学療法セミナー	演習	4前	1		30			
小計				5	6					
計(履修方法・卒業要件)			5	1	6					
学専門科目群		卒業研究Ⅰ	実習	3通	2	30	4単位 必修4単位			
		卒業研究Ⅱ	実習	4通	2	30				
		小計			4	0				
	計(履修方法・卒業要件)			4	0	4				
	学専門科目群	臨床見学実習	実習	1後	1	45		必修21単位		
		検査測定実習	実習	2前	1	45				
		臨床評価実習	実習	3後	4	45				
		地域理学療法実習	実習	4前	1	45				
		臨床総合実習Ⅰ	実習	4通	7	45				
		臨床総合実習Ⅱ	実習	4通	7	45				
		小計			21	0				
		計(履修方法・卒業要件)			21	0			21	
		開講単位合計			120	52			172	
		卒業要件(最低必要単位数)			120	6			126	

VI 履修案内

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	記号	年次	単位数		履修方法及び 卒業要件及び 1単位あたりの 時間数	
					必修	選択		
科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15			
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	1前	2	15			
	情報処理	演習	1前	2	15			
	統計学	演習	3前	2	15			
	小計			6	6			
	人間理解と社会	心理学	講義	1前	2	15		
		生命物理学	講義	1前	2	15		
		哲学	講義	1後	2	15		
		社会福祉学	講義	1前	2	15		
		日本国憲法	講義	1後	2	15		
		東洋史概説	講義	3前	2	15		
		西洋史概説	講義	3前	2	15		
	小計			4	10			
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
	英会話	演習	2前	2	15			
	医学英語	演習	2後	2	15			
	基礎英語演習	演習	2前	2	15			
応用英語演習	演習	2後	2	15				
小計			4	8				
計(履修方法・卒業要件)			14	2		16		
共通科目	MBS(Morinomy Basic Seminar)	講義	1前	1	15			
	チーム医療見学実習	演習	1前	1	15			
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15			
	チーム医療論	演習	2後	1	30			
	IPW論	演習	3前	1	15			
	基礎体育	演習	1前	1	30			
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15			
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	栄養学	講義	2後	2	15			
	身体運動科学	講義	2後	2	15			
	東洋医療概論	講義	2後	2	15			
	統合医療概論	講義	3前	2	15			
	小計			5	15			
	計(履修方法・卒業要件)			5	2		7	
保健医療	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1前	1	30			
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1後	1	30			
	人体の構造Ⅰ(神経系)	講義	1前	2	15			
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1後	2	15			
	人体の構造実習	実習	2後	1	30			
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1前	2	15			
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1後	2	15			
	基礎運動学	講義	1後	1	30			
	臨床運動学	演習	2前	1	30			
	運動学実習	演習	1後	1	30			
	臨床心理学	演習	1後	1	30			
	小計			15	0			
	計(履修方法・卒業要件)			15	0		15	
	専門基礎科目	リハビリテーション概論	講義	1前	2	15		
		公衆衛生学	講義	1後	2	15		
生化学		講義	2前	2	15			
病理学		講義	2前	2	15			
臨床病態学Ⅰ		講義	2前	2	15			
臨床病態学Ⅱ		講義	2後	2	15			
臨床病態学Ⅲ		講義	2後	2	15			
整形外科科学		講義	2前	2	15			
小児科学(人間発達学)		講義	2後	2	15			
精神医学		講義	2前	2	15			
リハビリテーション医学		講義	2前	2	15			
チーム/リハビリテーション概論		講義	2前	1	30			
介護学概論・ボランティア活動論		演習	2後	1	30			
スポーツ医学		演習	3前	1	30			
テーピング技術論		演習	2後	1	30			
小計			19	7				
計(履修方法・卒業要件)			19	1		20		

区分	授業科目	授業形態	記号	年次	単位数		履修方法及び 卒業要件及び 1単位あたりの 時間数	
					必修	選択		
基礎理学療法学	医療関係法規論	講義	1前	2	15			
	理学療法触診法	演習	3後	1	30			
	基礎理学療法学Ⅰ	演習	2前	1	30			
	基礎理学療法学Ⅱ	演習	3前	1	30			
	基礎理学療法学実習	実習	2後	1	45			
	小計			6	0			
	計(履修方法・卒業要件)			6	0		6	
	管理理学療法学	職場管理(教育を含む)	講義	3後	1	15		
		職業倫理	講義	3後	1	15		
		小計			2	0		
	計(履修方法・卒業要件)			2	0		2	
	理学療法学	理学療法評価学総論	演習	1後	1	30		
		理学療法評価学各論	演習	2前	2	30		
		臨床理学療法評価学(動作分析)	演習	3前	1	30		
		臨床理学療法評価学実習	演習	3後	1	45		
小計				5	0			
計(履修方法・卒業要件)			5	0		5		
理学療法治療学	基礎日常生活活動学	演習	1後	1	30			
	基礎運動療法総論	演習	2前	1	30			
	基礎運動療法学各論	演習	2後	1	30			
	物理療法学	演習	1後	1	30			
	運動器系理学療法学Ⅰ	演習	2前	1	30			
	運動器系理学療法学Ⅱ	講義	3前	2	15			
	運動器系理学療法学Ⅲ	演習	3前	1	30			
	神経系理学療法学Ⅰ	演習	2後	1	30			
	神経系理学療法学Ⅱ	講義	3前	2	15			
	神経系理学療法学Ⅲ	演習	3前	1	30			
	内部障害系理学療法学Ⅰ	演習	2後	1	30			
	内部障害系理学療法学Ⅱ	講義	3前	2	15			
	内部障害系理学療法学Ⅲ	演習	3前	1	30			
	発達管理理学療法学	演習	3前	1	30			
	義肢装具学	講義	2後	2	15			
臨床理学療法治療学実習	演習	4後	1	45				
小計			20	0				
計(履修方法・卒業要件)			20	0		20		
地域理学療法学	地域理学療法学	講義	2後	2	15			
	生活環境論	演習	2後	1	30			
	老年期理学療法学	老生	3前	1	30			
	小計			4	0			
	計(履修方法・卒業要件)			4	0		4	
総合領域	理学療法臨床増補総論	講義	2後	1	15			
	理学療法臨床増補演習	演習	3前	1	30			
	総合リハビリテーションIPW演習	演習	3前	1	30			
	理学療法特論Ⅰ	演習	3後	1	30			
	理学療法特論Ⅱ	演習	4前	1	30			
	理学療法特論Ⅲ	演習	4後	2	30			
	運動器系理学療法学セミナー	演習	4前	1	30			
	神経系理学療法学セミナー	演習	4前	1	30			
	内部障害系理学療法学セミナー	演習	4前	1	30			
	地域理学療法学セミナー	演習	4前	1	30			
	小計			5	6			
	計(履修方法・卒業要件)			5	1		6	
	研究	卒業研究Ⅰ	演習	3後	2	30		
		卒業研究Ⅱ	演習	4後	2	30		
		小計			4	0		
計(履修方法・卒業要件)			4	0		4		
臨床実習	臨床見学実習	実習	1後	1	45			
	検査測定実習	実習	2前	1	45			
	臨床評価実習	実習	3後	4	45			
	地域理学療法実習	実習	4前	1	45			
	臨床総合実習Ⅰ	実習	4後	7	45			
	臨床総合実習Ⅱ	実習	4後	7	45			
小計			21	0				
計(履修方法・卒業要件)			21	0		21		
開講単位合計			120	52		172		
卒業要件(最低必要単位数)			120	6		126		

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 授業科目・単位数 (2024年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	記号	年次	単位数		履修方法及び 1単位あたりの 時間数	履修方法及び 1単位あたりの 時間数	
					必修	選択			
数学科目群	基礎ゼミナール	演習	1期	2	2	15			
	物理学	講義	1期	2	2	15			
	生物学	講義	1期	2	2	15			
	化学	講義	1期	2	2	15			
	情報処理	演習	1期	2	2	15			
	統計学	演習	3期	2	2	15			
	小計				6	6			
	心理学	講義	1期	2	2	15		必修14単位	
	生命倫理学	講義	1期	2	2	15		選択2単位	
	哲学	講義	1期	2	2	15		選択2単位	
	社会福祉学	講義	1期	2	2	15		選択2単位	
	日本国憲法	講義	1期	2	2	15		選択2単位	
	東洋史概説	講義	3期	2	2	15		選択2単位	
	西洋史概説	講義	3期	2	2	15		選択2単位	
	小計				4	10		以上	
英語Ⅰ(初級)	演習	1期	2	2	15				
英語Ⅱ(中級)	演習	1期	2	2	15				
英会話	演習	2期	2	2	15				
基礎英語演習	演習	2期	2	2	15				
応用英語演習	演習	2期	2	2	15				
小計				4	8				
計(履修方法・卒業要件)				14	2		16		
共通科目群	MBS(Morimoto's Basic Seminar)	講義	1期	1	1	15			
	チーム医療見学実習	演習	1期	1	1	15		必修5単位	
	医療コミュニケーション	講義	2期	1	1	15		選択2単位	
	チーム医療論	演習	2期	1	1	30		選択2単位	
	IPW論	演習	3期	1	1	15		選択2単位	
	基礎体育	演習	1期	1	1	30		選択2単位	
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1期	2	2	15		選択2単位	
	健康科学Ⅰ	講義	2期	2	2	15		選択2単位	
	健康管理学Ⅱ	講義	2期	2	2	15		選択2単位	
	栄養学	講義	2期	2	2	15		選択2単位	
	身体運動科学	講義	2期	2	2	15		選択2単位	
	東洋医療概論	講義	2期	2	2	15		選択2単位	
	統合医療概論	講義	3期	2	2	15		選択2単位	
	小計				5	15		以上	
	計(履修方法・卒業要件)				5	2		7	
人体の形成の発達及び 回復過程の成立も含む	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1期	1	1	30		必修15単位	
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1期	1	1	30		必修15単位	
	人体の構造Ⅱ(神経系)	講義	1期	2	2	15		必修15単位	
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1期	2	2	15		必修15単位	
	人体の構造実習	実習	2期	2	2	15		必修15単位	
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1期	2	2	15		必修15単位	
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1期	2	2	15		必修15単位	
	基礎運動学	講義	1期	1	1	30		必修15単位	
	臨床運動学	演習	2期	1	1	30		必修15単位	
	運動学実習	演習	1期	1	1	30		必修15単位	
	臨床心理学	演習	1期	1	1	30		必修15単位	
	小計				15	0		15	
	計(履修方法・卒業要件)				15	0		15	
	専門科目群	リハビリテーション概論	講義	1期	2	2	15		必修18単位
		公衆衛生学	講義	1期	2	2	15		必修18単位
生化学		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
養理学		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
臨床病態学Ⅰ		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
臨床病態学Ⅱ		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
臨床病態学Ⅲ		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
整形外科学		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
小児科学(人間発達学)		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
精神医学		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)		講義	2期	2	2	15		必修18単位	
チームリハビリテーション概論		講義	2期	1	1	30		必修18単位	
介護学概論・市庁シニア活動論		演習	2期	1	1	30		必修18単位	
スポーツ医学		演習	3期	1	1	30		必修18単位	
テーピング技術論		演習	2期	1	1	30		必修18単位	
小計				19	7		20		
計(履修方法・卒業要件)				19	1		20		

区分	授業科目	授業形態	記号	年次	単位数		履修方法及び 1単位あたりの 時間数	履修方法及び 1単位あたりの 時間数		
					必修	選択				
基礎法学	医療関係法規論	講義	1期	2	2	15				
	理学療法倫理学	演習	3期	1	1	30		必修6単位		
	基礎理学療法Ⅰ	演習	2期	1	1	30		必修6単位		
	基礎理学療法Ⅱ	演習	3期	1	1	30		必修6単位		
	基礎理学療法実習	実習	2通	1	1	45		必修6単位		
	小計				6	0		6		
	計(履修方法・卒業要件)				6	0		6		
	理学療法	職場管理(教育を含む)	講義	3期	1	1	15		必修2単位	
		職業倫理	講義	3期	1	1	15		必修2単位	
		小計				2	0		2	
		計(履修方法・卒業要件)				2	0		2	
		評議学	理学療法評価学総論	演習	1期	1	1	30		必修5単位
			理学療法評価学各論	演習	2期	2	2	30		必修5単位
			臨床理学療法評価学(動作分析)	演習	3期	1	1	30		必修5単位
			臨床理学療法評価学実習	演習	3通	1	1	45		必修5単位
小計						5	0		5	
計(履修方法・卒業要件)						5	0		5	
理学療法治療学			基礎日常生活活動学	演習	1期	1	1	30		必修20単位
			基礎運動療法総論	演習	2期	1	1	30		必修20単位
			基礎運動療法各論	演習	2期	1	1	30		必修20単位
			物理療法	演習	1期	1	1	30		必修20単位
			運動器系理学療法Ⅰ	演習	2期	1	1	30		必修20単位
	運動器系理学療法Ⅱ		講義	3期	2	2	15		必修20単位	
	神経系理学療法Ⅰ		演習	2期	1	1	30		必修20単位	
	神経系理学療法Ⅱ		講義	3期	2	2	15		必修20単位	
	内臓器系理学療法Ⅰ		演習	2期	1	1	30		必修20単位	
	内臓器系理学療法Ⅱ	講義	3期	2	2	15		必修20単位		
	内臓器系理学療法Ⅲ	演習	3期	1	1	30		必修20単位		
	発達障害理学療法学	演習	3期	1	1	30		必修20単位		
	福祉技術学	講義	2期	2	2	15		必修20単位		
	臨床理学療法治療学実習	演習	4通	1	1	45		必修20単位		
	小計				20	0		20		
計(履修方法・卒業要件)				20	0		20			
地域福祉学	地域理学療法学	講義	2期	2	2	15		必修4単位		
	生活福祉論	演習	2期	1	1	30		必修4単位		
	老年期理学療法学	演習	3期	1	1	30		必修4単位		
	小計				4	0		4		
	計(履修方法・卒業要件)				4	0		4		
	総合実習	理学療法臨床推論概論	講義	2期	1	1	15		必修15単位以上	
		理学療法臨床推論演習	演習	3期	1	1	30		必修15単位以上	
		総合リハビリテーションIPW演習	演習	3期	1	1	30		必修15単位以上	
		理学療法特論Ⅰ	演習	3期	1	1	30		必修15単位以上	
		理学療法特論Ⅱ	演習	4期	1	1	30		必修15単位以上	
		理学療法特論Ⅲ	演習	4通	2	2	30		必修15単位以上	
		運動器系理学療法セミナー	演習	4通	1	1	30		必修15単位以上	
		神経系理学療法セミナー	演習	4通	1	1	30		必修15単位以上	
		内臓器系理学療法セミナー	演習	4通	1	1	30		必修15単位以上	
		地域理学療法セミナー	演習	4通	1	1	30		必修15単位以上	
高齢期リハビリテーション概論		講義	4期	1	1	15		必修15単位以上		
高齢期リハビリテーション実習		演習	3期	1	1	15		必修15単位以上		
高齢期リハビリテーション特論		演習	3期	1	1	15		必修15単位以上		
小児リハビリテーション概論		講義	2期	1	1	15		必修15単位以上		
小児リハビリテーション演習		演習	3期	1	1	15		必修15単位以上		
小児リハビリテーション特論	講義	2期	1	1	15		必修15単位以上			
精神・心理リハビリテーション概論	講義	3期	1	1	15		必修15単位以上			
精神・心理リハビリテーション演習	演習	3期	1	1	15		必修15単位以上			
精神・心理リハビリテーション特論	演習	3期	1	1	15		必修15単位以上			
小計				5	15		6			
計(履修方法・卒業要件)				5	1		6			
臨床実習	卒業研究Ⅰ	演習	3通	2	2	30		必修4単位		
	卒業研究Ⅱ	演習	4通	2	2	30		必修4単位		
	小計				4	0		4		
	計(履修方法・卒業要件)				4	0		4		
	臨床実習	臨床見学実習	実習	1期	1	1	45		必修21単位	
		検査測定実習	実習	2期	1	1	45		必修21単位	
		臨床評価実習	実習	3期	4	4	45		必修21単位	
		地域理学療法実習	実習	準4期	1	1	45		必修21単位	
		臨床総合実習Ⅰ	実習	4期	7	7	45		必修21単位	
		臨床総合実習Ⅱ	実習	4期	7	7	45		必修21単位	
		小計				21	0		21	
		計(履修方法・卒業要件)				21	0		21	
		開講科目合計				120	61		181	
		卒業要件(最低必要単位数)				120	6		126	

VI 履修案内

保健医療学部 作業療法学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

VI 履修案内

区分	授業科目	授業形態	配当 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件				
				必修	選択					
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1期	2	15				
		物理学	講義	1後	2	15				
		生物学	講義	1期	2	15				
		化学	講義	2	2	15				
		情報処理	演習	1前	2	15				
	統計学	演習	3後	2	15					
	小計			2	10					
	人間理解と社会	心理学	講義	1期	2	15	必修1 2単位 +選択 2単位 以上			
		生命倫理学	講義	1後	2	15				
		哲学	講義	1後	2	15				
		社会福祉学	講義	1後	2	15				
		日本国憲法	講義	1後	2	15				
		東洋史概説	講義	3期	2	15				
	西洋史概説	講義	3期	2	15					
	小計			6	8					
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15	必修 5単位 +選択 2単位 以上				
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15					
	英会話	演習	2前	2	15					
	医学英語	演習	2後	2	15					
	基礎英語演習	演習	2前	2	15					
応用英語演習	演習	2後	2	15						
小計			4	8						
計(履修方法・卒業要件)			12	2	14					
学部共通科目群	保健医療	MBS(Morinomya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修 5単位 +選択 2単位 以上			
		チーム医療見学実習	演習	1前	1	15				
		医療コミュニケーション	講義	2前	1	15				
		チーム医療論	演習	2後	1	30				
		IPW論	演習	3期	1	15				
		基礎体育	演習	1期	1	30				
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15				
		健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15				
		健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15				
		栄養学	講義	2後	2	15				
		身体運動科学	講義	2後	2	15				
		東洋医療概論	講義	3期	2	15				
		統合医療概論	講義	3期	2	15				
		小計			5	15				
		計(履修方法・卒業要件)			5	2		7		
専門基礎科目群	人体の構造と機能及び 身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1前	1	30	必修 15単位 +選択 5単位 以上			
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1後	1	30				
		人体の構造Ⅰ(神経系)	講義	1後	2	15				
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1後	2	15				
		人体の構造実習	実習	2後	1	30				
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1前	2	15				
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1後	2	15				
		基礎運動学	講義	1後	2	30				
		臨床運動学	演習	2前	2	30				
		小計			15	0				
		計(履修方法・卒業要件)			15	0		15		
		学科専門科目群	臨床実習	リハビリテーション概論	講義	1期		2	15	必修 21単位 +選択 2単位 以上
				公衆衛生学	講義	1後		2	15	
				生化学	講義	2前		2	15	
				病理学	講義	2前		2	15	
臨床病態学Ⅰ	講義			2後	2	15				
臨床病態学Ⅱ	講義			2後	2	15				
臨床病態学Ⅲ	講義			2後	2	15				
整形外科学	講義			2後	2	15				
小児科学(人間発達学)	講義			2前	2	15				
精神医学	講義			2前	2	15				
精神医学各論	講義			2後	2	15				
臨床心理学	講義			2後	1	30				
リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	講義			3期	1	30				
医療関係法規論	講義			2前	2	15				
チームリハビリテーション概論	講義			2前	1	30				
介護学概論・ボランティア活動論	講義	2後	2	15						
スポーツ医学	演習	3期	1	30						
小計			21	9						
計(履修方法・卒業要件)			21	2	23					

区分	授業科目	授業形態	配当 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件		
				必修	選択			
基礎法学	基礎作業学	基礎作業学	演習	1前	2	30	6単位 必修	
		作業科学入門	講義	1後	2	15		
		作業療法概論	講義	1後	2	15		
	小計			6	0			
	計(履修方法・卒業要件)			6	0	6		
	作業療法	職場管理(教育を含む)	職場管理	講義	3後	1	15	2単位 必修
			職業倫理	講義	3後	1	15	
			小計			2	0	
	計(履修方法・卒業要件)			2	0	2		
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	作業療法評価学総論	講義	1後	2	15	必修 7単位
			身体障害作業療法評価学	演習	2前	2	30	
			精神障害作業療法評価学	演習	2後	1	30	
			発達障害作業療法評価学	演習	2後	1	30	
			高次脳機能障害作業療法評価学	演習	2後	1	30	
	小計			7	0			
計(履修方法・卒業要件)			7	0	7			
作業療法治療学	作業療法治療学	日常生活活動学	講義	1後	2	15	必修 16単位 +選択 10単位 以上	
		身体障害作業療法治療学総論	講義	3期	2	15		
		精神障害作業療法治療学総論	講義	3期	2	15		
		高齢障害作業療法治療学総論	講義	3期	2	15		
		発達障害作業療法治療学総論	講義	3期	2	15		
		身体障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	30		
		精神障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	30		
		発達障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15		
		高齢障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15		
		義肢装具学	演習	2後	1	30		
		作業療法特論Ⅰ	演習	4後	1	30		
		作業療法特論Ⅱ	演習	4後	1	30		
		身体障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30		
		精神障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30		
		発達障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30		
高齢障害作業療法治療学演習	演習	3期	1	30				
総合リハビリテーションIPW演習	演習	3期	1	30				
小計			18	4				
計(履修方法・卒業要件)			18	1	19			
地域作業療法	地域作業療法	地域作業療法	講義	3期	2	15	4単位 必修	
		生活環境	演習	3期	1	30		
		障害者地域生活支援論	演習	3後	1	30		
小計			4	0				
計(履修方法・卒業要件)			4	0	4			
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3通	2	30	選択 2単位 + 5単位 以上	
		卒業研究Ⅱ(身体障害)	演習	4通	2	30		
		卒業研究Ⅱ(精神障害)	演習	4通	2	30		
		卒業研究Ⅱ(高齢障害・地域)	演習	4通	2	30		
		卒業研究Ⅱ(発達障害)	演習	4通	2	30		
		小計			2	8		
計(履修方法・卒業要件)			2	2	4			
臨床実習	臨床実習	臨床実習	実習	1前	2	45	必修 25単位 + 5単位 以上	
		臨床検査実習	実習	2後	2	45		
		地域作業療法実習	実習	4後	1	45		
		臨床評価実習	実習	3通	4	45		
		臨床総合実習	実習	4期	16	45		
小計			25	0				
計(履修方法・卒業要件)			25	0	25			
開講単位合計			117	62	179			

卒業要件(最低必要単位数) 117 9 126

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 1 単位数 あたりの 時間数		
				必修	選択			
科学的思想	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修 1 2 単位 + 選択 2 単位 以上		
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	1前	2	15			
	情報処理	演習	1前	2	15			
	統計学	演習	3後	2	15			
	小計			2	10			
	人間理解と社会	心理学	講義	1後	2		15	
		生命倫理学	講義	1後	2		15	
		哲学	講義	1後	2		15	
		社会福祉学	講義	1後	2		15	
		日本国憲法	講義	1後	2		15	
		東洋史概説	講義	3前	2		15	
		西洋史概説	講義	3前	2		15	
	小計			6	8			
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
	英会話	演習	2前	2	15			
	医学英語	演習	2後	2	15			
	基礎英語演習	演習	2前	2	15			
応用英語演習	演習	2後	2	15				
小計			4	8				
	計(履修方法・卒業要件)			12	2			
保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修 5 単位 + 選択 2 単位 以上		
	チーム医療見学実習	演習	1前	1	15			
	健康コミュニケーション	講義	2前	1	15			
	チーム医療論	演習	2後	1	30			
	IPW論	演習	3前	1	15			
	基礎体育	演習	1前	1	30			
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	2前	2	15			
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	栄養学	講義	2後	2	15			
	身体運動科学	講義	2後	2	15			
	東洋医療概論	講義	3前	2	15			
	統合医療概論	講義	3前	2	15			
	小計			5	15			
	計(履修方法・卒業要件)			5	2			
心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1前	1	30	必修 1 5 単位		
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1後	1	30			
	人体の構造Ⅰ(神経系)	講義	1前	2	15			
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1後	2	15			
	人体の構造実習	実習	2後	1	30			
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1前	2	15			
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1後	2	15			
	基礎運動学	演習	1後	2	30			
	臨床運動学	演習	2前	2	30			
	小計			15	0			
	計(履修方法・卒業要件)			15	0			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	講義	1前	2	15	必修 2 1 単位 + 選択 2 単位 以上		
	公衆衛生学	講義	1後	2	15			
	生化学	講義	2前	2	15			
	病理学	講義	2前	2	15			
	臨床病態学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	臨床病態学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	臨床病態学Ⅲ	講義	2後	2	15			
	整形外科学	講義	2後	2	15			
	小児科学(人間発達学)	講義	2前	2	15			
	精神医学	講義	2前	2	15			
	精神医学各論	講義	2後	2	15			
	臨床心理学	講義	2後	1	30			
	リハビリテーション医学(臨床診断・予防・栄養含む)	講義	3前	1	30			
	医療関係法規論	講義	2前	2	15			
	チームリハビリテーション概論	講義	2前	1	30			
	介護学概論・ボランティア活動論	講義	2後	2	15			
	スポーツ医学	演習	3前	1	30			
	小計			21	9			
		計(履修方法・卒業要件)			21		2	

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 1 単位数 あたりの 時間数		
				必修	選択			
基礎作業学	基礎作業学	演習	1前	2	30	必修 6 単位		
	作業科学入門	講義	1前	2	15			
	作業療法概論	講義	1後	2	15			
	小計			6	0			
		計(履修方法・卒業要件)			6		0	
	管理療法	職場管理(教育を含む)	講義	3後	1		15	必修 2 単位
		職業倫理	講義	3後	1		15	
		小計			2		0	
		計(履修方法・卒業要件)			2		0	
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	講義	1後	2		15	必修 7 単位
身体障害作業療法評価学		演習	2前	2	30			
精神障害作業療法評価学		演習	2後	1	30			
発達障害作業療法評価学		演習	2後	1	30			
高次脳機能障害作業療法評価学		演習	2後	1	30			
小計				7	0			
		計(履修方法・卒業要件)			7	0		
作業療法治療学		日常生活活動学	講義	1後	2	15	必修 1 8 単位 + 選択 1 1 単位	
		身体障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15		
		精神障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15		
	高齢期障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15			
	発達障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15			
	身体障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	30			
	精神障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	30			
	高齢期障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15			
	発達障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15			
	義肢装具学	演習	2後	1	30			
	作業療法特論Ⅰ	演習	4後	1	30			
	作業療法特論Ⅱ	演習	4後	1	30			
	身体障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30			
	精神障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30			
	高齢期障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30			
	発達障害作業療法治療学演習	演習	3前	1	30			
	総合リハビリテーションIPW演習	演習	3前	1	30			
	小計			18	4			
		計(履修方法・卒業要件)			18	1		
地域作業学	地域作業療法支	講義	3前	2	15	必修 4 単位		
	生活環境学	演習	3前	1	30			
	障害者地域生活支援論	演習	3後	1	30			
	小計			4	0			
	計(履修方法・卒業要件)			4	0			
卒業研究	卒業研究Ⅰ(身体障害)	演習	3通	2	30	選択 2 単位 + 1 単位		
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	演習	4通	2	30			
	卒業研究Ⅲ(精神障害)	演習	4通	2	30			
	卒業研究Ⅳ(高齢期障害・地域)	演習	4通	2	30			
	卒業研究Ⅴ(発達障害)	演習	4通	2	30			
	小計			2	8			
	計(履修方法・卒業要件)			2	2			
臨床実習	臨床見学実習	実習	1前	2	45	必修 2 5 単位		
	臨床検査実習	実習	2後	2	45			
	地域作業療法実習	実習	3前	4	45			
	臨床評価実習	実習	3後	4	45			
	臨床総合実習	実習	4前	16	45			
	小計			25	0			
		計(履修方法・卒業要件)			25		0	
	開講単位数合計			117	62			
	卒業要件(最低必要単位数)			117	9			

VI
履修案内

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 授業科目・単位数 (2024年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件		
				必修	選択			
科学的思想	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修1 2単位 + 選択 2単位 以上		
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	1前	2	15			
	情報処理	演習	1前	2	15			
	統計学	演習	3後	2	15			
	小計			2	10			
	人間理解と社会	心理学	講義	1後	2		15	必修1 2単位 + 選択 2単位 以上
		生命倫理学	講義	1後	2		15	
		哲学	講義	1後	2		15	
社会福祉学		講義	1後	2	15			
日本憲法		講義	1後	2	15			
東洋史概説		講義	3前	2	15			
西洋史概説	講義	3前	2	15				
小計			6	8				
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15	必修1 7単位 + 選択 1単位 以上		
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
	英会話	演習	2前	2	15			
	医学英語	演習	2後	2	15			
	基礎英語演習	演習	2前	2	15			
	応用英語演習	演習	2後	2	15			
小計			4	8				
	計(履修方法・卒業要件)		12	2		14		
保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修5 単位 + 選択 2単位 以上		
	チーム医療見学実習	演習	1前	1	15			
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15			
	チーム医療論	演習	2後	1	30			
	IPW論	演習	3前	1	15			
	基礎体育	演習	1前	1	30			
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15			
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	栄養学	講義	2後	2	15			
	身体運動科学	講義	2後	2	15			
	東洋医療概論	講義	3前	2	15			
	統合医療概論	講義	3前	2	15			
	小計			5	15			
	計(履修方法・卒業要件)		5	2		7		
人間の構造と機能及び 心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	演習	1前	1	30	必修1 5単位		
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	演習	1後	1	30			
	人体の構造Ⅰ(神経系)	講義	1前	2	15			
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	講義	1後	2	15			
	人体の構造実習	実習	2後	1	30			
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	講義	1前	2	15			
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	講義	1後	2	15			
	基礎運動学	講義	2後	2	30			
	臨床運動学	演習	2前	2	30			
	小計			15	0			
	計(履修方法・卒業要件)		15	0		15		
基礎と臨床の 成り立ち及び 回復過程の促進	リハビリテーション概論	講義	1前	2	15	必修2 1単位 + 選択 2単位 以上		
	公衆衛生学	講義	1後	2	15			
	生化学	講義	2前	2	15			
	病理学	講義	2前	2	15			
	臨床病態学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	臨床病態学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	臨床病態学Ⅲ	講義	2後	2	15			
	整形外科学	講義	2後	2	15			
	小児科学(人間発達学)	講義	2前	2	15			
	精神医学	講義	2前	2	15			
	精神医学各論	講義	2後	2	15			
	臨床心理学	講義	2後	1	30			
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	講義	3前	1	30			
	医療関係法規論	講義	2前	2	15			
	チームリハビリテーション概論	講義	2前	1	30			
	介護学概論・ボランティア活動論	講義	2後	2	15			
	スポーツ医学	演習	3前	1	30			
	小計			21	9			
		計(履修方法・卒業要件)		21	2			23

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件			
				必修	選択				
基礎作業学	基礎作業学	演習	1前	2	30	6単位 必修			
	作業科学入門	演習	1前	2	15				
	作業療法概論	講義	1後	2	15				
	小計			6	0				
	計(履修方法・卒業要件)			6	0		6		
	作業療法	職場管理(教育を含む)	講義	3後	1		15	2単位 必修	
		職業倫理	講義	3後	1		15		
		小計			2		0		
		計(履修方法・卒業要件)			2		0		2
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	講義	1後	2		15	必修7 単位	
身体障害作業療法評価学		演習	2前	2	30				
精神障害作業療法評価学		演習	2後	1	30				
発達障害作業療法評価学		演習	2後	1	30				
高次脳機能障害作業療法評価学		演習	2後	1	30				
小計				7	0				
計(履修方法・卒業要件)				7	0	7			
作業療法治療学		日常生活活動学	講義	1後	2	15	必修1 7単位 + 選択 1単位 以上		
		身体障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15			
		精神障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15			
	高齡障害作業療法治療学総論	講義	3前	2	15				
	発達障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	30				
	精神障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15				
	発達障害作業療法治療学各論	講義	3後	1	15				
	義肢装具学	演習	2後	1	30				
	作業療法特論Ⅰ	演習	4後	1	30				
	作業療法特論Ⅱ	演習	4後	1	30				
	身体障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30				
	精神障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30				
	高齡障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30				
	発達障害作業療法治療学演習	演習	3後	1	30				
小計			17	4					
	計(履修方法・卒業要件)		17	1		18			
地域作業学	地域作業療法学	講義	3前	2	15	4単位 必修			
	生活環境論	演習	3前	1	30				
	障害者地域生活支援論	演習	3後	1	30				
	小計			4	0				
	計(履修方法・卒業要件)		4	0		4			
総合領域	総合リハビリテーションIPW演習	演習	3前	1	30	必修 2単位 以上			
	高齡リハビリテーション概論	講義	2後	1	15				
	高齡リハビリテーション演習	演習	3前	1	15				
	高齡リハビリテーション特論	演習	2後	1	15				
	小児リハビリテーション概論	講義	2後	1	15				
	小児リハビリテーション演習	演習	3前	1	15				
	小児リハビリテーション特論	演習	2後	1	15				
	精神・心理リハビリテーション概論	講義	2後	1	15				
	精神・心理リハビリテーション演習	演習	3前	1	15				
	精神・心理リハビリテーション特論	演習	3後	1	15				
小計			1	9					
	計(履修方法・卒業要件)		1	0		1			
卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3過	2	30	必修2 単位 以上			
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	演習	4過	2	30				
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	演習	4過	2	30				
	卒業研究Ⅱ(高齡障害・地域)	演習	4過	2	30				
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	演習	4過	2	30				
	小計			2	8				
	計(履修方法・卒業要件)		2	2		4			
臨床実習	臨床見学実習	実習	1前	2	45	必修2 5単位			
	臨床検査実習	実習	2後	2	45				
	地域作業療法実習	実習	4後	1	45				
	臨床評価実習	実習	3過	4	45				
	臨床総合実習	実習	4前	16	45				
小計			25	0					
	計(履修方法・卒業要件)		25	0		25			
	開講単位合計		117	71		188			
	卒業要件(最低必要単位数)		117	9		126			

総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科 授業科目・単位数 (2024年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	紀年次	必修	選択	単位数	履修方法及び単位数		
							1単位未満の単位数	1単位以上の単位数	
科学の思考	基礎ゼミナール	演習	1期	2	15				
	物理学	講義	1後	2	15				
	生物学	講義	1期	2	15				
	化学	講義	1期	2	15				
	情報処理	演習	1期	2	15				
	統計学	演習	3期	2	15				
	心理学	講義	1期	2	15				
	生命倫理学	講義	1後	2	15				
	哲学	講義	1期	2	15				
	社会学	講義	1後	2	15				
人間理解と社会	社会福祉学	講義	1後	2	15				
	日本国憲法	講義	1後	2	15				
	東洋史概説	講義	3期	2	15				
	西洋史概説	講義	3期	2	15				
	英語Ⅰ(初級)	演習	1期	2	15				
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15				
	会話英語	演習	2期	2	15				
	医学英語	演習	2後	2	15				
	基礎英語演習	演習	2後	2	15				
	応用英語演習	演習	2後	2	15				
小計			18	20					
計(履修方法・卒業要件)			18	2			20		
保健医療	MBS(Morimoto Basic Seminar)	講義	1期	1	15				
	チーム医療見学実習	演習	1期	1	15				
	医療コミュニケーション	講義	2期	1	15				
	チーム医療論	演習	2後	1	30				
	IPW論	演習	3期	1	15				
	基礎体育	演習	1後	2	30				
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1期	2	15				
	健康科学Ⅰ	講義	2期	2	15				
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15				
	栄養学	講義	2後	2	15				
身体運動科学	講義	2期	2	15					
東洋医療概論	講義	3期	2	15					
統合医療概論	講義	3期	2	15					
小計			7	14					
計(履修方法・卒業要件)			7	2			9		
共通科目	英語学	講義	1後	2	15				
	音楽学	講義	1後	2	15				
	音響学(聴覚心理学を含む)	講義	1後	2	15				
	小計			6	0				
	計(履修方法・卒業要件)			6	0			6	
	専門基礎科目	医学総論	講義	1期	1	15			
		人体の構造Ⅰ	講義	1後	2	15			
		人体の構造Ⅱ	講義	1後	2	15			
		人体の機能Ⅰ	講義	1期	2	15			
		人体の機能Ⅱ	講義	1後	2	15			
病理学		講義	2後	1	30				
臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)		講義	2期	1	30				
臨床病態学Ⅱ		講義	2後	1	30				
臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)		講義	3期	1	30				
耳鼻咽喉科学		講義	2後	1	30				
臨床歯科医学(口腔外科学を含む)	講義	2後	1	30					
音楽・言語・聴覚医学	講義	1期	3	15					
言語発達学	講義	1後	1	15					
リハビリテーション医学(臨床診断・予防・栄養含む)	講義	3期	2	15					
チームリハビリテーション概論	講義	2期	1	30					
小計			22	0					
計(履修方法・卒業要件)			22	0			22		
心の働き	臨床心理学	講義	2期	2	15				
	学習・認知心理学	講義	3期	2	15				
	心理測定法	講義	3期	1	15				
	発達心理学	講義	1後	2	15				
	小計			7	0				
	計(履修方法・卒業要件)			7	0			7	
	社会福祉とリハビリ	医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)	講義	2期	1	15			
		リハビリテーション概論	講義	1期	1	15			
		小計			2	0			
		計(履修方法・卒業要件)			2	0			2

区分	授業科目	授業形態	紀年次	必修	選択	単位数	履修方法及び単位数		
							1単位未満の単位数	1単位以上の単位数	
言語聴覚障害者学総論	言語聴覚障害者学概論Ⅰ	講義	1期	1	30				
	言語聴覚障害者学概論Ⅱ	講義	1後	1	30				
	言語聴覚障害者学セミナー	演習	3後	1	30				
	言語聴覚障害者学特論Ⅰ	演習	4後	1	30				
	言語聴覚障害者学特論Ⅱ	演習	4後	1	30				
	総合リハビリテーションIPW演習	演習	4期	1	30				
	小計			5	1				
	計(履修方法・卒業要件)			5	0			5	
	失語・高次脳機能障害者学総論	失語・高次脳機能障害者学概論	講義	2期	2	15			
		失語症学演習	演習	2後	1	30			
高次脳機能障害者学演習		演習	2後	1	30				
失語・高次脳機能障害者学演習Ⅰ		演習	2後	1	30				
失語・高次脳機能障害者学演習Ⅱ		演習	4期	1	30				
小計				7	0				
計(履修方法・卒業要件)				7	0			7	
言語発達障害者学		言語発達障害者学Ⅰ	講義	2期	2	15			
		言語発達障害者学Ⅱ	講義	2後	2	15			
		言語発達障害者学演習Ⅰ	演習	2後	1	30			
	言語発達障害者学演習Ⅱ	演習	3期	1	30				
	小計			6	0				
	計(履修方法・卒業要件)			6	0			6	
	発声発語・嚥下障害者学	発声発語・嚥下障害者学Ⅰ	講義	1後	1	30			
		発声発語・嚥下障害者学Ⅱ	講義	2期	1	30			
		発声発語・嚥下障害者学Ⅲ	講義	2後	2	15			
		音聲障害学	講義	2後	1	15			
吃音学		講義	3期	1	15				
発声発語・嚥下障害者学演習Ⅰ		演習	2期	1	30				
発声発語・嚥下障害者学演習Ⅱ		演習	3期	1	30				
発声発語・嚥下障害者学演習Ⅲ		演習	3後	1	30				
小計				9	0				
計(履修方法・卒業要件)				9	0			9	
聴覚障害者学	聴覚障害者学Ⅰ	講義	1後	1	30				
	聴覚障害者学Ⅱ	講義	2期	1	30				
	聴覚障害者学Ⅲ	講義	2後	1	30				
	聴覚障害者学Ⅳ	講義	3期	1	30				
	聴覚障害者学演習Ⅰ	演習	1後	1	30				
	聴覚障害者学演習Ⅱ	演習	2期	1	30				
	聴覚障害者学演習Ⅲ	演習	2後	1	30				
	小計			7	0				
	計(履修方法・卒業要件)			7	0			7	
	臨床実習	臨床実習基礎セミナー	実習	2期	1	30			
臨床実習基礎演習		実習	3期	1	30				
臨床実習Ⅰ(見学実習)		実習	2後	2	45				
臨床実習Ⅱ(評価実習)		実習	3通	5	45				
臨床実習Ⅲ(総合実習)		実習	4期	8	45				
小計				17	0				
計(履修方法・卒業要件)				17	0			17	
総合演習		高齢期リハビリテーション概論	講義	2後	1	15			
		高齢期リハビリテーション演習	演習	3期	1	15			
		高齢期リハビリテーション特論	演習	3後	1	15			
	小児リハビリテーション概論	講義	2後	1	15				
	小児リハビリテーション演習	演習	3期	1	15				
	小児リハビリテーション特論	演習	3後	1	15				
	精神・心理リハビリテーション概論	講義	2後	1	15				
	精神・心理リハビリテーション演習	演習	2期	1	15				
	精神・心理リハビリテーション特論	演習	2後	1	15				
	小計			0	0				
計(履修方法・卒業要件)			0	0			0		
卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習	3通	2	30				
	卒業研究Ⅱ	演習	4通	2	30				
	小計			4	0				
	計(履修方法・卒業要件)			4	0			4	
	選択必修	言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害者学)	演習	4通	2	30			
		言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害者学)	演習	4通	2	30			
		言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害者学)	演習	4通	2	30			
		言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害者学)	演習	4通	2	30			
		言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代弁コミュニケーション)	演習	4通	1	15			
		小計			0	9			
計(履修方法・卒業要件)				0	8			8	

卒業要件単位数(最低単位数) 117 12 129

VI 履修案内

保健医療学部 臨床検査学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 1単位あたりの 時間数	履修方法及び 1単位あたりの 時間数		
				必修	選択				
科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15				
	物理学	講義	1後	2	15				
	生物学	講義	1前	2	15				
	化学	講義	1後	2	15				
	情報処理	演習	1前	2	15				
	統計学	演習	1後	2	15				
	小計			8	4				
	人間理解と社会	心理学	講義	1前	2	15		必修 14 単位 + 選択 2 単位 以上	
		生命物理学	講義	1後	2	15			
		哲学	講義	1後	2	15			
社会福祉学		講義	1後	2	15				
日本国憲法		講義	1後	2	15				
東洋史概説		講義	3前	2	15				
西洋史概説		講義	3後	2	15				
小計				2	12				
語学		英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15			必修 5 単位 + 選択 3 単位 以上
		英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15			
	英会話	演習	2前	2	15				
	医学英語	演習	2後	2	15				
	基礎英語演習	演習	2前	2	15				
	応用英語演習	演習	2後	2	15				
	小計			4	8				
	計(履修方法・卒業要件)			14	2		16		
	保健医療	MBS(Morimoto's Basic Seminar)	講義	1前	1	15		必修 5 単位 + 選択 3 単位 以上	
		チーム医療見学実習	演習	1前	1	15			
医療コミュニケーション		講義	2前	1	15				
チーム医療論		演習	2後	1	30				
IPW論		演習	3前	1	15				
基礎体育		演習	1後	1	30				
健康科学(スポーツ社会学を含む)		講義	1前	2	15				
健康管理学Ⅰ		講義	2前	2	15				
健康管理学Ⅱ		講義	2後	2	15				
栄養学		講義	2後	2	15				
身体運動科学	講義	2後	2	15					
東洋医学概論	講義	3前	2	15		必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上			
統合医療概論	講義	3前	2	15					
小計			5	15					
計(履修方法・卒業要件)			5	3			8		
人間の構造と機能	人間の機能Ⅰ	講義	1前	2	15			必修 2 7 単位 + 選択 2 単位 以上	
	人間の機能Ⅱ	講義	1後	2	15				
	人間の構造実習	実習	1前	1	30				
	人間の機能Ⅰ	講義	1前	2	15				
	人間の機能Ⅱ	講義	1後	2	15				
	生化学	講義	1前	2	15				
	生化学特論	講義	1後	2	15				
	生化学実習	実習	2前	1	30				
	分析化学	講義	1後	2	15				
	小児医学	講義	2前	2	15				
老年医学	講義	2前	2	15					
救急医療学	講義	2後	2	15					
実習学	講義	2後	2	15					
リハビリテーション概論	講義	3前	2	15					
臨床検査学総論	講義	1前	2	15					
検査技術科学序論	講義	1後	2	15					
病理学	講義	2前	2	15					
健康医療福祉と	医学概論	講義	1前	2	15				
公衆衛生学	講義	1前	2	15					
工学医療	医用工学概論	講義	2前	2	15				
医用工学実習	実習	2後	1	30					
小計			27	12					
計(履修方法・卒業要件)			27	2		29			

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 1単位あたりの 時間数	履修方法及び 1単位あたりの 時間数
				必修	選択		
臨床検査学	臨床病態学Ⅰ	講義	2前	2	15		必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上
	臨床病態学Ⅱ	講義	2後	2	15		
	血液検査学Ⅰ	講義	2前	2	15		
	血液検査学Ⅱ	講義	2後	2	15		
	血液検査学実習	実習	3前	1	30		
	病理検査学	講義	3前	2	15		
	病理検査学実習	実習	3前	1	30		
	一般検査学	演習	2前	1	30		
	臨床化学検査学Ⅰ(放射性同位元素を含む)	講義	2前	2	15		
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素を含む)	講義	2後	2	15		
生物化学分析学	遺伝子検査学	実習	3前	1	30		必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上
	遺伝子検査学実習	実習	2後	2	15		
	遺伝子検査学実習	実習	2後	2	15		
	生命工学概論	講義	2後	1	15		
	微生物検査学Ⅰ	講義	2後	2	15		
	微生物検査学Ⅱ	講義	2前	2	15		
	微生物検査学実習	実習	2後	1	30		
	寄生虫検査学	演習	3前	1	15		
	免疫検査学Ⅰ	講義	2前	2	15		
	免疫検査学Ⅱ	講義	2後	2	15		
免疫検査学実習	実習	3前	1	30			
輸血・移植検査学実習	講義	2後	2	15			
輸血・移植検査学実習	実習	3前	1	30			
生体調節検査学	生理機能検査学Ⅰ	講義	1前	2	15		必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上
	生理機能検査学Ⅱ	講義	2前	2	15		
	生理機能検査学実習Ⅰ	実習	2前	1	30		
	生理機能検査学実習Ⅱ	実習	2後	1	30		
	薬理検査学	講義	3前	2	15		
	超音波検査学Ⅰ	演習	3前	1	30		
	超音波検査学Ⅱ	演習	3前	1	30		
	検査総合管理学	講義	3後	2	15		
	医療情報科学	講義	3後	2	15		
	関係法規	講義	3後	1	15		
検査総合管理	医療安全管理学	講義	3後	1	15		必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上
	臨床薬理学	講義	3前	2	15		
	食品衛生学	講義	3後	1	15		
	食品関係法規	講義	3後	1	15		
	総合演習Ⅰ	演習	4通	2	30		
	総合演習Ⅱ	演習	4通	2	30		
	総合演習Ⅲ	演習	4通	2	30		
	卒業研究Ⅰ	演習	3通	2	30		
	卒業研究Ⅱ	演習	4通	2	30		
	実習	臨床実習	実習	3後	7	45	
臨床細胞学概論		講義	2前	1	30		
臨床細胞学実習Ⅰ		演習	2後	1	30		
臨床細胞学実習Ⅱ		演習	3前	1	30		
臨床細胞学総論Ⅰ		演習	3前	1	30		
臨床細胞学総論Ⅱ		演習	3前	1	30		
臨床細胞学各論Ⅰ		演習	3後	1	30		
臨床細胞学各論Ⅱ		演習	3後	1	30		
臨床細胞学各論Ⅲ		演習	3後	1	30		
細胞診断学実習Ⅰ		実習	4前	3	45		
細胞診断学実習Ⅱ	実習	4前	3	45			
細胞診断学実習Ⅲ	実習	4後	3	45			
細胞診断学特別実習Ⅰ	実習	4通	3	45			
細胞診断学特別実習Ⅱ	実習	4通	3	45			
小計			69	27			
計(履修方法・卒業要件)			69	2		71	
計(履修方法・卒業要件)			115	78		193	
卒業要件(必修必要単位数)							124

医療技術学部 臨床検査学科 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	担当	必修	選択	単位数	1単位取得率の目安	履修方針及び備考	
科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15				
	物理学	講義	1後	2	15				
	生物学	講義	1前	2	15				
	化学	講義	1前	2	15				
	情報処理	演習	1前	2	15				
	統計学	演習	1後	2	15				
	小計			6	6				
	人間理解と社会	心理学	講義	1前	2	15			
		生命倫理学	講義	1後	2	15			
		哲学	講義	1後	2	15			
社会福祉学		講義	1後	2	15				
日本国憲法		講義	1後	2	15				
東洋史概説		講義	3前	2	15				
西洋史概説	講義	3後	2	15					
小計			0	14					
語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15				
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15				
	英会話	演習	2前	2	15				
	英学英語	演習	2後	2	15				
	基礎英語演習	演習	3前	2	15				
	応用英語演習	演習	3後	2	15				
小計			4	8					
計(履修方法・卒業要件)						10	2	12	
共通科目	MBS(Morinomya Basic Seminar)	講義	1前	1	15				
	チーム医療実学実習	演習	1前	1	15				
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15				
	チーム医療論	演習	2後	1	30				
	PW論	演習	3前	1	15				
	基礎体育	演習	1後	1	30				
	健康科学(スポーツ社会学含む)	講義	2前	2	15				
	健康管理学Ⅰ	講義	2後	2	15				
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15				
	栄養学	講義	2後	2	15				
	身体運動科学	講義	2後	2	15				
	臨床医療概論	講義	3前	2	15				
	統合医療概論	講義	3後	2	15				
	小計			5	15				
	計(履修方法・卒業要件)						5	2	7
学科専門科目	人体の構造Ⅰ	講義	1後	2	15				
	人体の構造Ⅱ	講義	1後	2	15				
	人体の構造実習	実習	1後	1	30				
	人体の機能Ⅰ	講義	1前	2	15				
	人体の機能Ⅱ	講義	1後	2	15				
	生化学	講義	1前	2	15				
	生化学特論	講義	1後	2	15				
	生化学実習	実習	2前	1	30				
	分析化学	講義	1後	2	15				
	小実習学	講義	2前	2	15				
	老年医学	講義	2前	2	15				
	救急災害医学	講義	2後	2	15				
	薬理学	講義	2後	2	15				
	リハビリテーション概論	講義	3前	2	15				
	臨床検査学概論	講義	1前	2	15				
	検査技術科学序論	講義	1後	2	15				
	生命工学概論	講義	2後	1	15				
	臨床検査学	講義	1前	2	15				
	公衆衛生学	講義	2前	2	15				
	工学概論	講義	2後	2	15				
	医用工学概論	講義	2後	2	15				
	医用工学実習	実習	1	1	30				
	小計			16	12				
	計(履修方法・卒業要件)						26	2	28

区分	授業科目	授業形態	担当	必修	選択	単位数	1単位取得率の目安	履修方針及び備考	
基礎生物学	病態生理学	講義	1後	1	15				
	臨床病態学Ⅰ	講義	2前	2	15				
	臨床病態学Ⅱ	講義	2後	2	15				
	血液検査学Ⅰ	講義	2前	2	15				
	血液検査学Ⅱ	講義	2後	2	15				
	血液検査学実習	実習	3前	1	30				
	病理学	講義	2前	2	15				
	病理検査学	講義	3前	2	15				
	病理検査学実習	実習	3前	1	30				
	免疫学の検査	臨床化学検査学Ⅰ(放射性同位元素学含む)	講義	2前	2	15			
臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)		講義	2後	2	15				
臨床化学検査学実習		実習	3前	2	15				
免疫検査学		講義	2後	2	15				
免疫検査学実習		実習	3前	1	30				
遺伝子検査学		臨床化学検査学Ⅰ	講義	2前	2	15			
		遺伝子検査学	講義	2後	2	15			
		遺伝子検査学実習	実習	2後	1	30			
		輸血・移植検査学Ⅰ	講義	2後	2	15			
		輸血・移植検査学Ⅱ	講義	2後	2	15			
	輸血・移植検査学実習	実習	3前	1	30				
	微生物検査学Ⅰ	講義	1後	2	15				
	微生物検査学Ⅱ	講義	2前	2	15				
	微生物検査学実習	実習	2後	1	30				
	衛生微生物学	講義	1前	1	15				
生理学的検査	生理機能検査学Ⅰ	講義	1後	2	15				
	生理機能検査学Ⅱ	講義	2前	2	15				
	生理機能検査学実習Ⅰ	実習	2前	1	30				
	生理機能検査学実習Ⅱ	実習	2後	1	30				
	検査学概論	講義	3後	2	15				
	超音波検査学Ⅰ	演習	3前	1	30				
	超音波検査学Ⅱ	演習	3前	1	30				
	検査総合管理学	講義	3後	2	15				
	医療情報科学	講義	3後	2	15				
	医療法規	講義	3後	1	15				
総合検査学	医療安全管理学	講義	3後	2	15				
	臨床薬理学	講義	3前	2	15				
	食品衛生学	講義	3後	1	15				
	食品関係法規	講義	3後	1	15				
	形態系統学特論Ⅰ	演習	4前	1	30				
	形態系統学特論Ⅱ	演習	4後	1	30				
	分析系統学特論Ⅰ	演習	4前	1	30				
	分析系統学特論Ⅱ	演習	4後	1	30				
	生体検査学特論Ⅰ	演習	4前	1	30				
	生体検査学特論Ⅱ	演習	4後	1	30				
研究実習	卒業研究Ⅰ	演習	3後	2	30				
	卒業研究Ⅱ	演習	4後	2	30				
	臨床実習	実習	3後	12	45				
	臨床細胞学概論	講義	2前	1	30				
	臨床細胞学実習Ⅰ	実習	2後	1	30				
	臨床細胞学実習Ⅱ	実習	3前	1	30				
	臨床細胞学総論Ⅰ	演習	3前	1	30				
	臨床細胞学総論Ⅱ	演習	3前	1	30				
	臨床細胞学各論Ⅰ	演習	3後	1	30				
	臨床細胞学各論Ⅱ	演習	3後	1	30				
細胞診断学	臨床細胞学各論Ⅲ	演習	3後	1	30				
	細胞診断学実習Ⅰ	実習	4前	3	45				
	細胞診断学実習Ⅱ	実習	4前	3	45				
	細胞診断学実習Ⅲ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅳ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅴ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅵ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅶ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅷ	実習	4後	3	45				
	細胞診断学実習Ⅷ	実習	4後	3	45				
小計			77	27					
計(履修方法・卒業要件)						77	2	78	
関連単位数合計						118	82	205	

VI
履修案内

保健医療学部 臨床工学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	記号 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件
				必修	選択	
科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修8単位 選択4単位 10単位以上
	物理学	講義	1前	2	15	
	生物学	講義	1前	2	15	
	化学	講義	1前	2	15	
	情報処理	演習	1前	2	15	
	統計学	演習	1後	2	15	
	心理学	講義	1前	2	15	
	生命物理学	講義	1後	2	15	
	哲学	講義	2前	2	15	
	社会福祉学	講義	1前	2	15	
	日本国憲法	講義	1後	2	15	
	東洋史概説	講義	1後	2	15	
	西洋史概説	講義	1後	2	15	
	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15	
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15	
人理解と社会	英会話	演習	2前	2	15	
	医学英語	演習	2後	2	15	
	基礎英語演習	演習	2前	2	15	
	応用英語演習	演習	2後	2	15	
	小計			8	30	
計(履修方法・卒業要件)				8	4	12
学術共通科目群	MBS(Morimotoya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修5単位 選択10単位 4単位以上
	チーム医療学実習	講義	1前	1	15	
	医療コミュニケーション	講義	1前	1	15	
	チーム医療論	演習	2後	1	30	
	IPW論	演習	3前	1	15	
	基礎体育	演習	1	1	30	
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15	
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15	
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15	
	栄養学	講義	1後	2	15	
	身体運動科学	講義	2後	2	15	
	東洋医療概論	講義	3前	2	15	
	統合医療概論	講義	3後	2	15	
	小計			5	15	
	計(履修方法・卒業要件)				5	
及び履修	医学概論	講義	1前	1	15	必修4.4単位
	公衆衛生学	講義	1後	2	15	
	1 人体の構造Ⅰ	講義	1前	2	15	
	2 人体の構造Ⅱ	演習	1後	1	30	
	1 人体の機能Ⅰ	講義	1前	2	15	
	2 人体の機能Ⅱ	演習	1後	1	30	
	生化学	講義	1前	2	15	
	病理学	講義	2前	2	15	
	免疫学	講義	2前	2	15	
	薬理学	講義	2後	2	15	
	看護学概論	講義	2後	1	15	
	基礎医学実習	実習	2後	1	30	
	医用工学	講義	1前	2	15	
	数学演習	演習	1後	1	30	
	応用数学	講義	2前	2	15	
応用物理学	演習	2前	1	30		
応用化学	演習	2前	1	30		
電気工学Ⅰ	講義	1後	2	15		
電気工学Ⅱ	講義	1後	2	15		
電気工学実習	実習	2前	1	30		
電子工学Ⅰ	講義	2前	2	15		
電子工学Ⅱ	講義	2前	2	15		
電子工学実習	実習	2後	1	30		
放射線工学概論	講義	2後	1	15		
情報処理工学	講義	2前	2	15		
医療統計学	講義	2前	2	15		
システム制御工学	講義	2前	2	15		
情報処理・システム制御工学実習	実習	2後	1	30		
小計			44	0		
計(履修方法・卒業要件)				44	0	44

区分	授業科目	授業形態	記号 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件		
				必修	選択			
医用生体工学	生体物性工学	講義	2後	2	15	必修4.2単位 10単位以上		
	生体材料工学	講義	2後	2	15			
	バイオメカニクス	講義	2後	2	15			
	バイオレオロジー	講義	3前	1	15			
	計測工学	演習	3前	1	30			
	生体情報処理工学	講義	2後	2	15			
	医用機器学概論	講義	2後	2	15			
	生体計測装置学	講義	3前	2	15			
	生体計測装置学実習	演習	3前	1	30			
	医用治療機器学	講義	3前	2	15			
	医用治療機器学実習	演習	3前	1	30			
	画像診断装置学	講義	2後	2	15			
	医用監視システム装置学	講義	3前	2	15			
	体外循環装置学	演習	2後	1	30			
	体外循環療法学	講義	3前	2	15			
体外循環実習	実習	3後	1	30				
血液浄化装置学	演習	2後	1	30				
血液浄化療法学	講義	3前	2	15				
血液浄化実習	実習	3後	1	30				
人工呼吸装置学	演習	2後	1	30				
人工呼吸療法学	講義	3前	2	15				
人工呼吸実習	実習	3後	1	30				
人体機能補助装置学	演習	2後	1	30				
人体機能補助療法学	講義	3前	2	15				
人体機能補助実習	実習	3後	1	30				
医用機器安全管理学	講義	3前	2	15				
医用機器安全管理学実習	実習	3前	1	30				
関係法規	講義	3前	2	15				
臨床工学概論(内科学・外科学)	講義	3後	2	15				
内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)	講義	3後	2	15				
外科学各論(循環器・呼吸器・泌尿器・高齢・集中治療)	講義	3後	2	15				
臨床医学演習	演習	3後	1	30				
臨床実習	実習	4前	4	45				
小計			42	12				
計(履修方法・卒業要件)				42	3	45		
技術科目群	医用生体工学特講	講義	4後	1	30	必修5単位		
	医用機器学特講	講義	4後	1	30			
	生体機能代行技術特講	講義	4後	1	30			
	関連臨床医学特講	講義	4後	1	30			
	基礎工学特講	講義	4後	1	30			
小計			5	0				
計(履修方法・卒業要件)				5	0	5		
研究分野	先端科学技術論	講義	3後	1	15	必修7単位 10単位 選択4単位以上		
	先進計測技術学	講義	3後	1	15			
	先進治療技術学	講義	3後	1	15			
	機能評価分析学	演習	3後	1	15			
	機能評価学演習	演習	3後	1	30			
	医療情報システム学	講義	3後	1	15			
	医療情報システム学演習	演習	3後	1	30			
	医用ロボト工学	演習	3前	1	15			
	遠隔工務学	講義	3後	1	15			
	先端科学技術演習	演習	3後	1	15			
	卒業研究Ⅰ	演習	3通	2	30			
	卒業研究Ⅱ	演習	4通	2	30			
	小計			7	7			
	計(履修方法・卒業要件)				7		4	11
	関連単位合計				111		64	126
卒業要件(最低必要単位数)				111	15	126		

医療技術学部 臨床工学科 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	記号 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 1単位あたり の 時間数	
				必修	選択		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	演習 1前	2	15	必修8単位 選択4単位 以上	
		物理学	講義 1前	2	15		
		生物学	講義 1前	2	15		
		化学	講義 1前	2	15		
		情報処理	演習 1前	2	15		
		統計学	演習 1後	2	15		
	人間理解と社会	心理学	講義 1前	2	15		
		生命倫理学	講義 1後	2	15		
		哲学	講義 2前	2	15		
		社会福祉学	講義 1前	2	15		
		日本国憲法	講義 1後	2	15		
		東洋史概説	講義 1後	2	15		
語学	西洋史概説	講義 1後	2	15			
	英語Ⅰ(初級)	演習 1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	演習 1後	2	15			
	英会話	演習 2前	2	15			
	医学英語	演習 2後	2	15			
	基礎英語演習	演習 2前	2	15			
応用英語演習	演習 2後	2	15				
小計				8	30		
計(履修方法・卒業要件)				8	4	12	
共通科目群	保健医療	MBS(Morimotoya Basic Seminar)	講義 1前	1	15	必修5単位 選択4単位 以上	
		チーム医療見学実習	演習 1前	1	15		
		医療コミュニケーション	講義 1前	1	15		
		チーム医療論	講義 2後	1	30		
		IPW論	演習 3前	1	15		
		基礎体育	講義 1後	1	30		
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	健康科学	講義 2前	2	15		
		健康科学Ⅱ	講義 2前	2	15		
		健康科学Ⅲ	講義 2後	2	15		
		栄養学	講義 1後	2	15		
		身体運動科学	講義 3後	2	15		
		東洋医療概論	講義 3前	2	15		
統合医療概論	講義 2後	2	15				
小計				5	15		
計(履修方法・卒業要件)				5	4	7	
専門科目群	及ぶ領域	医学概論	講義 1前	1	15	必修4単位 以上	
		公衆衛生学	講義 1後	2	15		
		人体の構造Ⅰ	講義 1前	2	15		
		人体の構造Ⅱ	講義 1後	1	30		
		人体の機能Ⅰ	講義 1前	2	15		
		人体の機能Ⅱ	演習 1後	1	30		
	医学的基礎	臨生化学	講義 1前	2	15		
		病理学	講義 2前	2	15		
		免疫学	講義 2前	2	15		
		薬理学	講義 2後	2	15		
		看護学概論	講義 2後	1	15		
		基礎医学実習	実習 2後	1	30		
臨床工学に必要となる理工学的基礎	医用工学	講義 1前	2	15			
	数学演習	演習 1後	1	30			
	応用数学	講義 2前	2	15			
	応用物理学	演習 2前	1	30			
	応用化学	演習 2前	1	30			
	電気工学Ⅰ	講義 1後	2	15			
電気工学Ⅱ	講義 2後	2	15				
電気工学実習	実習 2前	1	30				
電子工学Ⅰ	講義 2前	2	15				
電子工学Ⅱ	講義 2後	2	15				
電子工学実習	実習 2後	1	30				
放射線工学概論	講義 2後	1	15				
情報工学に必要となる理工学的基礎	情報処理工学	講義 2前	2	15			
	医療統計学	講義 2前	2	15			
	システム制御工学	講義 2前	2	15			
	情報処理・システム制御工学実習	実習 2後	1	30			
	小計				44	0	
	計(履修方法・卒業要件)				44	0	44

区分	授業科目	授業形態	記号 年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 1単位あたり の 時間数
				必修	選択	
専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	講義 2後	2	15	必修4単位 選択3単位 以上
		生体材料工学	講義 2後	2	15	
		バイオメカニクス	講義 2前	2	15	
		バイオレオロジ	講義 3前	1	15	
		計測工学	演習 3前	1	30	
		生体情報処理工学	講義 2後	2	15	
	医用機器工学	医用機器概論	講義 2後	2	15	
		生体計測装置学	講義 3前	2	15	
		生体計測装置学実習	演習 3前	1	30	
		医用治療機器学	講義 3前	2	15	
		医用治療機器学実習	演習 3前	1	30	
		画像診断装置学	講義 2後	2	15	
生体機能代化装置工学	医用監視システム装置学	講義 3前	2	15	必修4単位 選択3単位 以上	
	体外循環装置学	演習 2後	1	30		
	体外循環療法学	講義 3前	2	15		
	体外循環実習	実習 3後	1	30		
	血液浄化装置学	演習 2後	1	30		
	血液浄化療法学	講義 3前	2	15		
	血液浄化実習	実習 3後	1	30		
	人工呼吸装置学	演習 2後	1	30		
	人工呼吸療法学	講義 3前	2	15		
	人工呼吸実習	実習 3前	1	30		
	人体機能補助装置学	演習 2後	1	30		
	人体機能補助療法学	講義 3前	2	15		
人体機能補助実習	実習 3前	1	30			
医用機器安全管理学	医用機器安全管理学	講義 3前	2	15		
	医用機器安全管理学実習	実習 3前	1	30		
	解部法	講義 3前	2	15		
	臨床医学概論(内科学・外科学)	講義 3後	2	15		
	内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)	講義 3後	2	15		
	外科学各論(循環器・呼吸器・泌尿器・消化器・集中治療学)	講義 3後	2	15		
臨床医学実習	臨床医学演習	演習 3後	1	30		
	臨床実習	実習 4前	4	15		
小計				42	12	
計(履修方法・卒業要件)				42	3	45
技術系科目群	医用生体工学特講	講義 4後	1	30	必修5単位 以上	
	医用機器学特講	講義 4後	1	30		
	生体機能代化技術特講	講義 4後	1	30		
	関連臨床医学特講	講義 4後	1	30		
	基礎工学特講	講義 4後	1	30		
	小計					5
計(履修方法・卒業要件)				5	0	5
研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	講義 3後	1	15	必修7単位 選択4単位 以上
		先進計測技術学	講義 3前	1	15	
		先進治療技術学	講義 3後	1	15	
		機能評価分析学	演習 3前	1	15	
		機能評価演習	演習 3前	1	15	
		医療情報システム学	講義 3前	1	15	
	研究実習	医療情報システム学演習	演習 3前	1	30	
		医用ロボト工学	演習 3前	1	15	
		遠征子検査学	講義 3後	1	15	
		先端科学技術演習	演習 3前	1	15	
		卒業研究Ⅰ	演習 3通	2	30	
		卒業研究Ⅱ	演習 4通	2	30	
小計				7	4	
計(履修方法・卒業要件)				7	7	11
開講単位数合計				111	64	
卒業要件(最低必要単位数)				111	15	126

VI 履修案内

医療技術学部 臨床工学科 授業科目・単位数 (2023年度以降入学生対象)

VI 履修案内

区分	授業科目	授業形態	記当年次	単位数		履修方法及び 1単位あたりの 1時間数				
				必修	選択					
教養科目群	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修8単位 選択4単位以上				
	物理学	講義	1前	2	15					
	生物学	講義	1前	2	15					
	化学	講義	1前	2	15					
	情報処理	演習	1前	2	15					
	統計学	演習	1後	2	15					
	心理学	講義	1前	2	15					
	生命倫理学	講義	1後	2	15					
	哲学	講義	2前	2	15					
	社会福祉学	講義	1前	2	15					
	日本国憲法	講義	1後	2	15					
	東洋史概説	講義	1後	2	15					
	西洋史概説	講義	1後	2	15					
	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15					
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15					
英会話	演習	2前	2	15						
医学英語	演習	2後	2	15						
基礎英語演習	演習	2前	2	15						
応用英語演習	演習	2後	2	15						
小計				8	30					
計(履修方法・卒業要件)				8	4	12				
共通科目群	MBS(Morinomya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修5単位 選択2単位以上				
	チーム医療実習	演習	1前	1	15					
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15					
	チーム医療論	演習	2後	1	30					
	IPY論	演習	3前	1	15					
	基礎体育	演習	1後	1	30					
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15					
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15					
	健康管理学Ⅱ	講義	2後	2	15					
	栄養学	講義	2後	2	15					
	身体運動科学	講義	3後	2	15					
	東洋医療概論	講義	3前	2	15					
	総合医療概論	講義	3後	2	15					
	小計				5		15			
	計(履修方法・卒業要件)				5		2	7		
専門科目群	医学概論	講義	1前	1	15	必修43単位				
	公衆衛生学	講義	1後	2	15					
	人体の構造Ⅰ	講義	1前	2	15					
	人体の構造Ⅱ	演習	1後	1	30					
	人体の機能Ⅰ	講義	1前	2	15					
	人体の機能Ⅱ	演習	1後	1	30					
	生化学	講義	1前	2	15					
	病理学	講義	2前	2	15					
	免疫学	講義	2前	2	15					
	薬理学	講義	2後	2	15					
	基礎医学実習	実習	2後	1	30					
	医用工学	講義	1前	2	15					
	数学演習	演習	1後	1	30					
	応用数学	講義	2後	2	15					
	応用物理学	演習	2前	1	30					
応用化学	演習	2前	1	30						
電気工学Ⅰ	講義	2後	2	15						
電気工学Ⅱ	講義	1後	2	15						
電気工学実習	実習	2前	1	30						
電子工学Ⅰ	講義	2前	2	15						
電子工学Ⅱ	講義	2後	2	15						
電子工学実習	実習	2後	1	30						
放射線工学概論	講義	2後	1	15						
情報処理工学	講義	2前	2	15						
医療統計学	講義	2前	2	15						
システム制御工学	講義	2前	2	15						
情報処理・システム制御工学実習	実習	2後	1	30						
小計				43	0					
計(履修方法・卒業要件)				43	0	43				
専門科目群	生体物性工学	講義	2前	2	15	必修49単位 選択3単位以上				
	生体材料工学	講義	2後	2	15					
	バイオメカニクス	講義	2後	2	15					
	バイオオロジー	講義	3前	1	15					
	計測工学	演習	3前	1	30					
	生体情報処理工学	講義	2後	2	15					
	医用機器学概論	講義	2後	2	15					
	生体計測装置学	講義	2後	2	15					
	生体計測装置学実習	演習	3前	1	30					
	医用治療機器学	講義	3前	2	15					
	医用治療機器学実習	講義	3前	1	30					
	画像診断装置学	講義	2後	1	15					
	臨床支援技術学	講義	3前	2	15					
	体外循環装置学	講義	2後	1	30					
	体外循環法学	講義	3前	2	15					
体外循環実習	実習	3後	1	30						
血液浄化装置学	講義	2後	1	30						
血液浄化法学	講義	3前	2	15						
特殊血液浄化装置学	演習	2後	1	30						
血液浄化実習	実習	3後	1	30						
人工呼吸装置学	講義	2後	1	30						
人工呼吸装置実習	実習	3後	2	15						
人工呼吸装置学	実習	3後	1	30						
人体機能補助装置学	講義	3前	1	30						
人体機能補助装置学	実習	3後	1	30						
医療機器安全管理学	講義	3前	2	15						
医療機器安全管理学実習	実習	3前	1	30						
患者支援学	演習	1後	1	30						
関係法規	講義	1後	2	15						
臨床医学総論(内科学・外科学)	講義	3後	2	15						
内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)	講義	3後	2	15						
外科学各論(循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	講義	3後	2	15						
臨床医学演習	演習	3後	1	30						
総合評価実習	実習	3後	1	30						
臨床実習	実習	4選	6	45						
小計				49	7					
計(履修方法・卒業要件)				49	3	52				
専門科目群	医用生体工学特講	講義	4後	1	30	必修5単位				
	医用機器学特講	講義	4後	1	30					
	生体機能代行技術特講	講義	4後	1	30					
	関連臨床医学特講	講義	4後	1	30					
	基礎工学特講	講義	4後	1	30					
	小計				5		0			
	計(履修方法・卒業要件)				5		0	5		
	研究分野	先進科学技術論	講義	3後	1		15	選択7単位以上		
		先進計測技術学	講義	3後	1		15			
		先進治療技術学	講義	3後	1		15			
		機能評価学演習	演習	3後	1		30			
		医療情報システム学演習	演習	3後	1		30			
		先進科学技術演習	演習	3後	1		30			
		卒業研究Ⅰ	演習	3選	2		30			
		卒業研究Ⅱ	演習	4選	2		30			
小計					7	3				
計(履修方法・卒業要件)				7	2	9				
関連単位合計				117	55					
卒業要件(最低必要単位数)						117	11		128	

保健医療学部 診療放射線学科 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法 単位取得 の 可否	1 単位の 授業 科目 の 数		
				必修	選択				
学 部 共 通 科 目 群	科学的思考	基礎ゼミナール	演習	1期	2	15	必修 8 単位 以上		
		物理学	講義	1期	2	15			
		生物学	講義	1期	2	15			
		化学	講義	1期	2	15			
		情報処理	演習	1期	2	15			
	人間理解と社会	統計学	演習	1期	2	15	必修 4 単位 以上		
		心理学	講義	1期	2	15			
		生命倫理学	講義	1期	2	15			
		哲学	講義	1期	2	15			
		社会学	講義	1期	2	15			
	語学	日本語学	講義	1期	2	15	必修 2 単位 以上 + 選 択 2 単位 以上		
		英語Ⅰ(初級)	演習	1期	2	15			
		英語Ⅱ(中級)	演習	1期	2	15			
		英会話	演習	1期	2	15			
		英検	演習	1期	2	15			
学 部 共 通 科 目 群	基礎医療	MBS(Morimoto's Basic Seminar)	講義	1期	1	15	必修 5 単位 + 選 択 2 単位 以上		
		チーム医療見学実習	演習	1期	1	15			
		医療コミュニケーション	講義	1期	1	15			
		チーム医療論	演習	1期	1	30			
		IPV論	演習	1期	1	15			
	健康科学	基礎体育	演習	1期	1	30	必修 9 単位 + 選 択 2 単位 以上		
		健康科学(スポーツ社会学生含む)	講義	1期	2	15			
		健康管理学Ⅰ	講義	2期	2	15			
		健康管理学Ⅱ	講義	2期	2	15			
		栄養学	講義	2期	2	15			
	基礎理学	身体運動科学	講義	2期	2	15	必修 5 単位 + 選 択 2 単位 以上		
		東洋医療概論	講義	3期	2	15			
		統合医療概論	講義	3期	2	15			
		小計	5	15	7				
		計(履修方法・卒業要件)	5	2	7				
学 科 専 門 科 目 群	基礎科目	数学	講義	1期	2	15	選 択 3 単 位 以 上		
		数学演習	演習	1期	1	30			
		物理学演習	演習	1期	1	30			
		生物学演習	演習	1期	1	30			
		化学演習	演習	1期	1	30			
	人体の成り立ちから 疾病の成り立ちまで	医学概論	講義	1期	1	15	必修 1 2 単位 + 選 択 3 単 位 以 上		
		公衆衛生学	講義	1期	1	30			
		人体の構造Ⅰ	講義	1期	1	30			
		人体の構造Ⅱ	講義	1期	1	30			
		人体の機能Ⅰ	講義	1期	1	30			
		人体の機能Ⅱ	講義	1期	1	30			
		生化学	講義	1期	1	30			
		病理学	講義	2期	1	30			
		内科学Ⅰ	講義	2期	1	30			
		内科学Ⅱ	講義	2期	1	30			
薬理学	講義	2期	1	30					
理工学的基礎を 踏まえて放射線 技術の発展に 関する	看護学概論	講義	2期	1	15	必修 1 7 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上			
	看護学演習	演習	2期	1	15				
	基礎医学演習	演習	2期	1	15				
	放射線概論	講義	2期	1	15				
	放射線物理学	講義	2期	1	15				
	放射線計測学	講義	2期	1	15				
	放射線生物学	講義	2期	1	15				
	放射線計測学	演習	2期	1	30				
	放射線物理学・計測学演習	演習	2期	1	30				
	放射線科学	講義	2期	1	15				
専門基礎科目実習	実習	2期	2	45					
小計	17	4	18						
計(履修方法・卒業要件)	12	1	13						
専 門 科 目 群	診療放射線技術学	放射線医学概論	講義	1期	1	30	必修 5 6 単位 + 選 択 1 単位 以上		
		X線撮影技術学Ⅰ	講義	2期	2	15			
		X線撮影技術学Ⅱ	講義	2期	2	15			
		X線機器工学	講義	2期	2	15			
		放射線撮影技術学	講義	2期	2	15			
	技術学検査	CT-MRI機器工学	講義	3期	2	15	必修 5 6 単位 + 選 択 1 単位 以上		
		CT-MRI機器工学	講義	2期	2	15			
		撮影技術学・機器工学実習Ⅰ	実習	2期	1	45			
		撮影技術学・機器工学実習Ⅱ	実習	3期	1	45			
		画像精製学演習	演習	4期	1	30			
	放射線治療学	放射線治療学Ⅰ	講義	2期	2	15	必修 5 6 単位 + 選 択 1 単位 以上		
		放射線治療学Ⅱ	講義	2期	2	15			
		放射線治療学実習	実習	3期	1	45			
		放射線治療学	講義	3期	1	30			
		放射線治療学	講義	2期	2	15			
医用画像	医用画像学	講義	2期	1	15	必修 5 6 単位 + 選 択 1 単位 以上			
	医用画像学実習	実習	3期	1	15				
	放射線安全管理学	講義	2期	2	15				
	放射線関係法規	講義	3期	1	15				
	安全管理学実習	実習	2期	1	45				
理学安全管理	医療安全管理	講義	3期	2	15	必修 5 6 単位 + 選 択 1 単位 以上			
	臨床画像精製学	講義	3期	2	15				
	臨床画像精製学	講義	3期	2	15				
	臨床実習Ⅰ	実習	3期	6	45				
	臨床実習Ⅱ	実習	3期	2	45				
実臨床	臨床実習Ⅲ	実習	4期	2	45	必修 4 単位 以上			
	臨床実習ゼミナール	実習	3週	2	30				
	小計	56	2	57					
	計(履修方法・卒業要件)	56	0	57					
	診療放射線技術学特講	講義	4期	1	15				
診療放射線技術学特講	経路学・放射線治療学特講	講義	4期	1	15	必修 4 単位 以上			
	放射線技術学特講	講義	4期	1	15				
	基礎医学特講	講義	4期	1	15				
	小計	4	0	4					
	計(履修方法・卒業要件)	4	0	4					
専 門 科 目 群	先導放射線学	先導核医学	講義	4期	1	15	必修 4 単位 以上		
		先導放射線治療学	講義	4期	1	15			
		先導画像解析学	講義	4期	1	15			
		先導医学	講義	4期	1	15			
		卒業研究Ⅰ	演習	3週	2	30			
	研究分野	卒業研究Ⅱ	演習	4週	2	30	必修 2 単位 + 選 択 4 単位 以上		
		卒業研究Ⅲ	演習	4週	2	30			
		小計	4	4	4				
		計(履修方法・卒業要件)	4	2	6				
		卒業研究Ⅳ	演習	4週	2	30			
小計	17	1	18						
計(履修方法・卒業要件)	12	1	13						
専 門 科 目 群	工学	電気・電子工学	講義	2期	2	15	必修 1 7 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上		
		医用工学	講義	2期	2	15			
		工学演習	演習	2期	1	30			
		情報処理工学	講義	2期	2	15			
		医療統計学	講義	2期	1	15			
	放射線物理学	放射線物理学	講義	2期	2	15	必修 1 7 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上		
		放射線生物学	講義	2期	2	15			
		放射線計測学	講義	2期	2	15			
		放射線物理学・計測学演習	演習	2期	1	30			
		放射線科学	講義	2期	1	15			
	放射線生物学	放射線生物学	講義	2期	2	15	必修 1 7 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上		
		放射線計測学	講義	2期	2	15			
		放射線物理学・計測学演習	演習	2期	1	30			
		放射線科学	講義	2期	1	15			
		専門基礎科目実習	実習	2期	2	45			
小計	17	1	18						
計(履修方法・卒業要件)	12	1	13						
卒業要件(表右)必要単位数							110	16	128

VI
履修案内

医療技術学部 診療放射線学科 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	単位数			履修方法及び 1 単位以上の 科目数		
			配当年次	必修	選択			
科学的思想	基礎ゼミナール	演習	1期	2	15	必修 8単位 +選択 4単位 以上		
	物理学	講義	1期	2	15			
	生物学	講義	1期	2	15			
	化学	講義	1期	2	15			
	情報処理	演習	1期	2	15			
	統計学	演習	1期	2	15			
	心理学	講義	1期	2	15			
	生命倫理学	講義	1期	2	15			
	哲学	講義	2期	2	15			
	社会福祉学	講義	1期	2	15			
	日本憲法	講義	1期	2	15			
	東洋史概説	講義	2期	2	15			
	西洋史概説	講義	3期	2	15			
	小計			8	18			
	計(履修方法・卒業要件)			8	4		12	
英語	英語Ⅰ(初級)	演習	1期	2	15	必修 4単位 以上		
	英語Ⅱ(中級)	演習	1期	2	15			
	英会話	演習	2期	2	15			
	医学英語	演習	2期	2	15			
	基礎英語演習	演習	2期	2	15			
	応用英語演習	演習	2期	2	15			
	小計			4	8			
	計(履修方法・卒業要件)			4	2		8	
	共通科目群	MBS(Meritomya Basic Seminar)	講義	1期	1		15	必修 5単位 +選択 5単位 以上
		チーム医療見学実習	演習	1期	1		15	
医療コミュニケーション		講義	2期	1	15			
チーム医療論		演習	2期	1	30			
IPW論		演習	3期	1	15			
基礎体育		演習	1期	1	30			
健康科学(スポーツ社会学を含む)		講義	1期	2	15			
健康管理学Ⅰ		講義	2期	2	15			
健康管理学Ⅱ		講義	2期	2	15			
栄養学		講義	2期	2	15			
身体運動科学		講義	2期	2	15			
東洋医療概論		講義	3期	2	15			
統合医療概論		講義	3期	2	15			
小計				5	15			
計(履修方法・卒業要件)				5	2	7		
演習科目	数学	講義	1期	2	15	選択 10単位 以上		
	数学演習	演習	1期	1	30			
	物理学演習	演習	1期	1	30			
	生物学演習	演習	1期	1	30			
	化学演習	演習	1期	1	30			
	小計			6	6			
	計(履修方法・卒業要件)			0	3		3	
	基礎科目	数学論	講義	1期	1		15	必修 11単位 +選択 5単位 以上
		公衆衛生学	講義	1期	1		30	
		人体の構造Ⅰ	講義	1期	1		30	
人体の機能Ⅰ		講義	1期	1	30			
人体の機能Ⅱ		講義	1期	1	30			
生化学		講義	2期	1	30			
病理学		講義	2期	1	30			
内科学Ⅰ		講義	2期	1	30			
内科学Ⅱ		講義	2期	1	30			
薬理学		講義	3期	1	30			
看護学概論		講義	2期	1	15			
基礎医学演習		演習	4期	1	15			
外科学		講義	3期	1	30			
救急災害医学		講義	2期	1	15			
小計				12	3			
計(履修方法・卒業要件)			12	1	13			
理工学、工学、薬学、看護学及び応用技術の基礎	電気・電子工学	講義	1期	2	15	必修 11単位 +選択 11単位 以上		
	医用工学	講義	1期	2	15			
	工学演習	演習	1期	1	30			
	情報処理工学	講義	1期	2	15			
	医療統計学	講義	1期	1	15			
	放射化学	講義	1期	2	15			
	放射線生物学	講義	1期	2	15			
	放射線化学・生物学演習	演習	1期	1	30			
	放射線物理学	講義	1期	2	15			
	放射線計測学	講義	1期	2	15			
	放射線物理学・計測学演習	演習	1期	1	30			
	放射線科学	講義	1期	1	15			
	専門基礎科目実験	実験	2期	2	45			
	小計			17	4			
	計(履修方法・卒業要件)			17	1		18	

区分	授業科目	授業形態	単位数			履修方法及び 1 単位以上の 科目数	
			配当年次	必修	選択		
診療放射線技術学・臨床画像学	放射線医学概論	講義	1期	1	30	必修 6単位 +選択 11単位 以上	
	X線撮影技術学Ⅰ	講義	2期	2	15		
	X線撮影技術学Ⅱ	講義	2期	2	15		
	X線機器工学	講義	2期	2	15		
	放射線撮影技術学	講義	2期	2	15		
	CT・MRI機器工学	講義	3期	2	15		
	CT・MRI機器工学	講義	2期	2	15		
	撮影技術学・機械工学実験Ⅰ	実験	2期	1	45		
	撮影技術学・機械工学実験Ⅱ	実験	3期	1	45		
	画像解剖学	講義	2期	1	30		
	画像解剖学演習	演習	4期	1	30		
	機器工学演習	演習	4期	1	30		
	臨床画像解剖学	講義	3期	1	30		
	小計			2	2		15
	計(履修方法・卒業要件)			2	2		15
核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	講義	2期	2	15	必修 6単位 +選択 11単位 以上	
	核医学検査技術学Ⅱ	講義	2期	2	15		
	核医学検査技術学実験	実験	3期	1	45		
	放射性薬品学	講義	2期	1	15		
	放射線治療技術学Ⅰ	講義	2期	2	15		
	放射線治療技術学Ⅱ	講義	2期	2	15		
	放射線治療技術学実験	実験	3期	1	45		
	放射線治療学	講義	3期	2	15		
	画像化学	講義	2期	2	15		
	医療情報学	講義	2期	1	15		
医療画像情報学実験	実験	3期	2	15			
放射線安全管理学	講義	2期	2	15			
放射線関係法規	講義	3期	1	15			
安全管理学実験	実験	2期	1	45			
医療安全管理学	講義	3期	2	15			
臨床画像学	講義	3期	2	15			
臨床実習Ⅰ	実習	2期	6	45			
臨床実習Ⅱ	実習	3期	2	45			
臨床実習Ⅲ	実習	4期	2	45			
臨床実習ゼミナール	実習	3期	2	30			
小計			58	2	57		
計(履修方法・卒業要件)			58	1	57		
診療放射線技術学特講	診療放射線技術学特講	講義	4期	1	15	必修 4単位 以上	
	核医学・放射線治療学特講	講義	4期	1	15		
	放射線技術学特講	講義	4期	1	15		
	基礎医学特講	講義	4期	1	15		
	小計			4	0		4
計(履修方法・卒業要件)			4	0	4		
先導核医学	先導核医学	講義	4期	1	15	必修 2単位 +選択 5単位 以上	
	先導放射線治療学	講義	4期	1	15		
	先導画像解剖学	講義	4期	1	15		
	卒業研究Ⅰ	演習	3期	2	30		
	卒業研究Ⅱ	演習	4期	2	30		
小計			4	4	8		
計(履修方法・卒業要件)			4	2	8		
卒業要件(最低必要単位数)			110	16	128		

VI 履修案内

医療技術学部 診療放射線学科 授業科目・単位数 (2024年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	担当教員	単位数		1単位の割合 (%)	履修方法及び 備考	
				必修	選択			
学 科 基 礎 分 野	科学の思考	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修 4 単 位 以 上 の 単 位 数 に 上 る	
		物理学	講義	1前	2	15		
		生物学	講義	1前	2	15		
		化学	講義	1前	2	15		
	人間理解と社会	情報処理	演習	1前	2	15		
		統計学	演習	1前	2	15		
		心理学	講義	1前	2	15		
		生命物理学	講義	1前	2	15		
		哲学	講義	2前	2	15		
		社会学	講義	1後	2	15		
		日本憲法	講義	1後	2	15		
		東洋史概論	講義	2後	2	15		
		西洋史概論	講義	3前	2	15		
		小計		4	22			
	計(履修方法・卒業要件)		4	4		8		
	語学	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15		
		英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15		
		英会話	演習	2前	2	15		
		医学英語	演習	1後	2	15		
		基礎英会話	演習	2前	2	15		
		応用英会話	演習	2後	2	15		
		小計		4	8			
		計(履修方法・卒業要件)		4	2			6
		学 科 基 礎 分 野	基礎医療	MBS(Morionomy Basic Seminar)	講義	1前		1
チーム医療見学実習				演習	1前	1	15	
医療コミュニケーション	講義			2前	1	15		
チーム医療論	演習			2後	1	30		
IPW論	演習			3前	1	15		
基礎体育	演習			1後	1	30		
健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義			1前	2	15		
健康管理学Ⅰ	講義			2前	2	15		
健康管理学Ⅱ	講義			2後	2	15		
栄養学	講義			2後	2	15		
身体運動科学	講義		2前	2	15			
西洋薬概論	講義		3前	2	15			
統合医療概論	講義		3前	2	15			
小計			5	15				
計(履修方法・卒業要件)			5	2		7		
基礎特講	数学		講義	1前	2	15		
	数学演習		演習	1後	1	30		
	物理学演習		演習	1前	1	30		
	生物学演習		演習	1前	1	30		
	化学演習		演習	1前	1	30		
	小計			2	4			
	計(履修方法・卒業要件)			2	2		4	
	学 科 基 礎 分 野		人体の構成と能力及び 疾病の成り立ち	医学総論	講義	1通	1	30
				公衆衛生学	講義	1後	1	30
		解剖学演習		演習	1前	1	30	
		人体の構造Ⅰ		講義	1前	1	30	
		人体の構造Ⅱ		講義	1前	1	30	
		人体の機能Ⅰ		講義	1前	1	30	
		人体の機能Ⅱ		講義	1後	1	30	
生化学		講義		1後	1	30		
病理学		講義		1後	1	30		
臨床医学Ⅰ		講義		2前	1	30		
臨床医学Ⅱ		講義		2後	1	30		
臨床医学Ⅲ		講義		3前	1	15		
薬理学		講義		2後	1	30		
看護学概論		講義		2後	1	15		
小計		11	3					
計(履修方法・卒業要件)		11	2		13			
学 科 基 礎 分 野	保健医療福祉における 放射線科学及び技術の基礎	医用工学演習	演習	1後	1	30		
		医用工学	講義	1後	2	15		
		CT序論	講義	1前	1	15		
		医療統計学	講義	1後	1	15		
		放射化学	講義	1前	2	15		
		放射線生物学	講義	1前	2	15		
		放射線化学・放射線物理学	演習	1後	1	30		
		放射線物理学序論	講義	1前	2	15		
		放射線物理学	講義	1後	2	15		
		放射線計測学Ⅰ	講義	1後	2	15		
		放射線計測学Ⅱ	講義	2前	2	15		
		放射線計測学Ⅲ	講義	2前	1	30		
		放射線総論	講義	2前	2	45		
		小計		18	3			
計(履修方法・卒業要件)		18	1		19			
専 門 特 講	診療放射線	X線撮影技術学Ⅰ	講義	2前	2	15		
		X線撮影技術学Ⅱ	講義	2後	2	15		
		X線機器工学	講義	2前	2	15		
		放射線撮影技術学Ⅰ(US・履修)	講義	2後	2	15		
		X線CT技術学(履修・検査)	講義	2後	2	15		
		MR設備技術学Ⅰ(履修・検査)	講義	3前	2	15		
		MR設備技術学Ⅱ(検査)	講義	3後	1	15		
		放射線技術学実習Ⅰ(撮影系)	実習	2後	1	45		
		放射線技術学実習Ⅱ(検査系)	実習	3前	1	45		
		画像解剖学Ⅰ(単純X線画像)	講義	2前	1	15		
	画像解剖学Ⅱ(造影X線画像)	講義	2後	1	15			
	画像解剖学Ⅲ(各種造影画像)	講義	3前	2	15			
	核医学検査技術学Ⅰ	講義	2前	2	15			
	核医学検査技術学Ⅱ	講義	3前	2	15			
	核医学機器学Ⅰ	講義	2前	1	15			
	放射線技術学実習Ⅳ(核医学系)	実習	3前	1	45			
	放射線治療技術学Ⅰ	講義	2後	2	15			
	放射線治療技術学Ⅱ	講義	3前	2	15			
	放射線治療機器工学	講義	2前	1	15			
	放射線腫瘍学	講義	3前	1	30			
	放射線技術学実習Ⅴ(治療学)	実習	3前	1	45			
	放射線工学	講義	2前	1	15			
	医療画像情報学序論	講義	1後	1	15			
	医療情報学	講義	3前	1	15			
医療画像情報学	講義	3前	2	15				
放射線技術学実習Ⅵ(画像解析系)	実習	2後	1	45				
放射線安全管理学	講義	2前	2	15				
放射線関係法規	講義	3後	1	15				
放射線技術学実習Ⅱ(安全管理系)	実習	2後	1	45				
放射線安全管理学	講義	3前	2	15				
臨床画像演習	演習	3後	1	30				
臨床画像解剖学	演習	3後	1	30				
臨床実習Ⅰ	実習	3前	2	45				
臨床実習Ⅱ	実習	3後	4	45				
臨床実習Ⅲ	実習	3後	4	45				
臨床実習ゼミナールⅠ	実習	3前	1	30				
臨床実習ゼミナールⅡ	実習	3後	1	30				
小計		58	0					
計(履修方法・卒業要件)		58	0		58			
専 門 特 講	診療放射線	診療放射線技術総論	講義	4前	1	30		
		診療放射線学総合演習Ⅰ	演習	2	30			
		診療放射線学総合演習Ⅱ	演習	4後	2	30		
		小計		5	0			
計(履修方法・卒業要件)		5	0		5			
専 門 特 講	先端放射線 研究分野	先端医療技術Ⅰ	講義	4前	2	15		
		先端医療技術Ⅱ	講義	4前	2	15		
		研究法入門	演習	4前	1	30		
		卒業研究Ⅰ	演習	4後	1	30		
		卒業研究Ⅱ	演習	4通	2	30		
		小計		4	4			
		計(履修方法・卒業要件)		4	2		6	
		卒業要件(最低必要単位数)		111	15		126	

VI
履修案内

保健医療学部 鍼灸学科鍼灸コース 授業科目・単位数 (2020年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	
				必修	選択		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	演習 1前	2	15	必修10単位・選択6単位以上	
		物理学	講義 1後	2	15		
		生物学	講義 1前	2	15		
		化学	講義 1後	2	15		
		情報処理	演習 2後	2	15		
		統計学	演習 3前	2	15		
	人間理解と社会	心理学	講義 2後	2	15		
		生命倫理学	講義 3前	2	15		
		哲学	講義 1後	2	15		
		社会福祉学	講義 3後	2	15		
		日本国憲法	講義 1前	2	15		
	語学	東洋史概説	講義 3前	2	15		
		西洋史概説	講義 3後	2	15		
		英語Ⅰ(初級)	演習 1前	2	15		
		英語Ⅱ(中級)	演習 1後	2	15		
英会話		演習 2前	2	15			
	医学英語	演習 3前	2	15			
	基礎英語演習	演習 2前	2	15			
	応用英語演習	演習 2後	2	15			
	小計		10	28			
	計(履修方法・卒業要件)		10	6			
学部共通科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	講義 1前	1	15	必修9単位・選択2単位以上		
	チーム医療実学実習	演習 1前	1	15			
	医療コミュニケーション	講義 2前	1	15			
	チーム医療論	演習 2後	1	30			
	IPW論	演習 3前	1	15			
	基礎体育	演習 1後	2	30			
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義 1前	2	15			
	健康管理学Ⅰ	講義 2前	2	15			
	健康管理学Ⅱ	演習 2後	2	15			
	栄養学	講義 2後	2	15			
	身体運動科学	演習 2前	2	15			
	東洋医療概論	講義 1後	2	15			
	統合医療概論	講義 3後	2	15			
		小計		9		12	
		計(履修方法・卒業要件)		9		2	
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ(骨・筋)	講義 1通	4	15	必修39単位以上		
	解剖学Ⅱ(神経)	講義 1前	2	15			
	解剖学Ⅲ(内臓・器官)	講義 1後	2	15			
	生理学Ⅰ(動物生理学)	講義 1前	2	15			
	生理学Ⅱ(植物生理学)	講義 1後	2	15			
	生理学Ⅲ(応用生理学)	講義 1後	2	15			
	運動学	演習 2前	2	15			
	生化学	講義 2前	2	15			
	病理学	講義 2前	2	15			
	臨床医学総論	講義 2前	2	15			
	整形外科	講義 2前	2	15			
	内科学	講義 2後	2	15			
	臨床医学各論Ⅰ	講義 3前	2	15			
	臨床医学各論Ⅱ	講義 3前	2	15			
	臨床医学各論Ⅲ	講義 3後	2	15			
スポーツ医学	演習 3前	2	15				
リハビリテーション医学	講義 3後	2	15				
画像診断学	講義 3後	2	15				
	小計		39	2			
	計(履修方法・卒業要件)		39	0			

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	
				必修	選択		
基礎はりきゅう学	経絡経穴Ⅰ	講義 1前	1	30	必修43単位		
	経絡経穴Ⅱ	講義 1後	1	30			
	経穴局所解剖演習Ⅰ	演習 2前	1	30			
	経穴局所解剖演習Ⅱ	演習 2後	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅰ	講義 2後	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅱ	演習 3前	1	30			
	東洋医学概論Ⅰ	講義 1前	1	30			
	東洋医学概論Ⅱ	講義 1後	1	30			
	東洋医学概論Ⅲ	講義 2前	1	30			
	鍼灸安全学	講義 3後	1	30			
	臨床生理学	講義 2後	1	30			
	臨床鍼灸学	演習 3後	1	30			
	生体観察	演習 3前	1	30			
	運動機能検査法	演習 2前	1	30			
	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	演習 3前	2	30			
現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	演習 3前	2	30				
現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	演習 3後	1	30				
東洋医学系検査法	演習 2前	1	30				
東洋医学各論Ⅰ	講義 2後	1	30				
東洋医学各論Ⅱ	講義 3前	1	30				
鍼灸概論	講義 4後	1	30				
関係法規	講義 4前	1	30				
基礎鍼灸Ⅰ	演習 1前	1	30				
基礎鍼灸Ⅱ	実習 1後	1	30				
基礎鍼灸Ⅲ	実習 1前	1	30				
基礎鍼灸Ⅳ	実習 1後	1	30				
高麗鍼灸Ⅰ	実習 1前	1	30				
高麗鍼灸Ⅱ	実習 1後	1	30				
応用鍼灸Ⅰ	実習 2前	1	30				
応用鍼灸Ⅱ	実習 2後	1	30				
現代医学系鍼灸実習Ⅰ	実習 2後	1	30				
現代医学系鍼灸実習Ⅱ	実習 3前	1	30				
現代医学系鍼灸実習Ⅲ	実習 3後	1	30				
東洋医学系鍼灸実習Ⅰ	実習 2後	1	30				
東洋医学系鍼灸実習Ⅱ	実習 3前	1	30				
東洋医学系鍼灸実習Ⅲ	実習 3後	1	30				
東洋医学系鍼灸実習Ⅳ	実習 3前	1	30				
応用鍼灸治療学	実習 4前	1	30				
臨床実習	実習 3後	1	30				
特種鍼灸治療学	実習 4後	1	30				
附属施設前所基礎実習	実習 4通	2	45				
附属施設前所応用実習	実習 4通	2	45				
	小計		43	0			
	計(履修方法・卒業要件)		43	0			
総合領域	キャリアデザイン	講義 1前	1	30	必修11単位		
	鍼灸総合演習Ⅰ	演習 4前	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅱ	演習 4通	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅲ	演習 4後	2	30			
	卒業研究Ⅰ	演習 3通	1	30			
	卒業研究Ⅱ	演習 4通	1	30			
	学外見学実習Ⅰ	実習 2通	1	30			
	学外見学実習Ⅱ	実習 4通	1	30			
		小計		11		0	
		計(履修方法・卒業要件)		11		0	
	専門領域	美容鍼灸総論	演習 2後	1		30	選択6単位以上
		テーピング技術論	実習 2前	1		30	
		コンディショニング技術論	演習 2前	1		30	
		スポーツ鍼灸総論	演習 3前	1		30	
		スポーツ鍼灸各論	演習 3前	1		30	
介護学概論		講義 3後	1	30			
老年ケア演習		演習 3後	1	30			
美容鍼灸各論Ⅰ		演習 3前	1	30			
美容鍼灸各論Ⅱ		演習 3後	1	30			
応用鍼灸Ⅰ		演習 4前	1	30			
応用鍼灸Ⅱ		演習 4後	1	30			
スポーツ経営学		講義 4前	1	15			
		小計		0	12		
		計(履修方法・卒業要件)		0	6		
		開講単位数合計		112	54	166	

卒業要件(最低必要単位数) 112 14 126

医療技術学部 鍼灸学科鍼灸コース 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

VI
履修案内

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件及び 1単位あたりの 所要時間	
				必修	選択		
教養科目群	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修10単位・選択6単位以上	
	物理学	講義	1後	2	15		
	生物学	講義	1前	2	15		
	化学	講義	1後	2	15		
	情報処理	演習	2後	2	15		
	統計学	演習	3前	2	15		
	心理学	講義	2後	2	15		
	生命倫理学	講義	1前	2	15		
	哲学	講義	1後	2	15		
	社会福祉学	講義	3後	2	15		
	日本国憲法	講義	3前	2	15		
	東洋史概説	講義	3前	2	15		
	西洋史概説	講義	3後	2	15		
	英語Ⅰ(初級)	演習	1前	2	15		
	英語Ⅱ(中級)	演習	1後	2	15		
英語Ⅲ(上級)	演習	2前	2	15			
医学英語	演習	2後	2	15			
基礎英語演習	演習	2前	2	15			
応用英語演習	演習	2後	2	15			
小計			10	28			
計(履修方法・卒業要件)				10	6	16	
共通科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	講義	1前	1	15	必修9単位・選択2単位以上	
	チーム医療実学実習	演習	1前	1	15		
	医療コミュニケーション	講義	2前	1	15		
	チーム医療論	演習	2後	1	30		
	IPW論	演習	3前	1	15		
	基礎体育	演習	1後	2	30		
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15		
	健康管理学Ⅰ	講義	2前	2	15		
	健康管理学Ⅱ	演習	2後	2	15		
	栄養学	講義	2後	2	15		
	身体運動科学	演習	2前	2	15		
	東洋医療概論	講義	1後	2	15		
	統合医療概論	講義	3後	2	15		
	小計			9	12		
	計(履修方法・卒業要件)				9		2
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ(骨・筋)	講義	1通	4	15	必修39単位以上	
	解剖学Ⅱ(神経)	講義	1前	2	15		
	解剖学Ⅲ(内臓・臓器)	講義	1後	2	15		
	生理学Ⅰ(動物生理学)	講義	1前	2	15		
	生理学Ⅱ(植物生理学)	講義	1後	2	15		
	生理学Ⅲ(応用生理学)	講義	1後	2	15		
	運動学	演習	2前	2	15		
	生化学	講義	2前	2	15		
	病理学	講義	2前	2	15		
	臨床医学総論	講義	2前	2	15		
	整形外科学	講義	2前	2	15		
	内科学	講義	2後	2	15		
	臨床医学各論Ⅰ	講義	3前	2	15		
	臨床医学各論Ⅱ	講義	3前	2	15		
	臨床医学各論Ⅲ	講義	3後	2	15		
スポーツ医学	演習	3前	2	15			
リハビリテーション医学	講義	3後	2	15			
画像診断学	講義	3後	2	15			
疫学	講義	3後	2	15			
衛生学公衆衛生学	講義	3前	2	15			
保健医療倫理	講義	4後	1	15			
小計			39	2			
計(履修方法・卒業要件)				39	0	39	

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件及び 1単位あたりの 所要時間		
				必修	選択			
基礎はりきゅう学	経絡経穴Ⅰ	講義	1前	1	30	必修43単位		
	経絡経穴Ⅱ	講義	1後	1	30			
	経穴局所解剖演習Ⅰ	演習	2前	1	30			
	経穴局所解剖演習Ⅱ	演習	2後	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅰ	講義	2前	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅱ	演習	3前	1	30			
	東洋医学概論Ⅰ	講義	1前	1	30			
	東洋医学概論Ⅱ	講義	1後	1	30			
	東洋医学概論Ⅲ	講義	2前	1	30			
	鍼灸安全学	講義	3後	1	30			
	臨床生理学	講義	2後	1	30			
	臨床鍼灸学	演習	3後	1	30			
	生体観察	演習	3前	1	30			
	運動機能検査法	演習	2後	1	30			
	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	演習	2前	2	30			
現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	演習	3前	2	30				
現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	演習	3後	1	30				
東洋医学系鍼灸学Ⅰ(内科系)	演習	2前	1	30				
東洋医学各論Ⅰ	講義	2後	1	30				
東洋医学各論Ⅱ	講義	3前	1	30				
鍼灸概論	講義	4後	1	30				
関係法規	講義	4前	1	30				
基礎鍼灸Ⅰ	演習	1前	1	30				
基礎鍼灸Ⅱ	演習	1後	1	30				
基礎鍼灸Ⅲ	演習	1前	1	30				
基礎鍼灸Ⅳ	演習	1後	1	30				
応用鍼灸Ⅰ	演習	2前	1	30				
応用鍼灸Ⅱ	演習	2後	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	実習	2前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	実習	3前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	実習	2後	1	30				
東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	実習	2後	1	30				
東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	実習	3前	1	30				
東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	実習	3後	1	30				
東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ	実習	3前	1	30				
応用鍼灸治療学	実習	4前	1	30				
臨床実習	実習	3後	1	30				
特種鍼灸治療学	実習	4後	1	30				
附属施設前所基礎実習	実習	4通	2	45				
附属施設前所応用実習	実習	4通	2	45				
小計			43	0				
計(履修方法・卒業要件)				43	0	43		
総合領域	キャリアデザイン	講義	1前	1	30	必修1単位		
	鍼灸総合演習Ⅰ	演習	4前	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅱ	演習	4通	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅲ	演習	4後	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅳ	演習	4通	2	30			
	卒業研究Ⅰ	実習	3通	1	30			
	卒業研究Ⅱ	実習	4通	1	30			
	学外見学実習Ⅰ	実習	2通	1	30			
	学外見学実習Ⅱ	実習	4通	1	30			
	小計			11	0			
	計(履修方法・卒業要件)				11		0	11
	専門領域	美容鍼灸総論	演習	2後	1		30	選択6単位以上
		テーピング技術論	演習	2前	1		30	
		コンディショニング技術論	演習	2後	1		30	
		スポーツ鍼灸総論	演習	3前	1		30	
スポーツ鍼灸学各論		演習	3後	1	30			
介護学概論		講義	3後	1	30			
老若ケア演習		演習	3後	1	30			
美容鍼灸学各論Ⅰ		演習	3前	1	30			
美容鍼灸学各論Ⅱ		演習	3後	1	30			
応用鍼灸Ⅰ		演習	4前	1	30			
応用鍼灸Ⅱ		演習	4後	1	30			
スポーツ経管学		講義	4前	1	15			
小計				0	12			
計(履修方法・卒業要件)				0	6	6		
開講単位数合計				112	54	166		
卒業要件(最低必要単位数)				112	14	126		

医療技術学部 鍼灸学科スポーツ特修コース 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 の 1 単位 あたりの 時間数 の 9 割 以上		
				必修	選択			
教養科目 人間関係と社会	基礎ゼミナール	演習	1前	2	15	必修 6 単位 + 選択 2 単位 以上		
	物理学	講義	1後	2	15			
	生物学	講義	1前	2	15			
	化学	講義	1後	2	15			
	情報処理	実習	2後	2	15			
	統計学	実習	3前	2	15			
	心理学	講義	2後	2	15			
	生命倫理学	講義	2後	2	15			
	哲学	講義	1後	2	15			
	社会福祉学	講義	2後	2	15			
	日本憲法	講義	1前	2	15			
	西洋史概説	講義	1前	2	15			
	西洋史概説	講義	2後	2	15			
	英語Ⅰ(初級)	実習	1前	2	15			
	英語Ⅱ(中級)	実習	1後	2	15			
英語Ⅲ(上級)	実習	1前	2	15				
医学英語	実習	1前	2	15				
基礎英語演習	実習	1前	2	15				
応用英語演習	実習	2後	2	15				
小計				16	22			
計(履修方法・卒業要件)				16	22	18		
共通科目 保健医療	MBS(Motivational Basis Seminar)	講義	1前	1	15	必修 9 単位 + 選択 2 単位 以上		
	チーム医療見学実習	実習	1前	1	15			
	医療コミュニケーション	実習	1前	1	15			
	チーム医療論	実習	1後	1	30			
	IT知識	実習	1前	1	15			
	基礎体育	実習	1後	2	30			
	健康科学Ⅰ(スポーツ社会学を含む)	講義	1前	2	15			
	健康科学Ⅱ	講義	1前	2	15			
	健康科学Ⅲ	講義	2後	2	15			
	栄養学	講義	2後	2	15			
	身体運動科学	実習	2後	2	15			
	西洋医療概論	講義	1後	2	15			
	統合医療概論	講義	2後	2	15			
	小計				9		12	
	計(履修方法・卒業要件)				9		2	11
専門科目 基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	講義	1通	4	15	必修 9 単位 以上		
	解剖学Ⅱ(神経)	講義	1後	2	15			
	解剖学Ⅲ(内臓・感覚)	講義	1後	2	15			
	生理学Ⅰ(動物生理学)	講義	1前	2	15			
	生理学Ⅱ(植物生理学)	講義	1後	2	15			
	生理学Ⅲ(応用生理学)	講義	1後	2	15			
	運動学	実習	2前	2	15			
	生化学	講義	2前	2	15			
	病理学	講義	2前	2	15			
	臨床医学概論	講義	2前	2	15			
	整形外科	講義	2後	2	15			
	内科	講義	2後	2	15			
	臨床医学各論Ⅰ	講義	3前	2	15			
	臨床医学各論Ⅱ	講義	3前	2	15			
	臨床医学各論Ⅲ	講義	3後	2	15			
スポーツ医学	実習	3前	2	15				
リハビリテーション医学	講義	3後	2	15				
画像診断学	講義	3後	2	15				
衛生学公衆衛生学	講義	3前	2	15				
小計				39	2			
計(履修方法・卒業要件)				39	0	39		
専門科目 基礎科目	経絡経穴Ⅰ	講義	1前	1	30	必修 4 3 単位		
	経絡経穴Ⅱ	講義	1後	1	30			
	経穴所解別演習Ⅰ	実習	2前	1	30			
	経穴所解別演習Ⅱ	実習	2後	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅰ	講義	2後	1	30			
	鍼灸科学概論Ⅱ	実習	3前	1	30			
	鍼灸学各論Ⅰ	講義	3前	1	30			
	鍼灸学各論Ⅱ	講義	1後	1	30			
	鍼灸学各論Ⅲ	講義	2前	1	30			
	小計				14		20	
	計(履修方法・卒業要件)				14		4	18
	履修単位合計				136		56	192

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		履修方法及び 卒業要件 の 1 単位 あたりの 時間数 の 9 割 以上		
				必修	選択			
履修 は り き ろ う 学 習	鍼灸安全学	講義	3後	1	30	必修 4 3 単位		
	臨床生理学	講義	2後	1	30			
	臨床鍼灸学	実習	3後	1	30			
	生体観察	実習	3前	1	30			
	運動機能神経実法	実習	2後	1	30			
	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	実習	2後	2	30			
	現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	実習	3前	2	30			
	現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	実習	3前	1	30			
	東洋医学系鍼灸実法	実習	2後	1	30			
	東洋医学各論Ⅰ	講義	2後	1	30			
	東洋医学各論Ⅱ	講義	3前	1	30			
	鍼灸経書論	講義	4後	1	30			
	関係法規	講義	4前	1	30			
	基礎鍼灸Ⅰ	実習	1前	1	30			
	基礎鍼灸Ⅱ	実習	1後	1	30			
基礎鍼灸Ⅲ	実習	1前	1	30				
基礎鍼灸Ⅳ	実習	1後	1	30				
応用鍼灸実法Ⅰ	実習	2前	1	30				
応用鍼灸実法Ⅱ	実習	2後	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	実習	2前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	実習	3前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	実習	3前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅳ	実習	3前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅴ	実習	3前	1	30				
現代医学系鍼灸学実習Ⅵ	実習	3前	1	30				
応用鍼灸治療学	実習	4前	1	30				
臨床灸実習	実習	3前	1	30				
特設鍼灸治療学	実習	4前	1	30				
附属施設実習	実習	3通	2	45				
附属施設実習Ⅱ	実習	3通	2	45				
小計				43	0			
計(履修方法・卒業要件)				43	0	43		
履修 は り き ろ う 学 習	キャリアデザイン	講義	1前	1	30	必修 1 5 単位		
	鍼灸総合演習Ⅰ	実習	4前	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅱ	実習	4通	2	30			
	鍼灸総合演習Ⅲ	実習	4後	2	30			
	運動生理学	講義	3前	2	15			
	運動生体機能学演習	実習	3後	2	15			
	卒業研究Ⅰ	実習	3前	1	30			
	卒業研究Ⅱ	実習	4前	1	30			
	野外見学実習Ⅰ	実習	2前	1	30			
	野外見学実習Ⅱ	実習	4前	1	30			
	小計				15		0	
	計(履修方法・卒業要件)				15		0	15
	履修 は り き ろ う 学 習	スポーツ実習Ⅰ(体力運動)	実習	1前	1		30	必修 1 4 の 中 位 か ら 選 択 1 単 位 以上
		スポーツ実習Ⅱ(球技)	実習	3前	1		30	
		スポーツ実習Ⅲ(球技)	実習	3後	1		30	
スポーツ実習Ⅳ(球技)		実習	3前	1	30			
スポーツ実習Ⅴ(球技)		実習	1後	1	30			
スポーツ実習Ⅵ(柔道)		実習	3前	1	30			
スポーツ実習Ⅶ(柔道)		実習	1前	1	30			
スポーツ実習Ⅷ(柔道)		実習	2後	1	30			
スポーツ実習Ⅷ(柔道)		実習	2後	1	30			
スポーツ実習Ⅸ(柔道)		実習	2前	1	30			
学校保健(小児保健・精神保健)		講義	3前	2	15			
学校保健(学校安全・救急処置)		講義	3後	2	15			
トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)		講義	1後	1	15			
トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビクス/ダンス/ウォーキング/ジョギング)		実習	1後	1	15			
トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)		実習	2後	1	15			
トレーニング科学演習Ⅳ(臨床実習)	実習	3後	1	15				
体対トレーニング論	講義	1前	2	15				
テーピング技術論	実習	2前	1	30				
スポーツマイオメカニクス	講義	2前	2	15				
介護学概論	講義	3後	1	30				
老年ケア演習	実習	3前	1	30				
体育療法※	講義	3前	2	15				
スポーツ心理学※	講義	3後	2	15				
スポーツ鍼灸学概論	実習	3前	1	30				
スポーツ鍼灸学各論	実習	3前	1	30				
スポーツ療養学・実習学	講義	4後	2	15				
スポーツ経営学	講義	4前	1	15				
小計				14	20			
計(履修方法・卒業要件)				14	4	18		
履修単位合計				136	56	192		

VI 履修案内

教職課程【中学校教諭一種(保健体育)免許】
 (2019年度以降入学生対象) ※鍼灸学科スポーツ特修コースのみ開講

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位の時間数	免許取得要件
				必修	選択		
教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	講義	3前	2		15	必修 8単位
	保健体育科教育法Ⅱ	講義	3前	2		15	
	保健体育科教育法Ⅲ	講義	3後	2		15	
	保健体育科教育法Ⅳ	講義	3後	2		15	
合計					8		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	必修 30単位
	教職論	講義	1前	2		15	
	教育行政学	講義	2後	2		15	
	教育心理学	講義	2後	2		15	
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15	
	教育課程論	講義	2前	2		15	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	講義	2後	2		15	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15	
	特別活動論	講義	2前	2		15	
	教育方法論	講義	3前	2		15	
	生徒指導・進路指導論	講義	2後	2		15	
	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15	
教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導	講義	3後	1		30	
	教育実習Ⅰ	実習	4前	2		30	
	教育実習Ⅱ	実習	4前	2		30	
	教職実践演習(中・高)	演習	4後	2		15	
	合計			30	0		

VI
履修案内

教職課程【高等学校教諭一種(保健体育)免許】
 (2019年度以降入学生対象) ※鍼灸学科スポーツ特修コースのみ開講

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1 時 間 の 単 位 あ り	免 許 取 得 要 件
				必修	選択		
教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	講義	3前	2		15	必修 4 単 位
	保健体育科教育法Ⅱ	講義	3前	2		15	
	保健体育科教育法Ⅲ	講義	3後		2	15	
	保健体育科教育法Ⅳ	講義	3後		2	15	
合計					4	4	
大学が独自に設定する科目	道徳教育論	講義	2後	2			必修 2 単 位
合計					2	0	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	必修 2 6 単 位
	教職論	講義	1前	2		15	
	教育行政学	講義	2後	2		15	
	教育心理学	講義	2後	2		15	
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15	
	教育課程論	講義	2前	2		15	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15	
	特別活動論	講義	2前	2		15	
	教育方法論	講義	3前	2		15	
	生徒指導・進路指導論	講義	2後	2		15	
教育実践に関する科目	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15	
	教育実習事前事後指導	講義	3後	1		30	
	教育実習Ⅰ	実習	4前		2	30	
	教育実習Ⅱ	実習	4前	2		30	
	教職実践演習(中・高)	演習	4後	2		15	
合計					26	2	

VI

履修案内

教職課程【中学校教諭一種(保健体育)免許】
 (2022年度以降入学生対象) ※鍼灸学科スポーツ特修コースのみ開講

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位の 時間数	要件
				必修	選択		
教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	講義	3前	2		15	必修 8単位
	保健体育科教育法Ⅱ	講義	3前	2		15	
	保健体育科教育法Ⅲ	講義	3後	2		15	
	保健体育科教育法Ⅳ	講義	3後	2		15	
合計					8		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	必修 31単位
	教職論	講義	1前	2		15	
	教育行政学	講義	2後	2		15	
	教育心理学	講義	2後	2		15	
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15	
	教育課程論	講義	2前	2		15	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	講義	2後	2		15	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15	
	特別活動論	講義	2前	2		15	
	教育方法論	講義	3前	2		15	
	ICT活用の理論と実践	演習	2後	1		15	
	生徒指導・進路指導論	講義	2後	2		15	
	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15	
教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導	講義	3後	1		30	
	教育実習Ⅰ	実習	4前	2		30	
	教育実習Ⅱ	実習	4前	2		30	
	教職実践演習(中・高)	演習	4後	2		15	
	合計				31	0	

教職課程【高等学校教諭一種(保健体育)免許】
 (2022年度以降入学生対象) ※鍼灸学科スポーツ特修コースのみ開講

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位の 時間数	1単位の 時間数	免許取得 要件
				必修	選択			
教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	講義	3前	2		15	必修 4単位	
	保健体育科教育法Ⅱ	講義	3前	2		15		
	保健体育科教育法Ⅲ	講義	3後		2	15		
	保健体育科教育法Ⅳ	講義	3後		2	15		
合計					4	4		
大学が独自に設定する科目	道徳教育論	講義	2後	2				必修 2単位
合計					2	0		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	1前	2		15	必修 27単位	
	教職論	講義	1前	2		15		
	教育行政学	講義	2後	2		15		
	教育心理学	講義	2後	2		15		
	特別支援教育概論	講義	2後	1		15		
	教育課程論	講義	2前	2		15		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	講義	2前	2		15		
	特別活動論	講義	2前	2		15		
	教育方法論	講義	3前	2		15		
	ICT活用の理論と実践	演習	2後	1		15		
	生徒指導・進路指導論	講義	2後	2		15		
	教育相談の基礎と方法	講義	2後	2		15		
教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導	講義	3後	1		30		
	教育実習Ⅰ	実習	4前		2	30		
	教育実習Ⅱ	実習	4前	2		30		
	教職実践演習(中・高)	演習	4後	2		15		
合計					27	2		

保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程) 授業科目・単位数(2023年度入学生対象)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			1単位あたりの時間数	履修方法及び要件
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
共通科目	補完統合ヘルスケア特論	1前		2	○			15	+ 選択4単位以上 必修4単位以上
	東洋医学史特論	1前		2	○			15	
	保健医療研究方法論	1前	2		○			15	
	保健医療教育特論	1前		2	○			15	
	QOL評価法特論	1後		2	○			15	
	プログラム言語特論	1後		2	○			15	
	生物統計学特論	1前	2		○			15	
	英語文献講読	1後		2	○			15	
	小計(8科目)	—	4	12		—	—	—	
健康増進領域	人体構造学特論	1後		2	○			15	他の領域から4単位以上の1つの領域を主たる領域として8単位以上、 1つの領域から4単位以上の12単位以上を含む22単位以上
	栄養・代謝生化学特論	1後		2	○			15	
	発達健康支援看護学特論	2前		2	○			15	
	発達支援リハビリテーション特論	1後		2	○			15	
	介護予防学特論	2前		2	○			15	
	運動生理学特論	2前		2	○			15	
	バイオメカニクス健康科学特論	2前		2	○			15	
	鍼灸健康科学特論	2前		2	○			15	
	放射線安全管理学特論	1後		2	○			15	
	生体防御系臨床鍼灸学特論	2後		2	○			15	
	心身健康科学特論	2後		2	○			15	
	小計(11科目)	—	0	22		—	—	—	
専門科目	血管病理病態学特論	2前		2	○			15	他の領域から4単位以上の1つの領域を主たる領域として8単位以上、 1つの領域から4単位以上の12単位以上を含む22単位以上
	臨床検査画像診断学特論	1後		2	○			15	
	血液学特論	1後		2	○			15	
	リハビリテーション学特論	1後		2	○			15	
	運動器理学療法学特論	1後		2	○			15	
	難病リハビリテーション特論	1後		2	○			15	
	認知症作業療法学特論	2前		2	○			15	
	柔道整復学特論	1後		2	○			15	
	現代臨床鍼灸学特論	1後		2	○			15	
	緩和ケア鍼灸学特論	2前		2	○			15	
	古典臨床鍼灸学特論	2前		2	○			15	
	療養支援看護学特論	2前		2	○			15	
	神経理学療法学特論	2前		2	○			15	
	内部障害理学療法学特論	2後		2	○			15	
	医用機器計測制御学特論	2前		2	○			15	
	シミュレーション医工学特論	1後		2	○			15	
	医療画像解析学特論	1後		2	○			15	
放射線治療技術学特論	2前		2	○			15		
分子イメージング解析学特論	1後		2	○			15		
診療画像検査学特論	2後		2	○			15		
医療画像読影技術学特論	2前		2	○			15		
	小計(21科目)	—	0	42		—	—	—	
特別研究と演習	専門演習	1通	4			○		15	必修10単位
	特別研究	1~2通	6			○		15	
	小計(2科目)	—	10	0		—	—	—	
合計(42科目)		—	14	76		—	—	—	

卒業要件及び履修方法

2年以上在学し、共通科目が必修科目4単位と選択科目4単位を含む8単位以上、専門科目は、専門演習と特別研究の必修10単位に加えて、2つの領域のうち1つの領域を主たる領域として8単位以上、他の領域から4単位以上の12単位以上を含む22単位以上の合計30単位以上を取得し、研究指導を受けて論文審査と最終試験に合格することが必要である。

VI
履修案内

保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程) 授業科目・単位数(2024年度以降入学生対象)

VI
履修案内

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			1単位あたりの時間数	履修方法及び要件	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習			
共通科目	補完統合ヘルスケア特論	1前		2	○			15	十 選 択 4 単 位 以 上	
	東洋医学史特論	1前		2	○			15		
	保健医療研究方法論	1前	2		○			15		
	保健医療教育特論	1前		2	○			15		
	質的研究方法論	1前		2	○			15		
	プログラム言語特論	1後		2	○			15		
	生物統計学特論	1前	2		○			15		
	リハビリテーション教育学特論	1後		2	○			15		
	英語文献講読	1後		2	○			15		
	小計(9科目)	—	4	14		—		—		—
健康増進領域	人体構造学特論	1後		2	○			15	1 つ の 領 域 を 主 た る 領 域 と し て 8 単 位 以 上 、 他 の 領 域 か ら 4 単 位 以 上 の 1 2 単 位 以 上	
	栄養・代謝生化学特論	1後		2	○			15		
	発達支援リハビリテーション特論	1後		2	○			15		
	介護予防学特論	2前		2	○			15		
	運動生理学特論	2前		2	○			15		
	バイオメカニクス健康科学特論	2前		2	○			15		
	鍼灸健康科学特論	2前		2	○			15		
	放射線安全管理学特論	1後		2	○			15		
	生体防御系臨床鍼灸学特論	2後		2	○			15		
	心身健康科学特論	2後		2	○			15		
	小計(10科目)	—	0	20		—		—		
	専門科目	臨床検査画像診断学特論	1後		2	○				15
		血液学特論	1後		2	○				15
		リハビリテーション学特論	1後		2	○				15
運動器理学療法学特論		1後		2	○			15		
難病リハビリテーション特論		1後		2	○			15		
認知症作業療法学特論		2前		2	○			15		
柔道整復学特論		1後		2	○			15		
現代臨床鍼灸学特論		1後		2	○			15		
緩和ケア鍼灸学特論		2前		2	○			15		
古典臨床鍼灸学特論		2前		2	○			15		
神経理学療法学特論		2前		2	○			15		
内部障害理学療法学特論		2後		2	○			15		
医用機器計測制御学特論		2前		2	○			15		
シミュレーション工医学特論		1後		2	○			15		
医療画像解析学特論		1後		2	○			15		
放射線治療技術学特論		2前		2	○			15		
診療画像検査学特論		2後		2	○			15		
医療画像読影技術学特論		2前		2	○			15		
小計(18科目)	—	0	36		—		—	—		
特別研究と演習	専門演習	1通	4			○		15	必 修 1 0 単 位	
	特別研究	1~2通	6			○		15		
	小計(2科目)	—	10	0		—		—		
合計(39科目)		—	14	70		—		—	—	
修了要件及び履修方法										
2年以上在学し、共通科目が必修科目4単位と選択科目4単位を含む8単位以上、専門科目は、専門演習と特別研究の必修10単位に加えて、2つの領域のうち1つの領域を主たる領域として8単位以上、他の領域から4単位以上の12単位以上を含む22単位以上の合計30単位以上を取得し、研究指導を受けて論文審査と最終試験に合格することが必要である。										

保健医療学研究科 看護学専攻(博士前期課程) 修士論文コース 授業科目・単位数(2023年度入学生対象)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			1単位あたりの時間数	履修方法及び要件	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習			
共通科目	看護倫理特論	1前	1		○			15	選択必修4単位以上	
	チーム医療特論	1前	1		○			15		
	保健医療研究方法論	1前	2		○			15		
	QOL評価法特論	1後		2	○			15		
	補完統合ヘルスケア特論	1前		2	○			15		
	英語文献講読	1後		2	○			15		
	東洋医学史特論	1前		2	○			15		
小計(7科目)	—	4	8	—			—	—		
専門科目	基礎看護学領域	看護研究特論	1前		2	○			15	1つの領域から選択4単位以上として選択28単位以上、
		看護教育学特論	1前		2	○			15	
		看護理論特論	1前		2	○			15	
		ヒューマンケア理論特論	1前		2	○			15	
		フィジカルアセスメント	1後		2	○			15	
		看護管理特論	1後		2	○			15	
		看護技術特論	1前		2	○			15	
	小計(7科目)	—	0	14	—			—		
	実践看護学領域	成人看護支援特論	1前		2	○			15	
		療養支援看護学特論Ⅰ(在宅・老年)	1前		2	○			15	
		療養支援看護学特論Ⅱ(精神)	1前		2	○			15	
		看護ケア特論	1前		2	○			15	
		育成看護学特論	1前		2	○			15	
		家族看護学特論	1前		2	○			15	
公衆衛生看護学特論		1後		2	○			15		
小計(7科目)	—	0	14	—			—			
特別研究と演習領域	専門演習	1後	2			○		15	必修単位10	
	特別研究Ⅰ	1通	4			○		15		
	特別研究Ⅱ	2通	4			○		15		
	小計(3科目)	—	10	0	—			—		
合計(24科目)		—	14	36	—			—	—	

卒業要件及び履修方法

2年以上在学し、「共通科目」は必修科目4単位と選択科目4単位を含む8単位以上、「専門科目」は、基盤看護学領域と実践看護学領域の2つの領域のうち1つの領域を主たる領域として選択8単位以上と他の領域から選択4単位以上の12単位以上、「特別研究と演習科目」は専門演習と特別研究Ⅰ・Ⅱの必修10単位として、合計30単位以上を修得し、研究指導を受けて論文審査と最終試験に合格することが必要である。

保健医療学研究科 看護学専攻 (博士前期課程) 授業科目・単位数 (2024年度以降入学生対象)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			1単位あたりの時間数	履修方法及び履修了要件
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
共通基盤科目	看護研究方法	1前	2			○		15	※ 必修2単位を含む14単位以上も履修可能 ※ 1年次または2年次のいずれでも
	看護倫理特論	1後・2後		2	○			15	
	ヒューマンケア理論特論	1前・2前		2	○			15	
	コンサルテーション特論	1後・2後		2	○			15	
	保健医療看護政策特論	1後・2後		2	○			15	
	家族看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	看護学英語文献講読	1後・2後		2	○			15	
	QOL評価法特論	1後・2後		2	○			15	
	医療安全・チーム医療特論	1後・2後		2	○			15	
	フィジカルアセスメント	1後・2後		2	○			15	
	補完統合ヘルスケア特論	1前・2前		2	○			15	
小計(11科目)	—	2	20	—	—	—	—	—	
専門科目	看護教育学特論	1前・2前		2	○			15	※ 専攻する専門看護学分野の特論2単位、専攻専門分野以外の特論4単位以上も履修可能 ※ 1年次または2年次のいずれでも
	看護管理学特論	1前・2前		2	○			15	
	急性・慢性・がん看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	老年看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	在宅看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	精神看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	育成看護学特論	1前・2前		2	○			15	
	公衆衛生看護学特論	1前・2前		2	○			15	
小計(8科目)	—	0	16	—	—	—	—		
研究科目	専門分野研究方法	1後	2			○		15	必修10単位
	特別研究	2通	8			○		15	
	小計(2科目)	—	10	0	—	—	—	—	
		—	12		—	—	—	—	
2年以上在学中、「共通基盤科目」から必修科目の「看護研究方法」を含む14単位以上、「専門科目」から専攻する専門看護学分野の特論2谷および専攻専門分野以外の特論4単位以上の計6単位以上、「研究科目」の10単位以上の総計30単位以上を修得し、研究指導を受けて論文審査と最終試験に合格することが必要である。									

VI
履修案内

保健医療学研究科 看護学専攻(博士前期課程)NPコース 授業科目・単位数(2023年度入学生対象)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		1単位あたりの時間数	時間数	授業形態			履修方法及び要件
			必修	選択			講義	演習	実習	
共通科目	看護倫理特論	1前	1		15	15	○			選択2必修4単元以上
	チーム医療特論	1前	1		15	15	○			
	保健医療福祉法特論	1前	2		15	30	○			
	保健医療研究方法論	1前		2	15	30	○			
	英語文献購読	1後	2	15	30	○				
	小計	—	4	4	—		—			4
基盤看護学領域	看護研究特論	1前	2		15	30	○			選択2必修4単元以上
	看護管理特論	1後		2	15	30	○			
	看護教育学特論	1前		2	15	30	○			
	看護技術特論	1前		2	15	30	○			
	ヒューマンケア理論特論	1前		2	15	30	○			
	小計	—	2	8	—		—			8
実践看護学領域	診療看護師総論	1前	1		15	15	○			選択2必修15単元以上
	クリティカルケア特論	1後集中		2	15	30	○			
	プライマリケア特論	1後集中		2	15	30	○			
	統合臨床病態生理学・疾病概論	1前	2		15	30	○			
	臨床病態生理学・疾病特論	1通	2		30	60	○			
	臨床推論	1前	1		30	30	○			
	臨床推論演習	1通	2		30	60		○		
	フィジカルアセスメント特論	1前	1		30	30	○			
	フィジカルアセスメント演習	1通	1		30	30		○		
	臨床薬理学特論Ⅰ	1前	1		30	30	○			
	臨床薬理学特論Ⅱ	1通	2		15	30	○			
	統合医療安全・特定行為実践特論	1前	1		30	30	○	○		
特定行為共通科目統合演習	1前	1		30	30	○	○			
	小計	—	15	4	—		—			17
治療マネジメント	周麻酔・周術期治療の実践Ⅰ	1通	2		30	60	○			選択7単元以上
	周麻酔・周術期治療の実践Ⅱ	1通	1		30	30	○			
	在宅・慢性期治療の実践	1通	3		30	90	○			
	カテーテルドレーン管理の実践	1通	2		30	60	○			
	薬物治療の実践Ⅰ	1通	2		30	60	○			
	薬物治療の実践Ⅱ	1通	2		30	60	○			
		小計	—		12	—		—		
実習	特定行為実習Ⅰ(クリティカル)	1・2通		3	45	135			○	選択3必修12単元以上
	特定行為実習Ⅱ(プライマリ)	1・2通		3	45	135			○	
	診療看護実習Ⅰ	1後集中		5	45	225			○	
	診療看護実習Ⅱ	2前		7	45	315			○	
	小計		12	6			—			15
課題研究	課題研究専門演習	1前	2		15	30		○		必修6単
	課題研究	1・2通	4		30	120		○		
	小計	—	6	0	—	—	—	—		6
	開講単位数合計	—	39	34	—	—	—	—		57
	卒業要件(最低必要単位数)	—	39	18	—	—	—	—		57

修了要件及び履修方法

【修了要件】

2年以上在学し、「共通科目」が必修科目4単位と選択科目2単位を含む6単元以上、専門科目の「基盤看護学領域」の必修科目2単位と選択科目4単位を含む6単元以上、「実践看護学領域」の必修科目15単位と選択科目2単位以上を含む17単元以上、「治療マネジメント」の選択科目7単元以上、「実習」の必修科目12単位と選択科目3単元以上、「課題研究」の必修科目6単位の合計57単元以上を修得し、課題研究指導を受けて論文審査と最終試験に合格することが必要である。

保健医療学研究所 医療科学専攻（博士後期課程） 授業科目・単位数（2022年度以降入学生対象）

科目区分	授業科目の名称	単位数		1単位あたりの時間数	授業形態			配当年次	卒業要件及び履修方法	
		必修	選択		講義	演習	実験・実習			
共通科目	生物統計学後期特論	2		15	○			1前	必修6単位	
	医療科学研究方法論	2		15	○			1前		
	研究倫理特論	2		15	○			1前		
小計(3科目)		6	0		-			-	-	
専門科目	健康機能科学系	システム生理学特論		2	15	○			1後	健康機能科学系及び医療技術開発系から自身の専門領域に最も近い選択科目の特論2単位以上
		臨床神経解剖学特論		2	15	○			1後	
		分子治療学特論		2	15	○			1後	
		分子病態検査学特論		2	15	○			1後	
		計測数理モデル特論		2	15	○			1後	
		生体情報解析学特論		2	15	○			1後	
	小計(6科目)		0	12		-			-	
	医療技術開発系	介護予防技術開発特論		2	15	○			1後	
		生活支援技術開発特論		2	15	○			1後	
		心理社会作業療法学特論		2	15	○			1後	
		鍼灸医療技術開発特論		2	15	○			1後	
		臨床理学療法技術開発特論		2	15	○			1後	
		バイオメディカルエンジニアリング特論		2	15	○			1後	
	放射線技術開発特論			2	15	○			1後	
	小計(7科目)		0	14		-			-	
専攻科目	後期専門演習	2		15		○		1後	必修2単位	
小計(1科目)		2	0		-			-	-	
特別研究	後期特別研究Ⅰ	4		15		○		1通	必修12単位	
	後期特別研究Ⅱ	4		15		○		2通		
	後期特別研究Ⅲ	4		15		○		3通		
小計(3科目)		12	0		-			-	-	
合計(20科目)		20	26		-			-	-	
卒業要件及び履修方法										
共通科目で6単位、専門科目は健康機能科学系及び医療技術開発系から自身の専門領域に最も近い選択科目の特論2単位以上、専門演習科目2単位及び特別研究科目12単位の計22単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。										

VI
履修案内

保健医療学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 授業科目・単位数 (2022年度以降入学生対象)

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			配当年次	卒業要件及び履修方法及び
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
共通科目	看護研究倫理特論	2			○			1前	必修6単位
	看護研究方法論	2			○			1前	
	看護教育学研究特論	2			○			1前	
	小計 (3科目)	6	0	0	-			-	
専門科目	看護技術開発特論		2		○			1後	選択2単位以上
	看護理論後期特論		2		○			1後	
	公衆衛生看護学後期特論		2		○			1後	
	育成看護学後期特論		2		○			1後	
	療養支援看護学後期特論 I		2		○			1後	
	療養支援看護学後期特論 II		2		○			1後	
	成人看護支援後期特論		2		○			1後	
小計 (7科目)	0	14	0	-			-	-	
特別研究と演習科目	後期専門演習	2				○		1後	必修2単位
	小計 (1科目)	2	0	0	-			-	-
	後期特別研究 I	4				○		1通	必修12単位
	後期特別研究 II	4				○		2通	
	後期特別研究 III	4				○		3通	
小計 (3科目)	12	0	0	-			-	-	
合計 (14科目)		20	14	0	-			-	-
卒業要件及び履修方法									
共通科目で6単位、専門科目より選択科目の特論2単位以上、専門演習科目2単位及び特別研究科目12単位の計22単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。									

助産学専攻科 授業科目・単位数 (2023年度以降入学生対象)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数		1単位あたりの時間数	履修方法及び卒業要件
				必修	選択		
助産学 基礎	助産学総論	講義	1前	1	/	15	必修 35 単位
	女性健康学総論	講義	1通	2	/	15	
	新生児診断・発達論	講義	1前	1	/	15	
	ハイリスク母子支援論	講義	1前	1	/	15	
	ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア	講義	1前	1	/	15	
計(履修方法・卒業要件)				6	/		
実践 助産学	分娩助産技術学演習	演習	1前	2	/	15	
	助産診断・技術学Ⅰ	演習	1通	2	/	30	
	助産診断・技術学Ⅱ	演習	1通	2	/	30	
	助産診断・技術学Ⅲ	演習	1通	2	/	30	
	助産診断・技術学Ⅳ	演習	1通	2	/	30	
	地域母子保健学	講義	1前	2	/	15	
	助産管理学	演習	1前	2	/	15	
	助産学実習Ⅰ	実習	1通	8	/	45	
	助産学実習Ⅱ	実習	1通	2	/	45	
	ハイリスク母子実習	実習	1通	1	/	30	
	地域母子保健実習	実習	1通	1	/	30	
計(履修方法・卒業要件)				26	/		
助産学 統合	補完代替医療とアロマセラピー	演習	1前	1	/	30	
	助産学課題研究	演習	1通	2	/	30	
計(履修方法・卒業要件)				3	/		
卒業要件(最低必要単位数)				35	/		

VI

履修案内

1 学科試験

定期試験、追試験、再試験、その他の試験等があります。

※申込みが必要な試験において、受験後に申し込み手続きが完了していないことが発覚した場合は受験取り消しとなりますので申し込み方法、手続き、期間等に関しては必ず確認して下さい。

1) 定期試験・追試験・再試験

(1) 定期試験

成績評価資格（定期試験受験資格）：指定期日内に学納金を納入し、履修登録を行った各科目が規定する出席時間数を満たしている者。

回数	単期科目・通年科目ともに年1回実施します。
方法	筆記試験、実技試験、レポート試験、または「シラバスに記載の方法」で行います。
出題	授業担当教員が出題します。
日程及び場所	筆記試験および実技試験の時間割を実施4週間前までにMORIPAに掲示します。
結果	大学が指定する日に発表します。MORIPAにて確認して下さい。

(2) 追試験

対象者	定期試験に欠席した者のうち、公欠事由または公欠事由に相当すると学長が認めた者。
受験申込み	受験希望者は、大学が指定する期日に所定の受験手続きを行って下さい。
受験料	必要ありません。
方法	実施および評価の要領は定期試験に準じます。
辞退届	追試験を受験しない場合は、教務課に「受験辞退届」の提出が必要です。なお、追試験を辞退できるのは原則、選択科目のみです。
結果	大学が指定する日に発表します。MORIPAにて確認して下さい。

(3) 再試験

対象者	成績評価（定期試験）が不合格の者。 ※ただし、担当教員および所属学科が再試験を行わないと判断した場合はこの限りではありません。
受験申込み	受験希望者は、大学が指定する期日に所定の受験手続きを行って下さい。
受験料	1科目につき受験料2,000円が必要です。
方法	実施および評価の要領は定期試験に準じます。ただし、合格者の成績評価はすべて60点（可）とします。
辞退届	再試験を受験しない場合は、教務課に「受験辞退届」の提出が必要です。なお、再試験を辞退できるのは原則、選択科目のみです。
結果	大学が指定する日に発表します。MORIPAにて確認して下さい。

2) その他の試験

(1) 特別試験

学長が特別に必要と認めた場合に実施します。受験申込みは、あらかじめ指定した方法により行います。受験には1科目につき定められた受験料（10,000円）が必要な場合があります。実施および評価の要領は対象となる試験により異なります。都度、授業や掲示板等で発表される試験要領等を確認するようにして下さい。

(2) 臨時試験

担当教員が必要と認めた場合に実施します。ただし、これに係る試験の申込み手続きは不要です。

3) 試験の実施方法

(1) 筆記試験

時 間	原則として1科目60分です。
入 室	試験監督の指示に従い速やかに着席して下さい。
遅 刻	試験開始後30分まで入室を認めます。
退 室	試験開始後30分経過後の退室を許可します。

(2) 実技試験

時 間	科目によって異なりますので事前に通知します。
入 室	試験監督の指示に従って下さい。
準 備	指定された服装と必要な用具類がなければ受験できません。
遅 刻	原則として認めません。

(3) レポート試験

担当教員の指示（提出期限、様式等）に従って提出して下さい。

4) 成績評価と合否判定

- 方法：シラバスに記載した評価方法に基づいて点数評価し、100点満点に換算して60点以上を合格とします。
- 答案の返却：答案用紙は原則として返却しません。

5) 不正行為

不正行為が発覚した場合、その者は当該学期におけるすべての科目の単位を認めず、翌年度に再度履修し、定期試験を受験して単位を修得することになります。また、学則に基づき懲戒処分の対象となります。

6) レポート・論文の剽窃（ひょうせつ）（盗用）行為についての注意

授業の課題として課せられるレポートや論文を作成する際に、他者の文章（書籍・論文・新聞・Web ページ等）をそのまま無断で借用することや、友人が作成した文章を自分の文章であるかのようにみせかける剽窃は絶対にしてはいけない不正行為です。剽窃は、他者の学問的業績を無断で借用することであり、学問のルールに反するだけでなく、場合によっては著作権を侵害する犯罪行為にもなる社会的に許されない行為です。

次のような行為は、剽窃とみなされます。また、これに類似した行為や剽窃を助ける行為（レポート等のひな形を作成して他者に見せること等）も同様です。

①活字媒体（書籍・論文・新聞等）や Web サイト等に掲載された他者の文章（無署名であっても）や資料等について、出典を示さずにそのまま使う（あるいは前後関係や語句を若干変更した程度でレポート・論文を作成すること）。

②引用した部分を具体的に示さず、レポート・論文の最後に「○○参照」等と簡単に触れるにとどめること。

③他者が作成した文章をあたかも自分が作成したかのごとくみせかけて、あるいは前後関係や語句を若干変更してレポート・論文を作成すること。

以上のような、剽窃あるいは剽窃を助ける行為が明らかになった場合、不正行為とみなされます。不正行為を行った者に対しては、「5）不正行為」の対応・処分が適用される場合があります。

7) 生成系AIの使用についての注意

昨今、生成系AI(ChatGPT等)が複数発表され、大きな注目を集めています。画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどさまざまなコンテンツを生成することのできる人工知能ですが、有用性のみならず、技術的課題や「機密情報や個人情報などが漏出する」、「書かれている内容には虚偽が含まれている」等のリスクも存在しています。

本学では、AIチャットボットが生成した文章・画像等を使用したレポート・小論文等課題は、本人が作成したものとは言えず、これを認めません。不適切な使用を行った者に対しては、「5）不正行為」の対応・処分が適用される場合があります。

ただし、教員の許可があればその指示の範囲内で使用することは可とします。

8) 試験に関する諸注意

- (1)受験申込書が必要な試験については原則、申込み手続きが完了していないと受験できません。くれぐれも申込み期限を厳守して下さい。なお、申込み手続きの際には学生証の提示が必要です。
- (2)試験の際は、所定の席に着き、必ず学生証を机上に提示して下さい。学生証の提示がない場合は受験できません。
- (3)学生証を忘れた場合は、当該試験期間中1回に限り仮学生証(当日のみ有効)を教務課において発行します。当該試験期間中の2回目以降は、総務課にて学生証即日再発行(手数料2,500円)が必要となります。
- (4)筆記試験会場への入室は試験開始より30分以内とします。30分経過後は理由の如何を問わず入室はできません。
- (5)受験後の退室は、試験開始後30分より認められます。ただし、当該教員の判断により退室を認めないことがあります。
- (6)許可された物以外は、机の上に置くことができません。
- (7)試験中は携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類の電源は必ず切って鞆の中にしまして下さい。これらの電子機器類を時計として使用することはできません。
- (8)試験時に配布された問題や答案用紙の破棄、持ち帰りは一切認めません。
※ただし、主担当教員が認めた場合はこの限りではありません

9) 成績評価に関する異議申し立て

授業科目の成績評価について、成績評価が不可または無資格の科目で明らかに誤りであると思われるなど異議申し立てを行う場合には、各成績発表日より3日以内にイーストポート1階教務課の窓口まで申し出てください。

2 単位の認定

1) 評定

100点満点による点数評価に基づき下表の通り4段階評定とし、「可」以上を合格として単位を認定します。

2) 成績評価

- (1)成績の評価は、各科目のシラバスに記載した方法によって行います。
 (2)評価に基づいて履修している科目の単位を認定します。

(2021年度以前入学生対象)

得点	評定
80点以上	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可
既修得単位認定	認定

(2022年度以降入学生対象)

得点	評定
90点以上	秀
80点以上90点未満	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可
既修得単位認定	認定

3) 卒業認定と学位の授与

卒業要件を満たしている者は卒業を認定され、卒業証書ならびに学位が授与されます。

学科・研究科	学位
看護学科	学士（看護学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
言語聴覚学科	学士（言語聴覚学）
臨床検査学科	学士（臨床検査学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
診療放射線学科	学士（診療放射線学）
鍼灸学科	学士（鍼灸学）
保健医療学研究科 保健医療学専攻	修士（保健医療学）
保健医療学研究科 看護学専攻	修士（看護学）
保健医療学研究科 医療科学専攻	博士（医療科学）
保健医療学研究科 看護学専攻	博士（看護学）

※助産学専攻科を修了された方には修了証をお渡しします。

4) GPAについて

GPA制度は国際的に利用されている成績評価制度です。履修した科目の成績を不合格科目も含めて5.0～0.0（2021年度以前入学生対象）もしくは4.0～0.0（2022年度以降入学生対象）でポイント化し、平均値で表します。高等学校の評定平均値のように、学業結果を総合的に判断する指標として役立ちます。MORIPAの成績閲覧機能の中に記載されていますので今後の勉学に役立ててください。また、GPAが一定の基準を満たさない場合は、学修指導等を行うことがあります。

GPA換算表(2021年度以前入学生対象)

評価	評価点数	GP	備考
優	90～100点	5.0	—
優	80～89点	4.0	—
良	70～79点	3.0	—
可	60～69点	2.0	—
不可	59点以下	1.0	受験資格はあるが、最終評価で59点以下の場合
無資格 (受験不可)	受験資格なし	0	欠席回数が規定回数以上のため、受験資格がない場合

GPA換算表(2022年度以降入学生対象)

評価	評価点数	GP	備考
秀	90～100点	4.0	—
優	80～89点	3.0	—
良	70～79点	2.0	—
可	60～69点	1.0	—
不可	59点以下	0	受験資格はあるが、最終評価で59点以下の場合
無資格 (受験不可)	受験資格なし	0	欠席回数が規定回数以上のため、受験資格がない場合



MORIPAとは履修登録や時間割、成績、出欠状況等をWEB上で登録、確認できるシステムです。詳細についてはMORIPAのメニュータブ「マニュアル」から各種マニュアルを参照して下さい。

1 各種機能

1) 履修登録

本学では履修する授業の届出をMORIPAにて行っています。指定された期日までにMORIPAにアクセスし、履修する科目を登録して下さい。正確に履修登録できているか、指定された履修登録確認・修正期間において「学生時間割表」機能により自分の履修登録科目を確認し、修正が必要な場合は期間内に修正して下さい。履修登録確認・修正期間終了後はいかなる理由であっても、追加・修正は認めません。

2) 学生時間割表

履修登録した時間割を確認することができます。

3) 成績照会

MORIPAの成績照会機能より履修した科目の成績を確認することができます。この機能を用いて各種試験の成績を発表します。成績が発表され次第、必ず確認して下さい。

4) 休講・補講

MORIPAホーム画面の休講・補講情報にて休講情報および補講情報を確認することができます。

5) 出欠状況確認

授業の出欠状況を確認することができます。各授業形態により成績評価資格（定期試験受験資格）に必要な出席時間数が異なりますので確認して下さい。また、出欠に誤りがある場合は最終授業日までに授業担当教員に相談して下さい。

※出席率は目安です。成績評価資格の判断は出席回数で行いますので注意して下さい。

6) 求人情報検索

本学に届いている医療職に関する各年度の求人情報や過去の採用試験（筆記試験・面接試験）情報を閲覧することができます。詳細は、「XV. 進路支援」の頁を参照して下さい。

7) 掲示板

大学からのお知らせを確認することができます。大学内の各掲示板とあわせて、MORIPA掲示板も必ず確認して下さい。また、MORIPAに掲載されたお知らせのうち、一部の情報（重要なお知らせなど）はMORIメールにも配信されます。スマートフォンやパソコンでMORIメールを受信できるように設定しておいてください。

※MORIPA掲示板に登録された内容がすべてメールで届くわけではありません。大学からのお知らせは必ずMORIPAの掲示板を確認してください。

8) 学籍情報変更

学籍情報（学生本人及び保証人の現住所や電話番号、通学経路等）の変更手続きをすることができます。

※詳細はMORIPAに掲載しているマニュアルを確認して下さい。

※氏名変更については総務課窓口までお越し下さい。

2 アクセス方法

次のいずれかの方法で、MORIPAへアクセスできます。

1) 本学ホームページからアクセスする

トップページ>在学生の方へ>MORIPA（学務システム）

2) URL (QRコード) からアクセスする

【URL】 <https://portal.morinomiya-u.jp>



★オススメ★

スマートフォンからQRコードを読み取り、アイコンを「ホーム画面に追加」しておくくと便利です。

3 パスワードについて

MORIPAを使用するには、IDとパスワードが必要です。他人に知られないようにするとともに、絶対忘れないようにして下さい。なお、MORIPAホーム画面の個人情報からパスワードの変更ができます。

1) ログイン失敗によるアカウントの制限について

パスワード入力を連続5回誤ると、セキュリティの関係上ログインを制限(ロック)します。ロック後30分を経過すると、自動的にロックが解除されログインを再試行することができます。すぐにロック解除が必要な場合は、学生証を持参の上、情報システム課まで申し出て下さい。

2) パスワードの紛失及び再発行

MORIPAログイン画面の「仮パスワード発行・パスワードを忘れた方」より、ユーザIDとメールアドレス（MORIメール）を入力し送信するとMORIメールに仮パスワードが届きます。仮パスワードを用いてMORIPAへログイン後、パスワードを変更（再設定）してください。

4 メンテナンスについて

毎日夜深3：00～5：00まではサーバーメンテナンスのためログインが出来ませんのでご注意ください。また、臨時のメンテナンスを実施する場合、システムのログイン画面や掲示板にて連絡します。

IX 学納金

1 納入方法について

1) 口座振替

電気・ガス・水道等と同様に、あらかじめご登録いただいた預貯金口座から、本学の指定日に学費を振り替え（引き落とし）いたします。口座振替の手数料は本学負担となり、学費支弁者様の振込手数料の負担、銀行窓口での振込手続きの手間が無くなります。

<振替口座の登録について>

振替口座はパソコンやスマートフォンからWeb上で登録することができます。

2) 銀行振込

事情により口座振替の利用を希望されない場合は、銀行振込での納付となります。申請が必要となりますので口座振替日の2週間前までに会計課（06-6616-6911）までご連絡ください。

なお、銀行振込をご利用の場合、振込手数料はご本人負担（振込主負担）となります。

2 納入時期について

学納金の納入時期は下記となります。口座振替日または振込期日につきましては、事前に「学納金納付（口座振替）についてのご案内」を送付いたしますので、ご案内が手元に届きましたらご確認ください。

1) 前期納入分

(1)口座振替：当該年度の4月下旬で指定された口座振替日

(2)銀行振込：当該年度の4月下旬で指定された振込期日

2) 後期納入分

(1)口座振替：当該年度の10月上旬で指定された口座振替日

(2)銀行振込：当該年度の10月上旬で指定された振込期日


※公的な制度（2020年度から開始された修学支援制度等） 手続きの場合は、本学所定の用紙を提出する事で、上記納入期限とは別の期日を案内します。

3 注意事項

(1)納入された学納金については理由の如何にかかわらず返還しません。

(2)正当な理由なく滞りした場合、学則に基づき除籍とします。期限までに納入するよう注意して下さい。



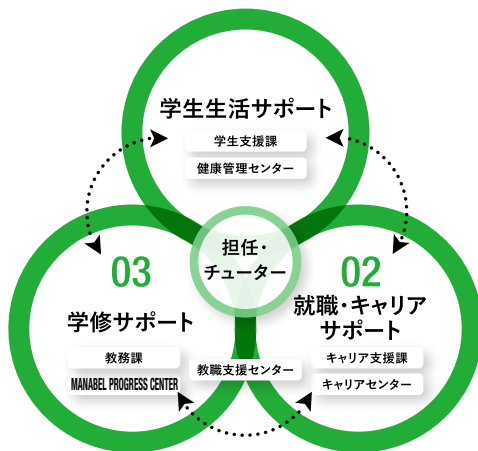
 [詳細はこちら](https://www.morinomiya-u.ac.jp/for_student/kouza.html) 学費等の口座振替についてのご案内（本学ホームページ）

https://www.morinomiya-u.ac.jp/for_student/kouza.html



1 トリプルサポート

本学では、普段の学修や大学生活から国家試験対策・就職まで支援するトリプルサポート体制を行っています。



1) 担任・チューター制度

各学科では担任・チューター制度等を採用しています。いずれも、学業のみならず大学生活全般にわたる問題の相談に応じます。課外活動や将来の進路および休退学等、個人的な問題についても、遠慮なく気軽に相談して下さい。

2) オフィスアワー

「オフィスアワー」とは、教員と学生がコミュニケーションを取るために設けられた時間です。授業内容についての質問はもちろん、教員との親交を深める時間として大いに利用して下さい。教員によってオフィスアワーにあてる時間が異なります。シラバスやMORIPA教員時間割表、または各教員へ直接確認の上、活用下さい。

3) 学生生活サポート

(1) 学生支援課

学生支援課では奨学金、部活動、各種手続き、一人暮らしなどの生活相談まで大学生活全般のバックアップをしています。大学生活で何か困ったことがあればまずはイーストポート1階学生支援課まで来て下さい。

(2) 健康管理センター

健康管理センターでは、充実した学生生活が送れるように、「からだ」と「こころ」の両面をサポートします。急病対応・怪我の処置、健康相談、メンタルヘルス相談、カウンセリング、学生保険「Will」への対応、感染症対策等を実施しており、また禁煙、DV、ハラスメント等の相談も受け付けます。気軽にイーストポート1階健康管理センターまで来て下さい。健康管理センターに

は、医師・看護師・カウンセラーがいます。

(3)学生相談

大学生活や学業についての相談は日頃よりクラス担任やチューターの教員が対応しますが、学生支援課・健康管理センターでも、その他大学生活全般に関わることについての相談を受け付けています。また、個人的な悩みやストレスに関するカウンセリングも行っています。プライバシーに関しては十分配慮し、守秘しますので安心してお話し下さい。相談・カウンセリングを希望する場合は、学生支援課・健康管理センターに申し込みをして下さい。カウンセリング予約方法は「XI. ヘルスプロモーション（「からだ」と「こころ」の健康づくり）」の「2. 健康管理センター利用について」の頁を参照して下さい。

また、24時間電話健康相談サービス・メンタルヘルスのカウンセリングサービス・ハラスメント相談サービスを設置しています(外部委託)。相談内容は学生本人の許可なく大学に情報提供されることはありませんので安心して利用して下さい。詳しくはMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認して下さい。(電話番号0120-718998)

4) 就職・キャリアサポート

(1)キャリアセンター

キャリアセンターでは合同就職説明会やキャリア支援セミナー、就職ガイダンスなどを開催し、皆さんの進路についてサポートしています。進路について相談や質問などがありましたら、イーストポート1階にあるキャリアセンターまでお越しください。

(2)教職支援センター

教職支援センターでは「看護師+養護教諭」、「鍼灸師（はり師・きゅう師）+保健体育教諭（中学校・高等学校）」という医療資格と教員免許のダブルライセンスをめざす学生に対して、履修指導や各種ガイダンス、教員採用試験対策などのサポートをしています。

教員免許取得に関する質問などがありましたら、イーストポート1階にある教職支援センターまでお越しください。

5) 学修サポート

(1)MANABEL PROGRESS CENTER（通称MANABEL：マナベル）

MANABEL PROGRESS CENTERは、学生への総合的な学修相談および学修指導等の支援を行い、本学の学修教育の充実を図ることを目的としています。

学生のみなさんが、それぞれの国家試験および教員採用試験、その他の関連資格に合格できるよう、各学科と連携・協力しあいながら全学生を対象にサポートします。学生交流イベントなど各種イベント企画も行っており、充実した大学生活が送れるようにサポートします。入学してからレポートの書き方がわからない、勉強の仕方がわからない、また国家試験対策のアドバイスが欲しい等、学修面で戸惑った際はMANABEL PROGRESS CENTERを活用して下さい。

各種講座等の開催時間や担当者については、掲示板またはイーストポート1階MANABEL PROGRESS CENTERにて確認して下さい。

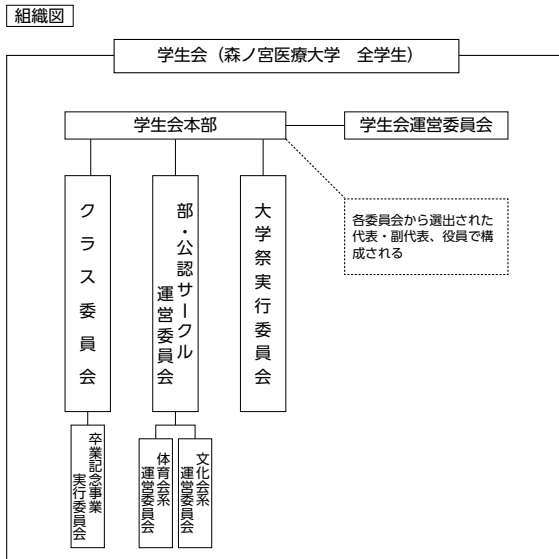
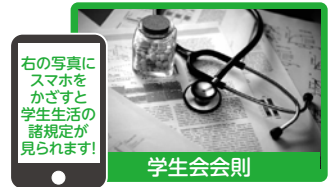


6) ボランティア

医療機関からのボランティア情報はキャリアセンター、その他自治体などからのボランティア情報は学生支援課が管理しています。「ボランティア人材バンク」登録者には定期的にMORIPAを通じて情報を公開していますので、活動を希望する場合は必ず登録してください。

2 学生会

森ノ宮医療大学における学生の課外活動の充実と発展および学生相互の親睦を深めることを目的として学生会があります。学生会での事業内容は、学生会本部で審議され、各委員会が中心となり、実行します。毎年4月下旬（予定）に学生会総会を開催し、学生会運営の中心となる役員を選出します。学生会の詳細な内容については、森ノ宮医療大学学生会会則を参照して下さい。



2 各委員会の役割(クラス委員会、部・公認サークル運営委員会、大学祭実行委員会、卒業記念事業実行委員会)

1) クラス委員会

クラス委員会は、各学科各学年の代表者で構成され、次の役割を担います。

- (1) クラス内の意見や希望の取りまとめ役をする。
- (2) 大学の連絡事項をクラス全体へ伝達する。
- (3) 学生と教職員の橋渡し役をする。

(4)率先してクラスの健全な運営や明るく楽しいクラスのムード作りに努める。

2) 部・公認サークル運営委員会

部・公認サークル運営委員会は、各部・公認サークルの代表者で構成され、次の役割を担います。

- (1)各部・公認サークルの意見や希望の取りまとめ役をする。
- (2)大学の連絡事項を各部・公認サークル全体へ伝達する。
- (3)部員と指導者の橋渡し役をする。
- (4)森ノ宮医療大学の発展に資する活動ができる団体作りに努める。

3) 大学祭実行委員会

大学祭実行委員会は、大学祭を企画・運営します。

4) 卒業記念事業実行委員会

卒業記念事業実行委員会は、クラス委員と協力しアルバム作成および謝恩会を企画・運営します。

4 禁酒・禁煙

未成年者の飲酒・喫煙は法律で禁じられています。成人に達した後も学内での飲酒は禁止です。成人の喫煙も様々な健康上の被害が予想されますが、未成年者の喫煙には成人以上の深刻な被害が報告されています。未成年者は、成人に比ベニコチンへの依存度が強くなりやすく、一度吸い始めると、止めることが大変難しくなります。またタバコを吸い始めた年齢が若いほど、ガンや循環器系疾患等、様々な病気にかかりやすくなります。「健康増進法」の施行に伴い、様々な場所で全面禁煙化が進んでいます。自分や周囲のためにも、タバコは吸わないようにしましょう。

本学では、大学敷地内および大学周辺において全面禁煙を実施し、2017年4月1日に禁煙宣言をしました。さらに、2018年度から、入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とし、入学時に「禁煙誓約書」の提出を義務付けています。また、大阪市では「ポイ捨て等および路上喫煙の防止に関する条例」で、受動喫煙による健康被害やたばこの火による危害に対する予防措置として、路上喫煙は規制されています。近隣施設や住民の方々の迷惑となる行為は慎み、本学学生、将来の医療人として品位ある行動を心掛けて下さい。本学では、定期的に見回りを実施しています。大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を発見した場合には、厳重な指導・注意を行い、2017年度以前入学者についても「禁煙誓約書」の提出を義務付けます。なお、度重なる注意によっても、違反行為が改まらない場合は、退学・停学・訓告といった懲戒の対象になることもあります。

5 ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) について

近年、SNSの利用者増加に伴い、インターネットでのトラブルが増えています。インターネットを利用するうえで、世界中の人が閲覧可能であり、一度流れた情報は制御できないということを常に意識し、本名や学校名、勤務先、家族構成、写真等の非常に詳細な個人情報の管理については、慎重に行って下さい。

ソーシャルメディアを利用する際には、次のことに注意して下さい。

- ① SNSにおいても実社会と同じように社会的なルールを守らなければならない。

- ② SNS上には不確かな情報が掲載されていることを認識する。
- ③ SNSに書き込んだ情報を不特定多数の人が見ることを意識し、一度発信した内容は完全に削除できない。
- ④ 芸能人の顔写真やアニメのキャラクターを無断で使用しない。
- ⑤ 他人を誹謗中傷したり悪口を言ったり等、読む人が不快になる内容を書かない。

6 キャンパス・ハラスメントの防止

キャンパス・ハラスメントとは、大学内での力関係（権力や地位）を利用して、勉強・研究・課外活動等の関係において、行為者本人の意図に関わらず、相手が不快なものを受け取り、その言動によって不利益を受け、人権侵害あるいは脅威を与えられることにより、修学環境を悪化させるものをいいます。セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント等、大学内の様々なハラスメントが、キャンパス・ハラスメントです。また、「大学内」というのは、大学の敷地内、授業時間内だけを指すではありません。教職員、学生間の人間関係によるものであれば場所、時間に拘わらずキャンパス・ハラスメントです。

ハラスメントとは何かを充分理解し、起こらないように努力する必要があります。日頃から、互いの人格を尊重した言動を心がけるようにしましょう。ハラスメントの被害にあった時や見かけた時はクラス担任・チューター、学生支援課に遠慮なく相談して下さい。

1) セクシャル・ハラスメント

セクシャル・ハラスメントは、相手を不快にする性的な言動です。セクシャル・ハラスメントには、強制性交や強制わいせつのような刑法に触れるものもあります。相手が誰であれ、教職員や友人とのことはもちろん、たとえ恋人であっても、あなたが望まない性的行動を無理強いすることは、犯罪的行為です。

相手は軽い冗談のつもりで言った場合でも、下品な冗談やうわさ話等、性的な言動で、あなた自身が不快感を抱き、安心して大学生活を送る妨げになるのであれば、セクシャル・ハラスメントです。

2) アカデミック・ハラスメント

修学する上での関係において、権威を不当に利用して、相手の修学上の権利を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする言動や行為を、アカデミック・ハラスメントと言います。

3) アルコールハラスメント

アルコールハラスメントとは、アルコール類の多量の飲酒やイッキ飲みの強要など、飲酒をとまなう嫌がらせや人権侵害の事です。アルコールハラスメント防止に意識を持つことが大切です。また、未成年者の飲酒は法律で禁止されていますので、絶対に止めて下さい。

<学内の相談窓口>担任、チューター、学生支援課

<学外の相談窓口(外部委託)>

ハラスメント被害にあった・被害を見かけた際の電話・Webによる外部相談窓口を設けています。詳しくはMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認してください。

電話	10:00~21:00 (火・木 22:00まで) 祝日・12/31~1/3 除く	電話番号0120-331-250
Web	24時間・年中無休	ログイン方法はMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認

7 破壊的カルト

1) 破壊的カルトとは

カルトは人権侵害の組織です。組織に依存させて活動させるために、私生活の剥奪、絶対服従、組織内・外部からの批判を封鎖し、組織やリーダーへの絶対服従を強いるといった特徴がみられます。しかし、これらの特徴は表面的には隠されています。こうした人権侵害の正体を隠すためにマインド・コントロールを用いることが多いです。

2) マインド・コントロールとは

マインド・コントロールは心理操作です。不安や恐怖を煽って混乱させ、自己観、理想とする自分・家族・社会・世界の見方、人生の目標、自分や社会が変わるための自然や社会の法則、善悪や正誤の基準となる情報源などが歪められて、今の社会を否定して見きってしまうように仕向けられます。

3) 勧誘の手口

学内・学外問わず、1人である時に、一般の学生サークルと同じような感覚で声をかけてきます。勧誘する人は、良い活動を行っていると感じているため、非常に真剣に、かつ親切に優しく話かけてきます。連絡先を聞きだし、次回会う約束をします。最初は宗教のことには一切触れません。親しくなって初めて宗教に関連する話をしてきます。一度集会やイベントに参加すると、やがて入会を勧められます。

4) カルトの被害にあわないために

断る勇氣を持って下さい。断ることに気まずい思いや、後ろめたい気持ちを持つ必要はありません。一般のサークルなのか、カルトなのか判断に困ったら、「サークル名」、「活動内容・目的」、「相手の氏名」、「学年」、「学科」などを聞きましょう。曖昧な説明であるなど、見学に行ってもよいか迷う場合は、断るか、自分の個人情報には伝えないようにしましょう。対応に困ったら、一人で悩まずに、家族、大学等に早く相談しましょう。

<学内の相談窓口>担任、チューター、学生支援課

<参考>日本脱カルト協会 <http://www.jsopr.org/>

8 悪徳商法

近年、学生をターゲットにした悪徳商法が増加しています。大学の敷地内でも、街中や自宅にいる時でさえ、あなたは狙われているかもしれません。不意打ちの訪問販売や電話勧誘販売などで契約した場合は、特定の契約に限って、定められた期間内に所定の手続きをとれば、契約を解除することが

できる「クーリング・オフ制度」がありますので、最寄りの消費生活センター等へ相談して下さい。

1) 様々な悪徳商法

① マルチ・マルチまがい商法

「楽しいサークル」、「ニュービジネス」、「うまい話」こんな言葉に誘われ、「集会」、「セミナー」に参加すると、すばらしい成功談を聞かされます。商品を買って会員になり、自ら友人に販売、紹介することで、自分も楽をして大儲けができると思い込ませます。しかし実際には在庫と借金だけが膨らみます。さらには被害者であると同時に加害者にもなり、お金だけではなく、大切な友人を失ってしまうことにもなります。

② キャッチ・セールス

「ファッションに興味はありますか」、「アンケートに協力して下さい」等と、呼び止められ、「5分だけ」と事務所に案内され、今肌の手入れをしないと手遅れになると不安がらせ、化粧品や健康食品、エステ等の契約を迫られます。5分のつもりが3時間、サインをするまで帰れないといった場合もあります。

③ アポイントメント商法

「旅行に興味はありませんか」、「抽選に当たりました」等と誘いの電話がかかってきます。話を信じて出かけてみると、魅力的な異性の販売員がついて友達感覚の会話をしながら、アクセサリー、パソコン、レジャー会員権、教材等を売りつけます。彼らのトークは非常に巧みなため契約しないと悪いような気分させられ、うっかり契約してしまうこともあります。あとになって冷静に考えてみると、得ではない契約内容である場合が非常に多いです。

2) 被害にあったとき

被害にあわないようにすることが第一ですが、「安いよ」、「儲かるよ」、「きれいになるよ」等の甘い言葉で悪徳業者があなたを狙ってきます。容易に誘いにのる等、契約をしないように十分注意し、契約前に信頼できる人に相談しましょう。被害にあってしまった時には、一人で悩まずに、家族、大学、消費者センター等に早く相談しましょう。

<学内の相談窓口>担任、チューター、学生支援課

<学外の相談窓口>大阪府消費生活センター TEL: 06-6616-0888

住所: 〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北2丁目1-10

9) ストーカー、ドメスティック・バイオレンス対策

大学の敷地内、あるいは街の中で、様々な迷惑行為や暴力行為の被害に合わないよう気を付けましょう。被害を受けた際は、できるだけ早く相談するようにしましょう。

1) ストーカー行為

あなたの意に反して、つきまとう、待ち伏せする、追いかける、監視していると告げる、面会や交際の強要、繰り返される電話やメールあるいは無言電話、あなたの名誉を傷つけるような行為、これらは違法なストーカー行為です。家族・大学・警察等へ相談しましょう。

2) ドメスティック・バイオレンス (DV)

恋人、夫婦等、親しい相手等が、心身に対し暴力を加える行為がDVです。ここでいう暴力は身体的な暴力だけではなく、言葉による精神的な暴力や望まない性的言動を強要する性的暴力等もあります。あなたの思い出の品を壊したり、友人関係を壊したり、あなたの行動を監視し続けたりすることもDVの一種です。

パートナーに暴力をふるった直後には相手が急に優しくなることもよくあります。しかし、本当に反省しているのではなく、次の暴力への準備が始まっているにすぎません。相手が誰であっても、あなたの心や身体を傷つける権利はありません。勇気を出して、事態の改善のためにも相談しましょう。

森ノ宮医療大学は、大阪府警察本部や大阪府内の大学と連携して、犯罪被害の減少に向けて防犯対策に取り組む「防犯キャンパスネットワーク」に参加しています。

<学内の相談窓口>担任、チューター、学生支援課、健康管理センター

<学外の相談窓口>大阪府警察本部警察相談室

住所：〒540-8540 大阪府大阪市中央区大手前3丁目1-11

TEL：06-6941-0030

10 災害への備え

日頃から災害への備えをしておきましょう。学内にいるときに災害が発生した場合には、落ち着いて教職員の指示に従いましょう。自宅では、家族と協力して被害と混乱を少しでも減らすような工夫をしましょう。一人暮らしの人は、特に次の注意事項をよく読んで、防災意識を高めましょう。

1) 学内での注意

学内にいる時に、火事や地震等の災害に遭遇した場合は、まず自分の身の安全を第一に考えて下さい。火災を発見した際は、ただちに大きな声で周囲の教職員や学生に伝えて下さい。地震が発生した際は、室内の備品等が落下してくる可能性もありますので、周囲を確認した上で、落ち着いて教職員の指示に従って避難しましょう。

2) 自宅での注意

大きな地震が発生した際は、重い家具や大型テレビ等が倒れることが想定されます。地震対策として、家具が倒れないように固定することで就寝中でも怪我を防ぐことができます。懐中電灯等を常備し、緊急警報放送を聞き落ち着いて行動しましょう。また地震発生後、救援物資が届くまで3日程度物資の不足が予想されます。万が一に備え3日分の緊急用食料、飲料水、そして各自の必要不可欠なものを事前に用意しておきましょう。

11 国民年金に関するお知らせ

国民年金は、老齢、障害または死亡によって国民生活の安定が損なわれることの防止を目的とした公的年金制度の中心となる制度で、日本に住んでいる20歳以上60歳未満のすべての人が加入しなければなりません。

20歳になりましたら、学生も国民年金の加入者になります。住民登録をしている市区役所・町村役場の国民年金担当窓口（第3号被保険者に該当する際は、配偶者の勤務する事業所）で加入の手続き

をして下さい。

また、学生については、申請により在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。本人の所得が一定以下の学生が対象となります。なお、家族の方の所得の多寡は問われません。学生納付特例の申請用紙は、年金事務所に請求するか日本年金機構ホームページから印刷することもできます。記入例を参考に申請用紙に記入し、必要書類とともに住民登録をしている市区役所・町村役場へ郵送しましょう。

不明点等がありましたら、住民登録をしている市区役所・町村役場へ問い合わせして下さい。

12 諸注意・遵守事項

1) 自動車・単車および自転車通学の禁止

本学は学生の自動車・単車および自転車による通学（課外活動含む）を全面的に禁止しています。被害者・加害者を問わず交通事故は学業の環境を悪化させ破壊するのももちろん、学生生活そのものに困難を来す場合があります。また、違反は処分の対象となります。くれぐれも自己の学生生活を全うするために、車両での通学はしないよう厳守して下さい。但し、住所がキャンパスの至近距離内にあり、かつ安全性が認められる場合等合理性のある場合には自転車による通学のみ許可しますので「自転車通学許可願」を総務課へ提出し、許可を受けて下さい。

2) 学内での飲食

学内での飲食は定められた場所でのみ行い、ルールとマナーを守って下さい。飲食は指定された講義室、学生ホール、キャンパルクラブ、ラウンジスペースおよび食堂・カフェのみです。実習室は厳禁ですので厳守して下さい。食堂・カフェの利用に関しては営業時間の関係上、その都度掲示します。なお、白衣(ケーシー型・長衣)を着用しての食堂・カフェ利用はできません。

3) 郵便物の取り扱い

学生個人宛および課外活動団体等への郵便物や荷物は、一切取り次ぎません。

4) 外部からの学生呼び出し

緊急時以外は取り次ぎません。 ※緊急時の連絡先：06-6616-6911

5) 施設・備品の利用・借用について

学内の施設・備品を破壊・汚損または紛失した場合、理由によっては弁償が必要となります。また、許可を得た場合以外、備品を所定の位置から移動させることを禁止します。

6) 私物の保管について

私物は携行するか、更衣室にある各自のロッカーに保管してください。オリエンテーションで配布した鍵もしくは各自で鍵を準備し、ロッカーには必ず施錠して下さい。

また、教室、学生ホール、更衣室等の共同スペースに私物を置くことを禁止します。(ロッカーの上も同じです)

共同利用する場所に私物を放置し盗難や紛失に遭遇した場合、大学は責任をとれませんので各自で

管理して下さい。

7) 遺失物・拾得物

学内にて紛失もしくは拾得した物品は、学生支援課に届け出て下さい。

拾得物は学生支援課にて3ヶ月間保管します。受け取る場合は、学生支援課にて、学生証の提示および受領日、署名の記入が必要です。貴重品（現金、キャッシュカード、クレジットカード、高価な物品等）は1週間保管後、警察へ届け出ます。なお、拾得日より3ヶ月を過ぎたものは処分します。

ただし、食品・弁当箱・ペットボトル飲料等の飲食物については、それら拾得物を受けた日の翌々日に容器ごと廃棄処分します。なお、拾得物の状態によっては即日廃棄処分する場合があります。

8) 携帯電話等の充電について

学内のコンセントを使用して携帯電話等の充電を行うことは禁止です。学内各棟に設置している「アクティブラーニング・スポット」でのみ充電を許可します。また、学内に設置された専用の充電装置（有料）の利用も可能です。なお、学内のコンセントにて携帯電話等の充電を発見した場合は、没収します。

※アクティブラーニング・スポットでの充電における携帯電話や充電器等の破損・盗難・紛失について、大学は一切責任を負いかねますので、充電中は携帯電話等から離れないようにして下さい。

9) アルバイトについて

アルバイトは、勤勉の意義や大切さ等を理解し、また金銭感覚を身につけ、勤労意欲を養う等有意義な社会的経験となるものです。ただし、アルバイトが忙しくて授業に出席できず、単位を落としてしまったのでは本末転倒です。また、知らないうちに犯罪に巻き込まれたり、騙されてお金を請求されたりと、様々な危険やトラブルもありますので、アルバイトを選ぶ際は注意して下さい。

10) 災害発生時の対応について

本学で火災や地震、台風等の災害に見舞われた際は以下に従って落ち着いて行動して下さい。

1) 避難開始

避難開始は授業担当者、担任・チューター等教職員の指示により行って下さい。

■避難場所：

- ① 第一避難場所：森ノ宮医療大学 グリーンスクエア
※ただし、台風、大雨、暴風災害に関しては第一避難所を本学体育館（MTC）とする
- ② 広域避難場所：南港中央公園（大阪市住之江区南港東8-5）
- ③ 津波避難拠点：アジア太平洋トレードセンター【ATC】（大阪市住之江区南港北2-1-10）

2) 授業時間外の対応（夜間、土曜日、オープンキャンパス等）について

授業時間外の対応については、教職員の指示により、第一避難所までの避難を最優先として行動し、広域避難場所、津波避難拠点等適切な場所への避難を実施して下さい。

15 健康・福利厚生相談窓口

内容	窓口	手続き等
大学生生活・学業・健康・悩み・ストレス等の相談	担任・チューター ゼミ担当教員 学生支援課	随時相談に応じます。 ※あらゆる悩み事に対して活用して下さい。秘密は厳守します。
	健康管理センター	健康管理センターでは、健康相談、メンタルヘルス相談、カウンセリング等を随時受け付けています。また、外部委託による相談窓口も設けています。詳細は「XI. ヘルスプロモーション（「からだ」と「こころ」の健康づくり）」の「2. 健康管理センター利用について」の頁を確認してください。 ※秘密は厳守します。
	24時間「からだ」と「こころ」の健康ホットライン（外部委託） ハラスメント相談窓口（外部委託）	
進路の相談	担任・チューター キャリアセンター	随時相談に応じます。
怪我をした・交通事故に遭った	学生支援課 健康管理センター	随時相談に応じます。 ※学生保険（Will）より保険金が支払われることがあります。
学内での遺失物・拾得物	学生支援課	拾得物は学生支援課にて保管します。 ※拾得物保管期間は3ヶ月です。 ※飲食物については、それら拾得物を受けた日の翌々日に容器ごと廃棄処分します。
貴重品（現金、キャッシュカード、クレジットカード、高価な物品）等の紛失	学生支援課	遺失物に関しては遺失物届に記載して下さい。 貴重品に関しては、本人が警察へ届け出て下さい。 ※貴重品が拾得物として届けられた場合は、1週間保管後、申し出がなければ大学から警察へ届け出ます。
下宿先の斡旋と紹介	学生支援課	随時相談に応じます。
附属クリニック・附属鍼灸施術所の利用	附属クリニック・附属鍼灸施術所	受付にて学生証を提示して下さい。 詳細は「XI. ヘルスプロモーション（「からだ」と「こころ」の健康づくり）」の「1. 健康管理」の頁を確認して下さい。

1 健康管理

1) 定期健康診断

定期健康診断は、学校保健安全法で義務化されています。自己の健康管理目的に加え、学外実習、就職活動等の健康診断書発行の際に必要となります。

定期健康診断は、毎年、在學生は3月末頃、新入生および大学院生は4月初め頃に実施しますので、必ず指定日に受診して下さい。

定期健康診断の結果報告書は郵送で自宅に届きます。大事に保管してください。

2) 感染症対策

本学では、定期健康診断時の感染症抗体価検査の結果が基準値に達していない学生は、日本環境感染症学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン」に準じた予防接種を推奨しています。

感染症対策は、臨地実習の際にも大変重要です。適宜説明をしますので、理解を深めてください。

3) 健康相談

充実した学生生活を送るためには、まず心身の健康が大切です。日頃から自分の健康に留意するとともに、不調があれば気軽に健康管理センター・学生支援課（イーストポート1階）に相談して下さい。

4) 健康管理調査

健康管理センターでは、学生の健康状態を把握し健康管理に役立てるため健康管理調査票を作成し、病気・怪我の状況および学生生活に必要な援助等の調査をしています。新入生は入学時、在學生は追加事項発生時あるいは変更時に記載をお願いします。

5) 附属クリニック・附属鍼灸施術所の利用

クリニック・施術所では、学生を対象とした診療費補助制度があります。

(1) 附属大阪ベイクリニックの利用（ウエストポート（W棟）1階）

大学附属大阪ベイクリニックでは、内科、整形外科等の診療を行っています。また、各種ワクチン接種なども行っています。診察の予約も可能ですのでご利用ください。

診療科：内科、循環器内科、整形外科、
リハビリテーション科、リウマチ科
診療日：月・火・水・木・金・土
※土は午前診のみ

診療時間：9：30～13：00、15：00～18：00

※曜日により診療科が異なります。

詳しくはQRコードを読み取りクリニックホームページで
確認してください。

ご予約・お問合せ

06-6655-0057

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/osakabay-clinic/>

T559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16



(2) 附属鍼灸施術所の利用

本学の附属鍼灸施術所（ウエストポート1階）で治療を受けることができます。（要学生証）

2 健康管理センター利用について

1) 急病対応・応急処置

ケガをしたとき・急病のとき・体調が悪いときは健康管理センターの医務室を利用して下さい。医師・看護師等が対応します。必要な場合は医療機関の紹介をしています。

受付場所	受付時間	場所
健康管理センター窓口	月～金 9：00～18：00	医務室

※急病の際は、ご家族の方にお迎えに来ていただくことがあります。

※急病の際は、病院へ教職員が付添い、タクシー搬送することがあります。タクシー代金は原則学生負担となります。

※附属大阪ベイクリニックにて診療を受けた際は、自己負担額の全額を補助します。（後日領収書原本および申請書を会計課に提出してください。）

2) カウンセリング

カウンセリングは予約制です。予約は健康管理センター窓口・予約専用電話・予約専用メール・学生相談申込みポストで受け付けをしています。

(1) カウンセリング予約方法（電話・メールでの相談は受け付けていません。）

月～金曜日（閉館日を除く）9：00～18：00のみ以下の方法で受け付けます。

予約方法	受付場所等
直接予約	健康管理センター窓口
予約専用電話	電話受付080-9454-2281 ※カウンセリング予約専用の電話番号です。
予約専用メール	メールアドレスkenkoukanri@morinomiya-u.ac.jp ※カウンセリング予約専用のメールアドレスです。 <予約メール送信方法> 【件名】学生相談申込み 【本文】①氏名 ②学籍番号 ③連絡先（電話番号・メールアドレス） ④カウンセリング希望日時（第3希望まで記入） ※事前に「kenkoukanri@morinomiya-u.ac.jp」からのメールが受信可能な状態にしておいて下さい。 ※返信は、月～金曜日（閉館日を除く）9：00～18：00に行います。また、申し込みをされてから2～3日後の返信となる場合があります。
学生相談申込みポスト	『学生相談申込用紙』に相談内容を記入し投函すれば健康管理センターより予約日時等の連絡をします。

3) その他

	受付場所	受付時間	場所
健康相談 メンタルヘルス相談 その他	健康管理センター窓口	月～金曜日 (閉館日を除く) 9:00～18:00	健康管理センター 相談室 他
学生保険 (Will)	健康管理センター窓口		健康管理センター
メンタル電話相談 (匿名希望者用)	電話受付 080-3901-9135 ※電話相談専用の電話番号です。 ※電話に出られない場合があります。後日かけ直すか、緊急を要する場合は「4」24時間「からだ」と「ココロ」の健康ホットライン」を利用してください。		電話対応

4) 24時間「からだ」と「ココロ」の健康ホットライン(外部委託)

	対応	受付時間	受付場所
健康相談 応急手当の方法 医療機関の紹介	電話	24時間・年中無休	電話番号 0120-718998
悩み ストレス	電話	9:00～22:00 年中無休	電話番号 0120-718998
	Web	24時間・年中無休	ログイン方法はMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認

※プライバシーは厳守され、相談内容を学生本人の許可なく大学に情報提供されることはありません。

5) ハラスメント相談窓口(外部委託)

ハラスメント被害にあった・被害を見かけた際の電話・Webによる外部相談窓口を設けています。詳しくはMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認してください。

電話	10:00～21:00 (火・木 22:00まで) ※祝日・12/31～1/3 除く	電話番号0120-331-250
Web	24時間・年中無休	ログイン方法はMORIPA掲示板の「健康管理センターからのお知らせ」を確認

6) 学生保険「Will 3DX」

学生生活を送るにあたって、事故やケガがないように注意することは当然であり、大切なことです。しかし、万一事故が発生した場合に備えて、大学では全学生を対象とした日本看護学校協議会共済会「Will 3DX」に加入しています。この保険は、自身の傷害事故に加えて、実習先を含む24時間の賠償事故、さらに実習中の微生物による感染事故にも対応する医療系学生のために創られた補償制度です。詳細は、Willパンフレットを参照して下さい。

次のような事故は保険の対象となりますので、必ず担任・チューター及び健康管理センターに連絡をして下さい。

1) 給付対象となる事故

- (1) 急激かつ偶然な外来の事故によるケガ（国内外24時間補償）
- (2) 偶発的事故によって、他人にケガをさせたり、他人の物を壊してしまった場合（国内外24時間補償）
- (3) 臨地・臨床実習先における感染事故（針刺し・接触感染・飛沫感染他）
- (4) 対象となる感染症に罹患した場合（国内外24時間補償）
- (5) その他

2) 事故の発生から保険金が支払われるまでの流れ

(1) 事故報告

- ① 大学構内、構外を問わず、事故が発生した場合にはできる限り速やかに健康管理センターまで連絡して下さい。
- ② 事故発生時に医療機関で受診した場合、治療費の領収書を保管しておいて下さい。
- ③ 専用の用紙（「Will」専用の事故報告書）を健康管理センターで受け取り、必要事項を記入し速やかに提出して下さい。
- ④ 大学から事故報告書をWill事務局へ送付します。
- ⑤ 保険会社より、保険金請求書類が大学宛に送付されてきます。保険金請求書類を渡しますのでご自身で請求手続きを行って下さい。
- ⑥ 保険金請求書類を郵送後、保険金が支払われます。

(2) 治療の継続

- ① 一定期間の治療が必要と診断された場合には指示に従って治療を継続して下さい。
- ② 治療継続中にかかった費用は受傷者の立て替え払いとなります。保険金請求時に必要となりますので治療費の領収書は保管しておいて下さい。

3) 注意事項


- (1) 保険金の請求には、「保険金請求書類」「治療費の領収書」が必要です。また、請求金額が10万円を超える場合及び、手術保険金の請求をする場合は、所定の「医師の診断書」が必要となる場合があります。
- (2) 治療期間が1ヵ月を超える場合は、治療が終了していても保険金の一部支払い請求が可能です。そのような場合は健康管理センターに相談して下さい。

1 よりよい下宿先の確保

1) 下宿先の紹介

皆さんがこれから一人暮らしを始めるにあたって、よりよい下宿先を確保することは充実した学生生活を送る上で、もっとも大切なことの一つです。

学生支援課では、環境や費用に応じて住居を紹介しています。気軽に相談して下さい。

 [詳細はこちら](https://unilife.co.jp/link/univ_morinomiya-u/) 森ノ宮医療大学 マンションアパート検索サイト

https://unilife.co.jp/link/univ_morinomiya-u/



2) 下宿の賃貸契約

下宿の賃貸契約を結ぶ際、次のことに注意して下さい。

- (1)下宿の賃貸契約は本人のみで結ぶことなく、必ず保護者またはそれに代わる方が同席し、契約内容を十分確認したうえで契約して下さい。
- (2)契約内容および家主との取り決め事項は厳守して下さい。

3) 下宿の変更(転居)

- (1)本人の都合により下宿先を退出(転居)する際は、契約約款を守り解除を申し出るようにして下さい。
- (2)転居の際には、家賃等金銭関係の精算、借用品(鍵等)の返却、私物の処理等は責任をもって行い、迷惑の掛からないようにして下さい。
- (3)下宿先(住所)を変更した場合は、MORIPAから学籍情報変更手続きを行うとともに、新しい居住地の役所へ住民登録(前住所の転出証明書と印鑑持参)をして下さい。
- (4)郵便局へ転居届を提出しておけば、郵便物は新しい住所へ転送されます。

2 生活マナー

1) 健康管理

(1)自分の健康は自分で管理することが基本です。そのためには食生活や睡眠等に注意し、規則正しい生活を心がけて下さい。

(2)万一の病気・事故に備えて健康保険証(健康保険遠隔地被保険者証)を取り寄せておいて下さい。

注:健康保険遠隔地被保険者証

家族と離れて下宿生活している学生は、医療費を支払うための「健康保険遠隔地被保険者証」を下記の手続きで必ず発行して下さい。

◎社会保険や共済組合(官公庁・会社・学校等)の場合は、健康保険証と在学証明書(証明書等発行機で発行可)を添付して父母の勤務先へ申請すれば交付されます。

◎国民健康保険の場合は、健康保険証と在学証明書(証明書等発行機で発行可)を持参のうえ、保護者の居住の市・区・町・村にある役所に申請すれば交付されます。

2) 防火、防犯

- (1)火災は自他ともに及ぼす影響が甚大です。火災の原因となる暖房器具の不正使用、その他火の始末等、火気の取り扱いには十分注意を払って下さい。
- (2)外出時には玄関や窓の施錠を確認する等、盗難には十分に気をつけて下さい。また、在室時にも玄関や窓の施錠をしておく安全です。
- (3)夜間の一人歩きには十分注意して下さい。そして、なるべく人通りの多い道を歩くようにして下さい。また、時々後ろを振り返り不審者がいないか確認しましょう。
- (4)家財を対象とした火災保険に加入しておくこともよいでしょう。

3) 騒音

テレビ、ラジオ、楽器演奏等は音量により騒音となります。常に周囲を意識した行動を心がけましょう。夜遅くまで集団で騒ぐ等、近所に迷惑をかける行為をしないようにして下さい。

目 生活の注意点

1) 悪質情報に注意

一人暮らしの学生をターゲットにした悪質商法や訪問販売があります。甘い言葉や、楽をして儲かる話による話は絶対にありません。万一、訪問販売を受けたり、しつこい電話がかかってきた場合は次のような対処をするように心がけて下さい。

- (1)しつこい電話をすぐに切る勇気を持つ。
- (2)「いない」とはっきり言う。
- (3)一人で決めず家族・友人に相談する。
- (4)簡単に名前を書かない。印鑑を押さない。
- (5)不審な荷物は返品する。契約内容と異なる商品が届いた場合はクーリングオフの制度を利用する。
- (6)悪質商法の被害にあったら、すぐに警察に相談する。

2) サラ金・学生ローンには手を出さない

『学生証、健康保険証や免許証で即金10万円』等という広告の手軽さについつい手を出してしまう人もいます。待っているのは膨れる一方の利息、厳しい督促です。サラ金・学生ローンには絶対に手を出さないようにして下さい。

本学は、自ら探究能力を有する専門職医療人、また自立し活躍する社会人になることを目標に学業に取り組む場であることは言うまでもありません。しかし、大学生活4年間は、学業以外に多くのことを学ぶ期間でもあります。課外活動は、全人的な成長を培い、また同じ目標を持つ仲間同士チームワークを組みながら喜びや達成感を分かち合える重要な場でもあります。本学の部活動は、森ノ宮医療大学の運営に貢献し、様々な活躍をしています。



1 課外活動の種類

1) 部

学生連盟等の大会に参加する等活動状況を認められ、かつ、森ノ宮医療大学の発展に資する活動団体です。本学から活動費の補助が受けられます。

2) 公認サークル

活動状況を認められ、かつ、森ノ宮医療大学の発展に資する活動団体です。本学から活動費の補助が受けられます。



3) 同好会

同じ目標や興味を持ったもの同志の活動団体です。大学公認はされていませんが、活動状況により、部または公認サークルとして承認される場合があります。

2 各団体の必要事項

1) 活動上の必要事項

- (1)活動状況の指定書類を毎月10日（10日が土・日の場合は月曜日、祝日の場合は翌日）までに提出（データ）して下さい。
 - (2)限られた学内・学外提携施設を有効に使用するために、年間計画として向こう数ヶ月の活動計画を立て、学生支援課まで報告してください。
 - (3)(2)の計画した予定日以外で学内施設の使用を希望する場合は、「XIII. 課外活動」の「5. 課外活動における学内使用可能施設一覧」の頁を参照し、指定の期日までに学生支援課へ施設使用願申込書兼許可書を提出して下さい。
 - (4)課外活動以前に、正課授業が最優先されます。ただし、公式試合やイベントに参加する必要がある、授業・演習に出席できない場合は、事前に学生支援課へ申し出て下さい。
 - (5)各団体の代表者は、定期的に行われる学生会本部会議や部・公認サークル運営委員会等に参加しなければなりません。課外活動に関する連絡事項はMORIPAを通して行いますので、必ず確認して下さい。
 - (6)森ノ港祭（大学祭）では、各課外活動団体が模擬店を出店します。
 - (7)課外活動に関する報告連絡相談は、指導者に確認の上、学生支援課へ申し出て下さい。
- ※以上の必要事項を守って下さい。守らない場合は、活動の制限を行うことがあります。

3 入部・退部

1) 入部

- ①部：体育会への入部は1つの部のみとします。その他の入部制限はありませんが、部の構成員として部の運営に迷惑をかけないよう節度ある行動をして下さい。
- ②公認サークル：所属数の制限はありません。構成員として公認サークルの運営に迷惑をかけないよう節度ある行動をして下さい。
- ③入部を希望する場合は、学生支援課にある「入・退部届」に必要な事項を記入し、部・公認サークルの指導者へ提出して下さい。

2) 退部

退部を希望する場合は、学生支援課にある「入・退部届」に必要な事項を記入し、部・公認サークルの指導者へ提出して下さい。

4 試合・合宿・集会

1) 試合

公式試合があり授業・演習等に参加できない場合は、以下の手順に従い、申請して下さい。

- ①「公式行事参加申請書兼証明書」を行事に関する資料を添え、団体でまとめて提出する。
※行事15日前までに指導者の許可を得て申請すること。(指導者の押印が必要)
- ② 学内で承認された「公式行事参加申請書兼証明書」を学生支援課へ取りに行き、欠席する予定の授業担当教員へ相談に行く。
- ③ 行事開催日後、学生支援課へ実際の授業出欠状況について報告する。
- ④ 授業出欠状況報告後、結果を記入した「公式行事参加申請書兼証明書」のコピーを欠席した授業担当教員へ提出する。

※当書類は授業の欠欠を認めるものではありません。公式行事の参加を大学が認めた書類であり、授業の出欠については担当教員に一任しています。

2) 合宿

合宿を行う場合は、指導者の許可を得て、「合宿届」を合宿15日前までに学生支援課に提出して下さい。内容が不適切な場合は、合宿として認めないことがあります。特に次の事項に注意して下さい。

- ① 目的・合宿場所が適切であること。
- ② 合宿の内容が適切であること。
- ③ 参加人数が適切であること。
- ④ 実施費用が適切であること。
- ⑤ 参加者の安全管理が適切であること。
- ⑥ 基本的に公共交通機関を使用すること。
- ⑦ その他、教育に関して不適切と思われる事項がないこと。

3) 集会

学内で集会を開く場合は、7日前までに施設使用願申込書兼許可書を学生支援課に提出して下さい。

使用の条件については「Ⅲ. 大学生生活の必要事項」の「5. 各種手続き・届出等について 6) 学内での集団行動」の頁を参照して下さい。

Ⅴ 課外活動における学内使用可能施設一覧

課外活動等で使用することができる学内施設を、下表の通り開放しています。使用方法および使用手続き等については、各施設の利用の頁で確認して下さい。

	利用時間	授業期間中	授業期間外	備考
		対象者	対象者	
体育館 (MTC)	【火～金のみ】 7:30～9:00	部・公認サークル	部・公認サークル	【要予約】 ○使用月の前月15日までに申請、 前月20日までに結果を開示。
	【火～木のみ】 12:10～13:00	【自由開放時間】 全学生対象		【予約不要】 →直接体育館へ行って下さい。
	18:00～19:30	部・公認サークル 同好会		【要予約】 ○年間計画もしくは使用月の前月 15日までに申請、前月20日まで に結果を開示。
	9:00～19:30		部・公認サークル 同好会	
グリーン スクエア	【火～金のみ】 7:30～9:00	部・公認サークル	部・公認サークル	【要予約】 ○使用月の前月15日までに申請、 前月20日までに結果を開示。
	【火～木のみ】 12:10～13:00	【自由開放時間】 全学生対象		【予約不要】 →直接グリーンスクエアへ行って 下さい。
	9:00～19:30	全学生対象	全学生対象	【要予約】 ○使用月の前月15日までに申請、 前月20日までに結果を開示。当 日予約可。
E 2 スタジオ	9:00～19:30	全学生対象	全学生対象	【要予約】 ○15日前～当日までに申請。
コスモ ホール	12:10～13:00	部・公認サークル		【要予約】 ○使用月の前月15日までに申請、 前月20日までに結果を開示。
	18:00～19:30	同好会等		
	9:00～19:30		部・公認サークル 同好会等	

【施設使用に関する注意事項】

- ・施設の使用は、正課授業を最優先にし、次に部、公認サークル、同好会の順で優先されます。
- ・部活動団体に限り、体育館・グリーンスクエアを20:30まで利用することができます。(授業期間中)
- ・休館日は大学の定める休業日です。ただし、学長の許可を受けた場合はこの限りではありません。
- ・天候等によりグリーンスクエアの状態が不良の場合、または体育館・グリーンスクエアを正課授業および部・公認サークルが使用する場合は自由開放を中止することがあります。
- ・施設の利用可能時間および対象者は変更になる場合があります。
- ・原則、試験期間中の貸し出しは行いません。ただし、部活動団体の場合は指導者、部活動団体以外の場合は担任等の許可を得た場合のみ、使用を認めることがあります。

6 体育館 (MTC) の利用

本学体育館 (MTC) は、正課授業を中心にした体育・スポーツ活動のための施設です。自由開放時間を除き、主に課外活動団体 (部活動、公認サークル、同好会) を対象に施設を開放していますので、使用を希望する場合は、使用許可時間および以下のルールを守って下さい。

1) 使用方法および使用手続

- 1) 体育館 (MTC) を使用する場合は、年間計画として向こう数ヶ月の活動計画を立て、学生支援課まで報告してください。希望者が多い場合には調整を行います。後日、施設使用予定表の配布、もしくは許可書の交付をもって使用可能となります。事前に計画した活動日以外で体育館の使用を希望する場合は、その都度、学生支援課で体育館 (MTC) の使用状況を確認の上所定の手続を行って下さい。
- 2) 使用者が、使用内容を変更する場合、又は使用を中止する場合は、直ちに学生支援課に申し出て下さい。
- 3) 体育館 (MTC) フロアでの運動種目は、その体育館 (MTC) に基本設備のある室内スポーツを原則とし、その他の目的での使用は学生支援課の許可を受けて下さい。
- 4) 体育館 (MTC) は、次に定める条件により使用することができます。
 - ① 各種競技の規定で定められた面積等が確保できる種目
 - ② 安全面が確保できる種目
 - ③ 学長が適当と認めた種目

2) 課外活動中の事故

- 1) 課外活動中の傷害事故、床、壁、その他施設器具の破損・減失等の賠償事故は、直ちに学生支援課へ申し出て下さい。
- 2) 傷害事故または賠償事故が生じた場合の日本看護学校協議会共済会共済制度「Will」の取扱いについては、「XI. ヘルスプロモーション (「からだ」と「こころ」の健康づくり)」の「3. 学生保険」の頁を参照し、必要な手続を行って下さい。

3) 損害の弁償

施設使用者は、故意または過失により施設・設備および備品等を滅失、損傷又は汚損した時は、学生支援課に報告するとともに、その原状回復に必要な経費を弁償していただきます。

4) 鍵の管理

体育館 (MTC) の鍵は学生支援課で保管しています。体育館 (MTC) は常時施錠されているため、使用する際はその都度、学生支援課で鍵の借用手続を行って下さい。その際、学生証の提示が必要です。借用者は、鍵の又貸しを決してせず、借用者が責任をもって鍵の返却をして下さい。なお、鍵の貸し出し時間は事務局窓口の事務取扱い時間内 (月～金曜日 (閉館日を除く) 9:00～18:00) に限ります。

5) 体育館 (MTC) 使用心得

使用者は次に掲げる事項を遵守して下さい。

- (1)床、壁、その他施設器具を破損するおそれのある行為は行わないこと。破損・滅失した場合は直ちに学生支援課へ申し出ること。
- (2)体育館（MTC）内では体育館ばきを使用すること。
- (3)体育館（MTC）内での飲食を禁止する。スポーツ時の水分補給は一定の場所で行うこと。
- (4)貴重品の盗難に注意すること。
- (5)備え付けの物品を施設外に持ち出さないこと。
- (6)使用者は、その使用を終えたときは、必ず清掃・整備をし、使用場所および使用用具を戻すこと。
- (7)靴箱・ロッカーは、体育館（MTC）使用時のみ利用し、私物化しないこと。

7 グリーンスクエアの利用

本学グリーンスクエア（クレイゾーン、グラスゾーン、トラックゾーン）は、正課授業を中心にした体育・スポーツ活動のための施設です。課外活動団体（部活動、公認サークル、同好会）に所属している学生だけではなく、本学の全学生を対象に施設を開放していますので、使用を希望する場合は、使用許可時間および以下のルールを守って下さい。

1) 使用方法及び使用手続き

グリーンスクエアを使用する際は、学生支援課で以下に示す所定の使用手続きをとって下さい。

- (1)所定の用紙に記入の上、学生支援課に下記の要領で申し込み手続きを行って下さい。
 - ① 使用月の前月15日（15日が土・日曜日の場合は金曜日、祝日の場合は前日）までに、施設使用願申込書兼許可書を提出して下さい。希望者が多い場合には調整を行います。使用月の前月20日に、学生支援課にて承認された施設使用願申込書兼許可書を受け取り、使用可能となります。申し込み締切日以降に使用を希望する場合は、その都度、学生支援課でグリーンスクエアの空き状況を確認の上、所定の手続きをとって下さい。
 - ② 使用者が使用内容を変更する場合、又は使用を中止する場合は、直ちに学生支援課に申し出て下さい。ただし、使用当日の18時以降に天候不良等により急遽使用を中止する場合は、グリーンスクエア管理棟の管理者まで申し出て下さい。
- (2)グリーンスクエアでの運動種目は、そのスペースに基本設備のあるスポーツを原則とし、その他の目的での使用は学生支援課の許可を受けて下さい。
- (3)グリーンスクエアは、次に定める条件により使用することができます。
 - ① 各種競技の規定に定められた面積などが確保できる種目
 - ② 安全面が確保できる種目
 - ③ 学長が適当と認めた種目

2) 課外活動中の事故

- (1)課外活動中の傷害事故、フェンス、その他施設器具の破損・滅失が発生した場合は、直ちに学生支援課に申し出て下さい。
- (2)傷害を負った場合の日本看護学校協議会共済会共済制度「WILL」の取り扱いについては、「XI.ヘルスプロモーション（「からだ」と「こころ」の健康づくり）」の「3. 学生保険」の頁を参照し、必要な手続きをとって下さい。

3) 損害の弁償

施設使用者は、故意または過失により施設・設備及び備品等を滅失、損傷または汚損したときは、学生支援課に報告するとともに、その原状回復に必要な経費を弁償していただきます。

4) グリーンスクエア使用心得

使用者は次に掲げる事項を遵守して下さい。

- (1)フェンス、その他施設器具を破損する恐れのある行為は行わないこと。破損・滅失した場合は、直ちに学生支援課へ申し出ること。
- (2)備え付けの物品を施設外に持ち出さないこと。
- (3)火気・貴重品の盗難に注意すること。不法侵入者の可能性も十分考慮して、厳重に管理すること。
- (4)クレイゾーン（グリーンスクエア）でのボールの使用はスペース外に危害を及ぼす恐れがあるため、要相談とする。
- (5)ガラスゾーン（グリーンスクエア）内での飲食を禁止する。スポーツ時の水分補給は一定の場所で行うこと。
- (6)天候等によりグリーンスクエアの状態が不良の場合は、使用許可を取り消し、状況が回復するまで使用を禁止する。
- (7)熱中症に注意し、適宜日陰で休憩を取り水分補給をすること。WBGT計測器にて確認し、熱中症予防のための運動指針に沿って、熱中症予防に努めること。
- (8)暴風警報、雷注意報などの人体に危険を及ぼす可能性がある警報及び注意報の発令時は、使用許可を取り消し、警報、注意報が解除になるまで使用を禁止する。

8 学内施設（コスモホール、E2スタジオ、教室等）の利用

1) 使用方法および使用手続

使用可能時間および申請期日は施設によって異なります。「XⅢ. 課外活動」の「5. 課外活動における学内使用可能施設一覧」を確認し、期日までに所定の手続きをしてください。

※学生支援課内の所定のBOXに承認された「施設使用願申込書兼許可書」を入れていただきますので、承認されたことを確認した上で、使用当日は許可書を携帯して下さい。

2) 学内施設使用心得

- (1)床、壁、その他施設器具を破損する恐れのある行為は行わないこと。破損・滅失した場合は直ちに学生支援課へ申し出ること。
- (2)コスモホール内での飲食を禁止する。水分補給をする際は施設外で行うこと。
- (3)貴重品の盗難に注意すること。
- (4)備え付けの物品を施設外に持ち出さないこと。
- (5)使用者は、その使用を終えたときは、必ず清掃・整備をし、使用場所および使用用具を戻すこと。

9 学外提携施設の利用

本学は構造改革特区「運動場に関する基準の特例（運動場を設けることなく大学が設置できる特例）」を利用して設置した大学です。そこで正課授業や課外活動の充実を図るために学外の体育施設と提携

し、施設を借りていますので利用して下さい。ただし管理運営上、以下のルールを守って下さい。使用については、正課授業を最優先し、次に部、公認サークル、同好会の順で優先されます。

1) 使用許可時間

学外提携施設を使用できる期間、曜日、時間帯は提携施設により異なりますので、学生支援課で確認して下さい。

2) 使用方法および使用手続

- (1)学外提携施設の使用を希望する場合は、年間計画もしくは、学生支援課で学外提携施設の使用状況を確認の上所定の手続を行って下さい。希望者が多い場合は調整を行います。後日、施設使用予定表の配布、もしくは許可書の交付をもって使用可能となります。予約なく施設を使用することはできません。
- (2)使用者が、使用内容を変更する場合、又は使用を中止する場合は、直ちに学生支援課に申し出て下さい。
- (3)学外提携施設で活動する際は、課外活動送迎バスもしくは路線バス（コスモドリームライン）を利用してください。路線バス利用時は学生支援課に路線バス回数乗車券を取りに来て下さい。（配布時間：活動日当日9：00～18：00）なお、課外活動送迎バスの運行日は日程が限定されています。バスの利用方法に関する詳細は掲示板で確認して下さい。
※学外提携施設以外での利用は認められません。
※最新のバス時刻表は、インターネットで確認するか、バス停で確認して下さい。

 [詳細はこちら 北港観光バスホームページ](http://hokkohbus.co.jp/route/cosmo_dream)
http://hokkohbus.co.jp/route/cosmo_dream



3) 課外活動中の事故

- (1)課外活動中の傷害事故、施設器具の破損・滅失等の賠償事故は、直ちに各提携施設の担当窓口ならびに学生支援課へ申し出て下さい。
- (2)傷害事故または賠償事故が生じた場合の日本看護学校協議会共済会共済制度「Will」の取扱いについては、「Ⅺ. ヘルスプロモーション（「からだ」と「こころ」の健康づくり）」の「3. 学生保険」の頁を参照し、必要な手続を行って下さい。

4) 損害の弁償

施設使用者は、故意または過失により施設・設備および備品等を滅失、損傷又は汚損した時は加害者本人の責任において提携施設での指示に従って下さい。大学側は一切の責任を負いません。

5) 学外提携施設使用の心得

使用者は公共の場であることを理解し、各施設の規則に従い、節度ある行動をとって下さい。提携施設より苦情があった場合は該当者または所属団体の使用禁止、場合によっては本学学生全員の使用

を禁止する場合があります。

10 学内部活動倉庫の利用

1) 使用許可時間

課外活動時間内

※課外活動時間外の個人的な使用は認めません。

2) 使用方法および使用手続

- (1)部活動倉庫は常時施錠されています。使用する際はその都度、学生支援課で鍵の借用手続きを行って下さい。その際、学生証の提示が必要です。借用者は、鍵の又貸しを決してせず、借用者が責任をもって鍵の返却をして下さい。
- (2)他部と共同使用している部活動倉庫もあるため、鍵は保有せず学生支援課に返却して下さい。
- (3)お互いに、迷惑をかけないように、また整理整頓をしてきれいに使用して下さい。
- (4)鍵の貸し出し時間は事務局窓口の事務取扱い時間内（月～金曜日〔閉館日を除く〕9：00～18：00）に限ります。

11 課外活動における注意事項

1) 活動上の注意

- (1)課外活動が学業の妨げとならないようにすること。
- (2)各団体の運営・活動にあたっては指導者の意見を反映し、厳正に運営すること。
- (3)学内・学外を問わず常にマナーを守って活動すること。
- (4)施設使用や器具・備品に関しては責任をもって管理すること。
- (5)借用した器具・備品・鍵は、借用手続きをした本人が返却すること。

2) 救急時に備えた注意

- (1)救急事態に備え、特に体育会部活は「救急対応マニュアル」を携帯しておいて下さい。救急対応マニュアルは、本学ARコンテンツより確認することができます。
- (2)定期的に行われるAED講習会に参加して下さい。



12 課外活動申請窓口 (提出先：学生支援課)

内容	書類名 [提出方法]	備考	
(部) (公認サークル) 必須提出書類	課外活動団体新規・継続申請書 [書面]	4月または変更時に提出	
	部員名簿 [データ]	5月下旬または変更時に提出	
	課外活動実績届 [データ]	毎月10日提出 (10日が土・日の場合は月曜日、祝日の場合は翌日)	
	課外活動報告書 (大会成績等) [データ] 課外活動報告書 (その他) [データ]		
(同好会) 必須提出書類	課外活動団体新規・継続申請書 (書面)	4月または変更時に提出	
	部員名簿 [データ]	5月下旬または変更時に提出	
	課外活動予定・実績届 [データ]	毎月10日提出 (10日が土・日の場合は月曜日、祝日の場合は翌日)	
	課外活動報告書 (大会成績等) [データ]		
	課外活動報告書 (その他) [データ]		
課外活動参加者名簿 [データ]			
団体・役職・部員等の変更	課外活動団体新規・継続申請書 [書面]	変更時	
入部・退部をしたい	入部届・退部届	随時 提出先：各部指導者	
大学公認団体になりたい	課外活動団体 新規申請届 [書面] 【該当団体のみ】連盟へ所属している (する予定) が分かる証明書類のコピー等 部員名簿 [書面] 今年度の活動計画 [書面] 活動実績報告書 [書面] 【該当団体のみ】大会での成績や参加したこと等が分かる証明書類のコピー等	募集時期はMORIPAでお知らせ	
対外活動 (学内・学外) を行いたい	課外活動 対外活動 (学内・学外) 届	実施日の15日前までに提出	
学内の施設を利用したい	施設使用願申込書兼許可書 [書面]	詳細は、「XⅢ. 課外活動」の「5. 課外活動における学内使用可能施設一覧」の頁を参照。 施設により、別途書類が必要となる場合有り。 【体育館】 課外活動団体新規・継続申請書 [書面] 【ウッドデッキ・コスモホール】 企画書 (※イベント実施時のみ)	
学外提携施設を利用したい	部・公認サークル	課外活動団体新規・継続申請書 [書面]	年間計画
	同好会	施設使用願申込書兼許可書 [書面]	年間計画もしくは使用月の前月15日までに申請、前月20日までに結果を開示。
課外活動中に怪我をした	Will傷害保険報告書・課外活動事故報告書	直ちに報告	
課外活動中に怪我をさせた	Will傷害保険報告書・課外活動事故報告書	直ちに報告	

課外活動中に物を壊した	Will傷害保険報告書・課外活動事故報告書	直ちに報告
大学の物品を借用したい	施設予約兼鍵・備品貸出表に記入	事前に相談
部活動の試合で授業を休まなければならない	公式行事参加証明書 ※部活動団体でまとめて提出すること	行事15日前までに行事に関する資料を添えて申請。 申請方法等は「XⅢ. 課外活動」の「4. 試合・合宿・集会 1) 試合」の頁を参照
部活動の試合等で貸切バスを使用したい	貸切バス補助費申請書	利用日の15日前までに見積書を添えて申請。
合宿をしたい	合宿届 [書面]	15日前までに提出
学内に掲示物を貼りたい	A4判、縦または横1枚	許可印を願い出る。掲示期間は原則1ヶ月。
課外活動掲示板・学生会デジタルサイネージに掲示物を掲出したい	A4判、縦または横1枚 [データ]	掲示希望日7日前までに願い出る。掲示期間は原則1ヶ月。

本学では下記の奨学金制度を取り扱っています。奨学金に関する連絡事項はすべて学生支援課掲示板およびMORIPAを通して行います。詳細は学生支援課へ問い合わせして下さい。

1 森ノ宮医療大学独自の奨学金制度（給付型）

この制度は、入学試験結果において優秀な成績を修めた者や学業ならびに成績が優秀でありながら、経済的理由により修学を継続することが困難な学生に奨学金を給付し、学業の継続を支援するものです。

名称	対象	給付内容
入学時成績優秀者学納金減免制度	全学部・全学科受験生	160万円（2023年度入学生まで：155万円） ※一般選抜前期（3科目型）に合格した全学部の成績上位者15名以内（該当者へは通知済み） ※入学初年度のみ給付
スポーツ特別奨学金	鍼灸学科受験生	入学金25万円、授業料の一部30万円 ※指定された入学試験（総合型選抜前期【スポーツ実績評価型】（2021年度入学生）、総合型選抜【スポーツ実績重視型】（2022年度入学生）、総合型選抜A日程【スポーツ実績重視型】（2023年度入学生より））に合格した者 ※原則4年間給付（毎年度末に審査あり）
ひとり住まい支援奨学金	全学部・全学科入学生	20万円（入学年度1回のみ給付） ※総合型選抜B日程及び一般選抜前期（3科目型）に合格した各学科の成績上位者5名程度以内（該当者へは通知済み）で入学後にひとり住まいをする者
成績優秀者給付奨学金	全学部・全学科2～4年生	学業成績（前年度末のGPA）により、給付額（20万円と10万円の2段階）を決定 ※各給付金額につき各学科各学年2名（作業療法学科・言語聴覚学科は各学年1名）以内
キャリア活用社会人給付奨学金	全学部・全学科満25歳以上で入学した2～4年生	30万円（3名程度） ※対象となる方に一部制限がありますので、詳細は学生支援課へ問い合わせして下さい。
森ノ宮医療大学教育ローン利子補給奨学金	全学部・全学科2～4年生	本学の指定する教育ローン会社等より融資を受けた者に対して、学生納付金相当額の在学中における借入金に係る当該年度の利子相当額（千円未満切捨）とし、5万円を上限とする（6名程度）
森ノ宮医療学園ファミリー奨学金	全学部・全学科入学生	10万円（入学年度1回のみ給付）
応急支援授業料減免制度	全学部・全学科在學生	当該年度の授業料の2分の1相当額を給付

※上記以外に給付要件および選考基準（学業成績・家計基準等）があります。

※給付を受けるには、書類の提出および審査があります。本学の他の奨学金との重複は認められません。

※在学中の年度ごとの学業成績や家庭経済の環境変化等により、各規程で定めている条件に満たない場合は、給付が中止あるいは取り消しとなり、給付された金額の返還を求めることがあります。

※詳細は各奨学金申請時に配布している規程にて確認して下さい。

2 日本学生支援機構奨学金

<貸与型>

日本学生支援機構「貸与奨学金」は、返還義務のある奨学金です。経済的理由により修学に困難が

ある優れた学生および生徒に対し、学資として貸与されます。

貸与奨学金種類	貸与月額 ※大学院の貸与月額は別途定められています
第一種奨学金 (無利子)	【自宅通学者】 20,000円・30,000円・40,000円・54,000円 【自宅外通学者】 20,000円・30,000円・40,000円・50,000円・64,000円
第二種奨学金 (有利子)	20,000円～120,000円の中から選択


<給付型>

日本学生支援機構「給付奨学金」は、意欲と能力のある若者が経済的理由により進学および修学の継続を断念することのないよう設けられた、原則として返還義務のない奨学金です。

2020年度以降に給付奨学金に採用された方については、授業料等の減免(※)も同時に受けることができます。ただし、別途、学生支援課にて申込みが必要です。

給付金額 (※2023年度時点)
【自宅通学者】 38,300円 (第Ⅰ区分)・25,600円 (第Ⅱ区分)・12,800円 (第Ⅲ区分)
【自宅外通学者】 75,800円 (第Ⅰ区分)・50,600円 (第Ⅱ区分)・25,300円 (第Ⅲ区分)
※給付金額は世帯の所得金額に基づく区分に応じて決定されます。 ※生活保護を受けている生計維持者と同居している人及び児童養護施設等から通学する人は、選択できる金額が異なります。 ※前年の所得金額等に基づき、毎年度10月に区分(支給額)が見直されます。

(※) 文部科学省では2020年度より高等教育の修学支援新制度を実施しています。この制度は、授業料・入学金の免除または減免(授業料等減免)と、給付型奨学金の支給(日本学生支援機構)の2つの支援を受けることができます。

 [詳細はこちら](https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm) 高等教育の修学支援新制度 特設サイト

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>



<家計が急変した場合>

生計維持者の死亡や事故、病気など予期できない事由で家計が急変した場合に、年間を通じて随時申込ができる奨学金があります。制度により要件が異なりますので、申込を希望する方は学生支援課までご相談ください。

制度名	奨学金の種類
緊急採用	【貸与型】 第一種奨学金 (無利子)
応急採用	【貸与型】 第二種奨学金 (有利子)
家計急変採用	給付型奨学金


※日本学生支援機構推薦基準により審査の上、適格者を推薦します。

※第一種奨学金を受けている人が、2020年度以降に給付奨学金に採用された場合、第一種奨学金で選択できる貸与月額が制限されます。

※学校が行う説明会には必ず出席し、提出を求められる書類等は必ず期限までに提出して下さい。

※期限までに提出しない場合は採用取消や廃止となる可能性がありますので、注意して下さい。

※提出した書類の返却はできませんので、本人控または写しを必ず保管して下さい。
 ※詳細は、日本学生支援機構ホームページあるいは学生支援課まで問い合わせして下さい。

 [詳細はこちら](https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html) 日本学生支援機構ホームページ

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>



目 3 その他の奨学金制度の紹介

地方自治体の奨学金	地方自治体（都道府県・市町村）による奨学金制度があります。個人で直接申請する機会が多いため、各自で出身都道府県や市町村の関係機関へ問い合わせして下さい。一部の地方自治体では、他の奨学金との重複貸与を認めていない場合もありますので、申請前に必ず確認して下さい。
病院・施設の奨学金	各病院、施設の奨学金制度があります。学生支援課および各病院、施設へ問い合わせして下さい。

4 教育ローン

森ノ宮医療大学と三井住友銀行グループとの提携教育ローン	
三井住友銀行	問い合わせ先：三井住友銀行 梅田支店 教育ローン係 TEL：06-6315-1122
セディナ学費ローン	問い合わせ先：SMBCファイナンスサービスカスタマーセンター TEL：050-3827-0375 URL：https://www.cedyna.co.jp/loan/alliance/tuition/
森ノ宮医療大学と滋賀銀行との提携教育ローン	
ジャストサポート提携型（教育資金）	問い合わせ先：滋賀銀行クレジットセンター TEL：0120-889-201
森ノ宮医療大学とオリエントコーポレーションとの提携	
オリコ学費サポートプラン	問い合わせ先：株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク TEL：0120-517-325 URL：http://www.orico.tv/gakuhi/login.php
森ノ宮医療大学とジャックスとの提携	
ジャックス悠裕プラン	問い合わせ先：株式会社ジャックス・コンシューマードesk TEL：0120-338-817 URL：http://www.jaccs.co.jp/yuyu/

その他

日本政策金融公庫
「国の教育ローン」

問い合わせ先：日本政策金融公庫 教育ローンコールセンター
TEL：0570-008656
URL：<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

※対象者・融資額等の内容は異なります。詳細については、各問い合わせ先やホームページ等にて確認するか、学生支援課まで問い合わせして下さい。

本学の就職支援の基本方針は、個々の学生の個性と就職志望先に即した就職指導と、それに基づく医療系の施設・機関の就職先開拓、および就職斡旋を行うことを主としています。

1 資格取得・開設講座

1) 国家試験対策講座

全学科ともに国家資格取得をめざして徹底的な指導を行います。個人のレベルや時期に応じて、補講や学習到達度指導を行う等、国家試験対策を熟知した教員が講座を担当します。

2) 健康運動実践指導者

鍼灸学科スポーツ特修コースでは、健康づくりのための運動指導者に与えられる資格（健康運動実践指導者）取得をサポートします。本コースでは、個人のレベルや時期に応じて、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるべく、徹底的な指導を行います。また、試験対策を熟知した教員が講座を担当します。

3) スチューデントトレーナー

トレーニング指導から、スポーツ医学・スポーツ栄養学・アスレティックリハビリテーションまで、スポーツトレーナーとしての専門的な知識・技術を身につけた指導者に与えられる資格です。本学では、対策講座を実施し、在学中の資格取得をサポートします。

4) アロマコーディネーター資格取得講座

アロマセラピーの正しい実践方法や生活への取り入れ方を、理論的かつ実践的に学びます。受講後にアロマコーディネーターライセンス認定試験を受験し、合格者はJAA日本アロマコーディネーター協会の認定資格が取得できます。姉妹校の森ノ宮医療学園専門学校で開講します。

5) 一般教養対策・小論文対策・教職教養対策講座

一般教養対策講座・小論文対策講座・教職教養対策講座を本学内で開講しています。各出題科目の中でも頻出頻度の高い分野に特化して基礎から学習することができます。公務員試験や教員採用試験に加え、企業や医療施設の採用試験においても出題されることの多い一般知能問題や小論文課題にも対応しており、効果的な学習を進めることができます。

2 キャリアサポートプログラム

皆さんの卒業後の進路には、医療を学んだ者に与えられる魅力溢れる仕事があります。多くの選択肢からベストな未来（キャリア）を選ぶためには、あらゆる可能性に目を向け、4年間の教育で得た知識や技能を使って、社会にどう貢献できるのか、どんな働き方をしたいのか、自己分析をしてキャリアデザインを考える必要があります。

キャリアセンターでは、皆さんが将来の方向性を見出すことができるよう、様々な角度からサポートを行っています。学年に関わらず、気軽に立ち寄って利用して下さい。また、キャリア支援に関する案内等は掲示板・MORIPA・求人検索NAVIにて行いますので、各自確認するようにしましょう。

1) JOB GUIDE BOOKの配布

全学年を対象にJOB GUIDE BOOKを配布しています。大学生活の過ごし方や就職活動のポイント等、キャリアに関する情報が各学年に合わせて詳しく掲載されていますので、参考にして下さい。授業やガイダンス等で使用しますので、大切に保管しておきましょう。

2) 個別進路相談の受付

全学年を対象に個別進路相談を受け付けています。キャリアセンター員・キャリアカウンセラーが、適性、進路選択、就職活動、選考試験に関する相談にのったり、履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接練習等のサポートをしています。キャリアカウンセラーによる面談予約は求人検索NAVIにて受け付けています。

※履歴書・小論文添削、模擬面接を希望する際は、予約日前日の18時までにキャリアセンターへ履歴書、小論文を提出してください。

※当日連絡なく予約をキャンセルした場合、2週間予約をすることができません。

3) 求人情報検索の閲覧

本学に届いている求人に関する情報は、下記で確認することができます。

(1) 学生ホール（イーストポート1階）の求人票ファイル

各施設から届いた求人票や施設パンフレット、勉強会の案内等をファイルにまとめ、設置しています。

(2) MORIPAの求人情報検索

本学に届いている医療職に関する求人情報や過去の採用試験（筆記試験・面接試験）情報を閲覧することができます。3・4年生はJOB GUIDE BOOKで手順を確認することができます。

<MORIPAの利用方法>

① 下記QRコードの読み取り、もしくはアドレスを入力してアクセスして下さい。

【QRコード】



【アドレス】 <https://portal.morinomiya-u.jp>

② 「就職」欄から「企業求人照会」を選択し、施設名称もしくは求人職種、勤務地を検索すると、求人票や過去の採用試験情報を閲覧することができます。

(3) 求人検索NAVI

本学に届いている医療職をはじめ、教員や企業等の求人情報を業種・職種・勤務地等の希望条件を入力し閲覧することができます。JOB GUIDE BOOKで手順を確認することができます。

<求人検索NAVIの利用方法>

- ① 下記QRコードの読み取り、もしくは下記アドレスからアクセスして下さい。

【QRコード】



【アドレス】 <http://www2.kyujin-navi.com/gakugai>

- ② 次の項目を入力し、【ログイン】をクリックして下さい。

▶ユーザー名：morinomiya
▶学籍番号：自分の学籍番号
▶初期パスワード：生年月日8桁(西暦)

- ③ 「初期登録」→「▶会員登録・変更」から会員登録（初期設定）をすると、求人票の検索・閲覧、希望者セミナー・個人面談の予約ができます。

4) 各種セミナー、ガイダンスの実施

皆さんが大切にしたい価値観や将来へのイメージに向かって学生生活を有意義に過ごせるよう、入学後の早い段階から自分自身を見つめ直す機会や、将来について考える機会を提供しています。実施内容や時期等については、掲示板・MORIPA・求人検索NAVIを確認してください。

(1) キャリアガイダンス

皆さんの未来（キャリア）を形成していく上で習得すべき知識や卒業後の進路決定に向けた具体的な準備等を学ぶためのガイダンスを学科・学年別に実施しています。

(2) 就活セミナー・SPI対策講座等（希望者）

就職活動に向けて段階的にステップアップできる各種セミナーを幅広く実施しています。就職・進路の決定は、それを具体的に意識し対策を始める前段階である低学年からの準備が大切です。積極的に参加し、スキルアップに繋がしましょう。

(3) キャリア支援セミナー

教育後援会協力のもと、医療、スポーツ等、各業界の最前線で活躍されている著名人の講演会を実施しています。

(4) 学内就職説明会

教育後援会協力のもと、求人先の医療施設や企業等を本学に招き、就職説明会を実施しています。施設の概要や現場で活躍されている方のお話を聞くことができ、就職に関する情報収集の場となっています。

(5) 内定者による報告会

教育後援会協力のもと、内定を獲得した4年生から、どのように就職活動に取り組んだか等を聞くことができるイベントをトークライブ形式で実施しています。

(6) 卒業生による就職説明会

本学卒業生を招き、入職を決めた理由や仕事内容、職場の雰囲気等を聞くことができる就職説明会を実施しています。

5) 進路決定までの流れ

STEP1 振り返り

- ①自分を知る 小学校から高校時代までを振り返る。
(例：楽しかったこと、しんどかったこと、がんばったこと等を小・中・高ごとにまとめてみる。)

STEP2 新たな生活と、将来に向けての準備

- ①大学生活を知る
高校までの学修と何が違うのかを考える。
- ②目指す職業を知る
職業理解を深め、どのような能力が必要なのかを考える。
- ③将来の方向性を考える
「どうなりたいか」を考え、病院・施設等の研究を反復し行う。
- ④社会を知る
アルバイトを経験したり、ボランティア活動等に参加してみる。

STEP3 進路決定までの目標を立てる

- ①目標を立てる いつまでに何を、どのような能力を身につけるのか、具体的な行動計画を立てる。
(例：2年生の5月までにボランティアに参加する等)

STEP4 実践と振り返り

- ①実践する 常に目標を意識しながら、達成に向けて行動する。
- ②振り返る 過去を振り返り、達成してきたことを記録する。
また、自分がどう変わってきたのかを記録する。

STEP5 いよいよ就活へ

- ①現場を知る 年次ごとの実習の際にしっかりと見る。
その他、施設見学会に参加してみる。
- ②準備する 履歴書を書く。小論文は色々なテーマで書いてみる。
キャリアセンターで添削を受けて、納得がいくものが出来たら面接練習を受ける。

進路決定へ

1
・
2
年生

3
年生

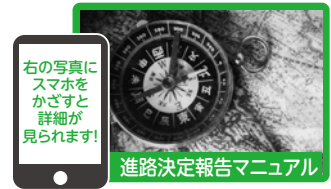
4
年生

6) 進路希望の登録

職業安定法第33条の2 および大学規定に基づき、卒業予定者（3年生）は全員、MORIPAに進路希望を登録する必要があります。

7) 進路決定の報告

進路が決定した場合は、MORIPAに決定内容を登録する必要があります。



1 森ノ宮医療学園校友会学生会員制度

本学は在学生および卒業生、教職員の相互交流・親睦を目的に校友会を組織しています。本学入学と同時に学生の皆さんは校友会会員となり、校友会からの各種支援を受けることができます。また、卒業後も同様に校友会会員としてネットワークを大いに活用し、会員同士はもとより本学並びに姉妹校である森ノ宮医療学園専門学校との交流を図る等の結びつきを深めて頂く制度です。

2 森ノ宮医療学園校友会の成立

本学には姉妹校に長い歴史を誇る森ノ宮医療学園専門学校があります。同専門学校には、在学生、卒業生、教職員で組織する森ノ宮医療学園専門学校校友会があり、創立以来、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展と地域医療に貢献すべく様々な取り組みを行ってきました。本学開学にあたり2007年より森ノ宮医療大学在学生および職員を会員に加えるべく森ノ宮医療学園校友会と名称を変更し活動しています。

3 森ノ宮医療学園校友会の取り組み

1) 校友会総会・懇親会、学術講習会を開催

校友会総会の他に、校友会が主催する懇親会・学術講習会を定期的に開催し、会員相互の親睦および技術の研鑽を図っています。


2) 校友会同窓会・クラス会の開催費補助

校友会会員が校友会同窓会やクラス会を開催した場合、開催費用の一部について補助を受けることができます。

3) 校友会鍼灸室

卒業生支援事業の一環として行われている事業で、鍼灸学科の卒業生(有資格者)に対して治療ブースを時間貸ししています。遠方からの患者さんの中間拠点、出張や往診の拠点としても利用できるほか、卒業生同士の練習場所として利用することもできます。

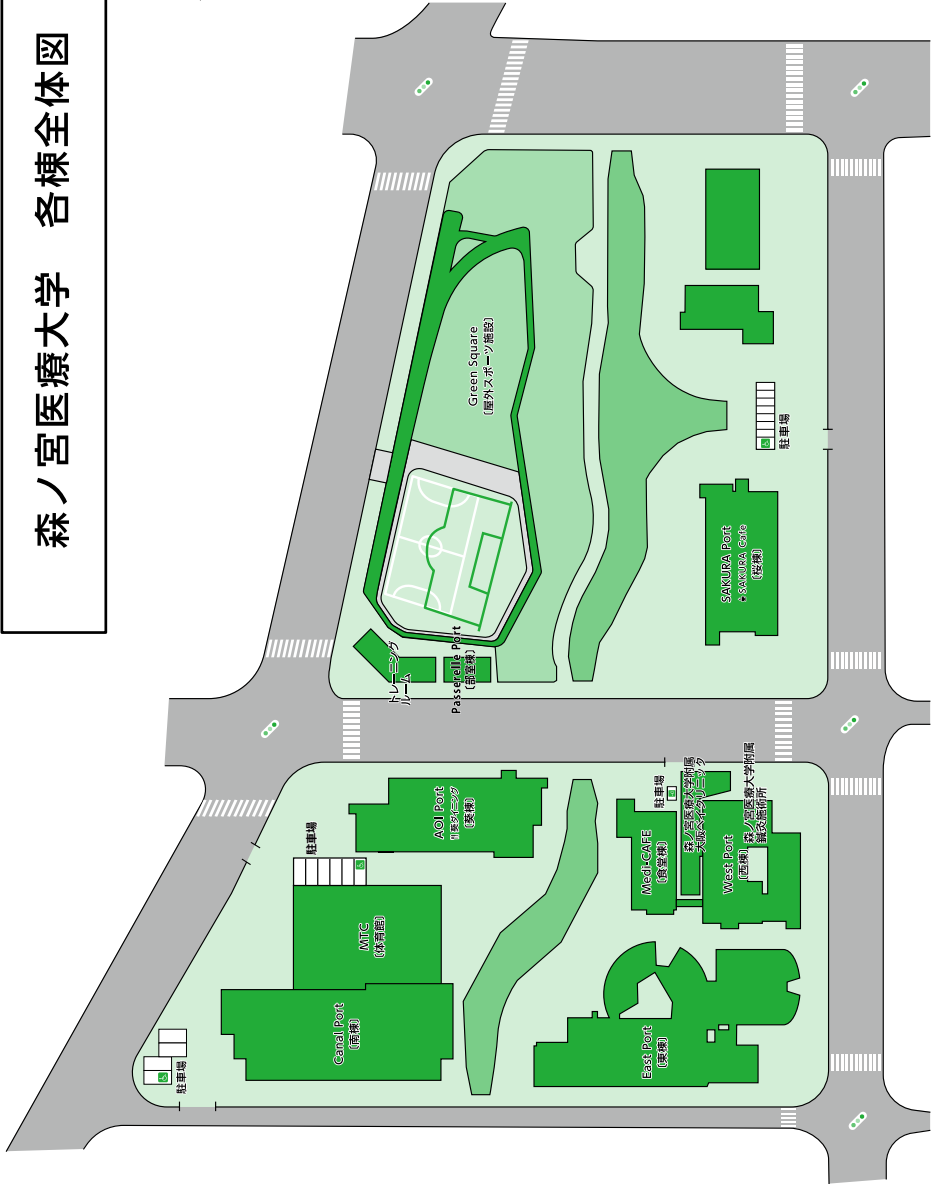
※詳しくは森ノ宮医療学園校友会ホームページを確認してください。

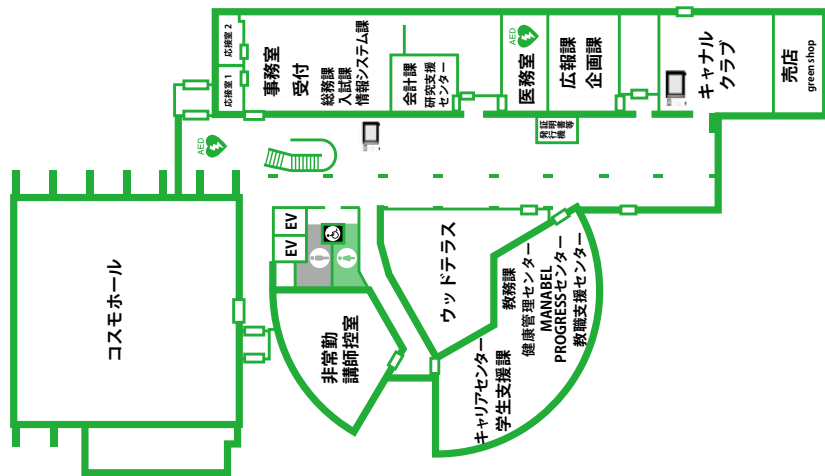
 [詳細はこちら](https://www.morinomiya-a.jp) 森ノ宮医療学園校友会ホームページ

<https://www.morinomiya-a.jp>



森ノ宮医療大学 各棟全体図

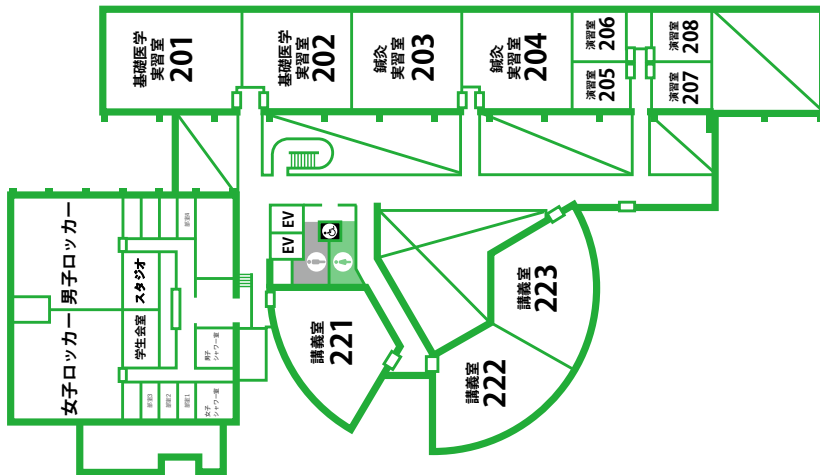




East Port (東棟)

1F

 ...AED設置場所
 ...電子レンジ設置場所

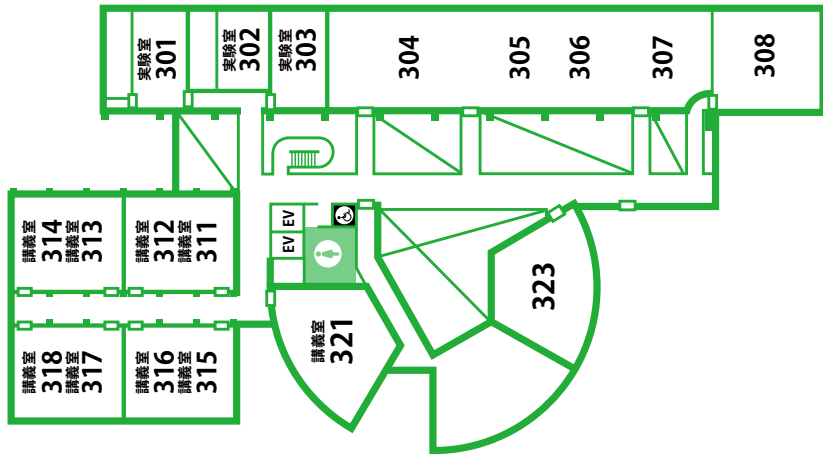


East Port (東棟)

2F

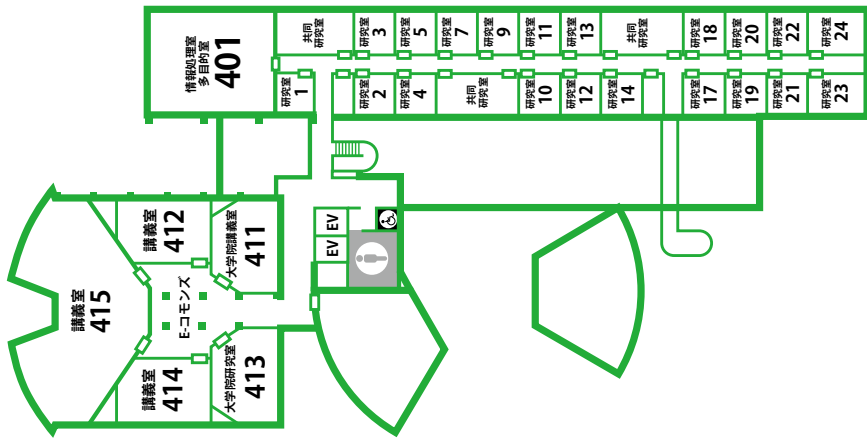
East Port (東棟)

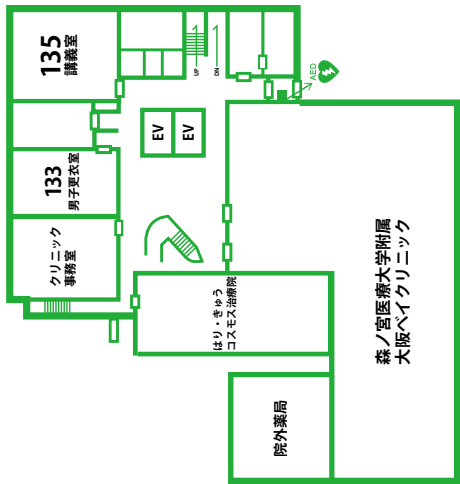
3F



East Port (東棟)

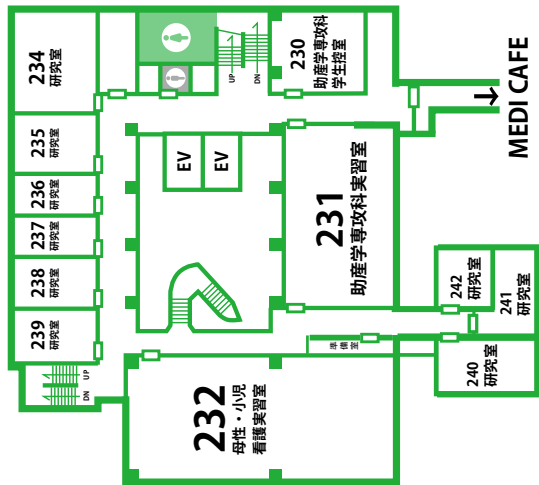
4F





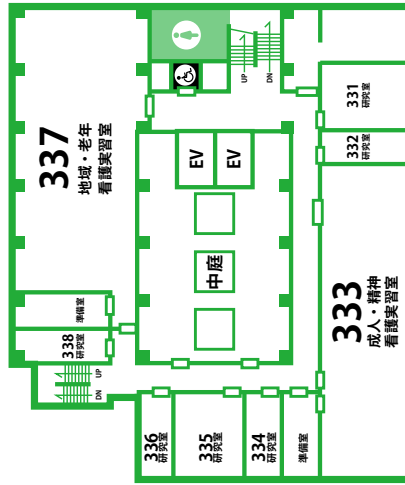
West Port (西棟) 1F

AED
AED設置場所

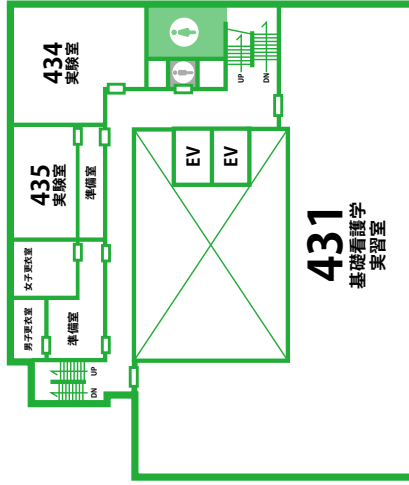


West Port (西棟) 2F

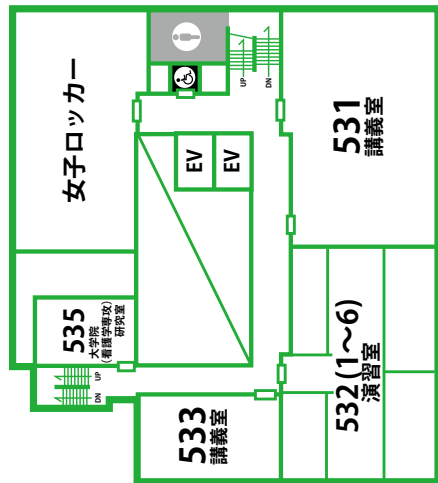
MEDI CAFE



West Port (西棟) 3F

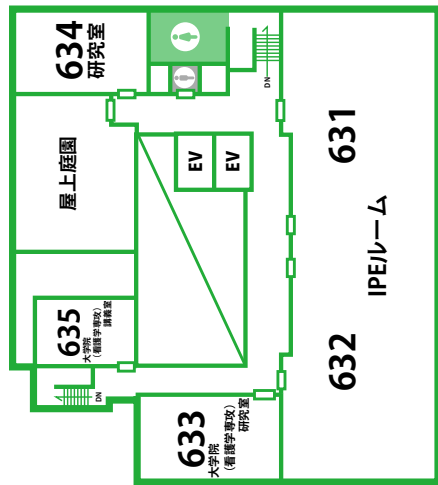


West Port (西棟) 4F



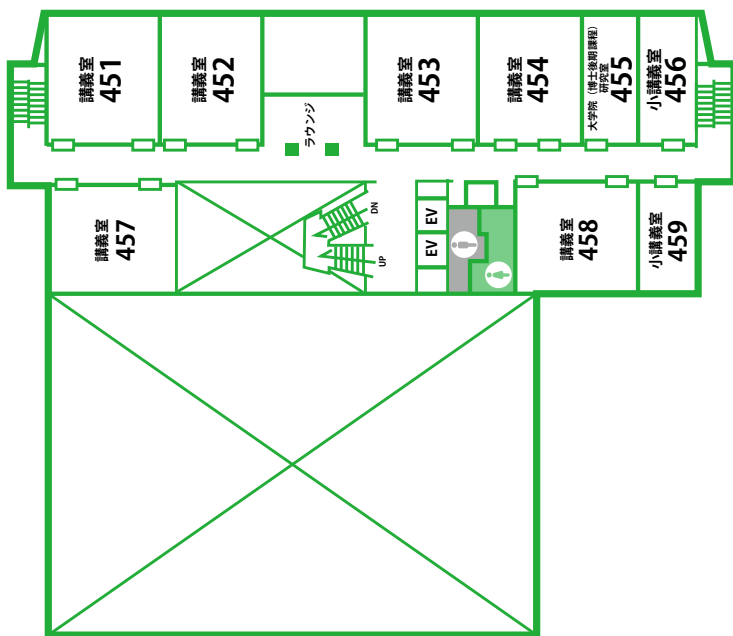
West Port (西棟)

5F

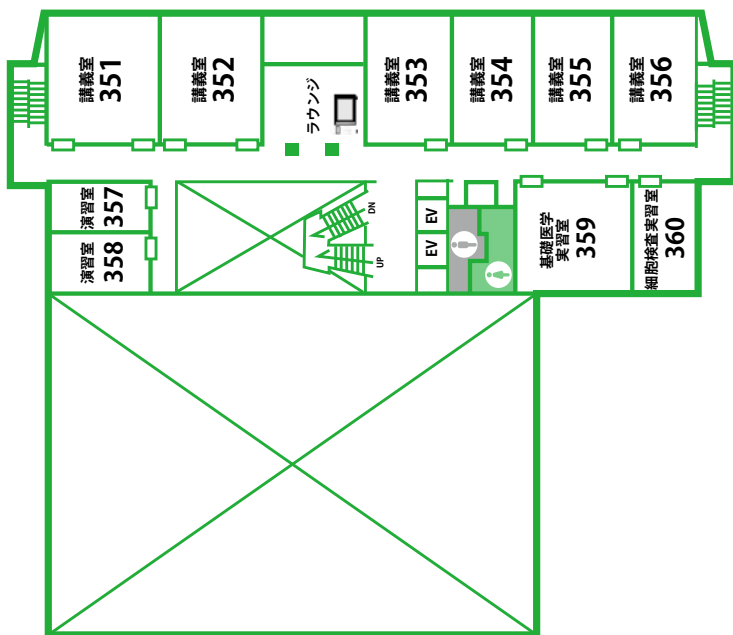


West Port (西棟)

6F

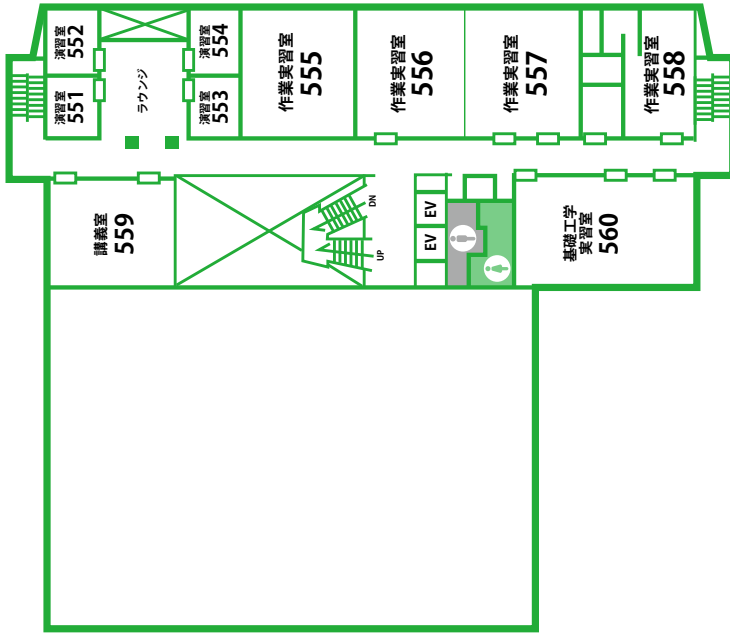


4F
Canal Port (南棟)



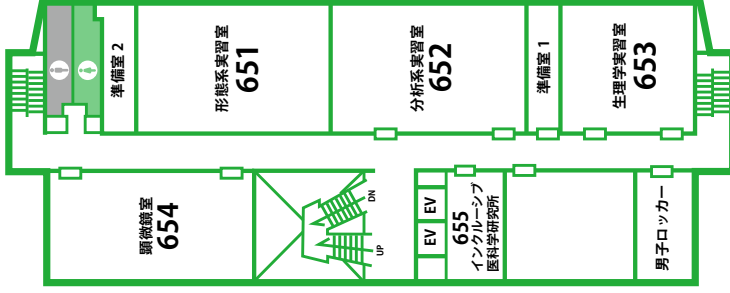
3F
Canal Port (南棟)

□ …電子レンジ設置場所



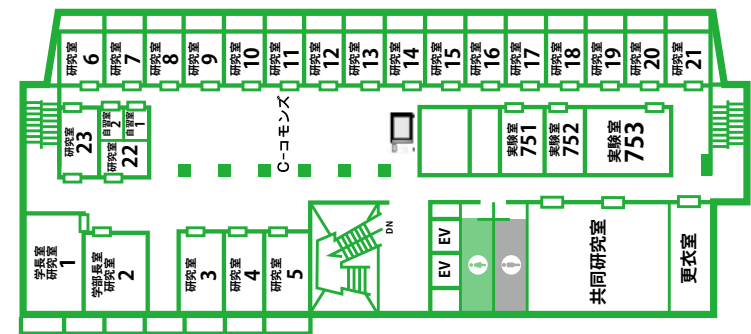
Canal Port (南棟)

5F



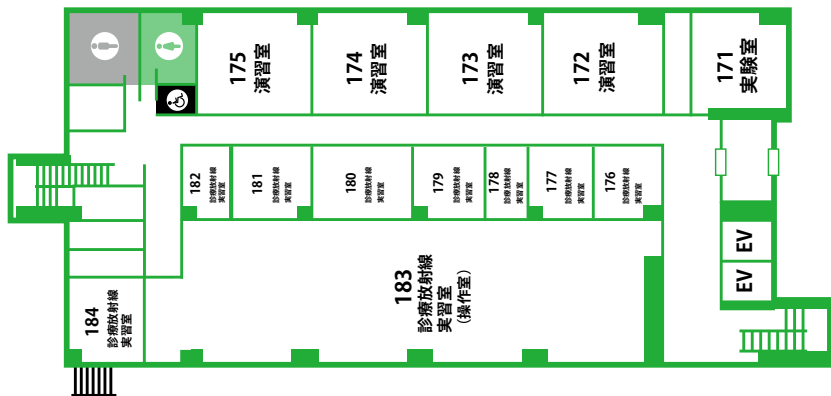
Canal Port (南棟)

6F

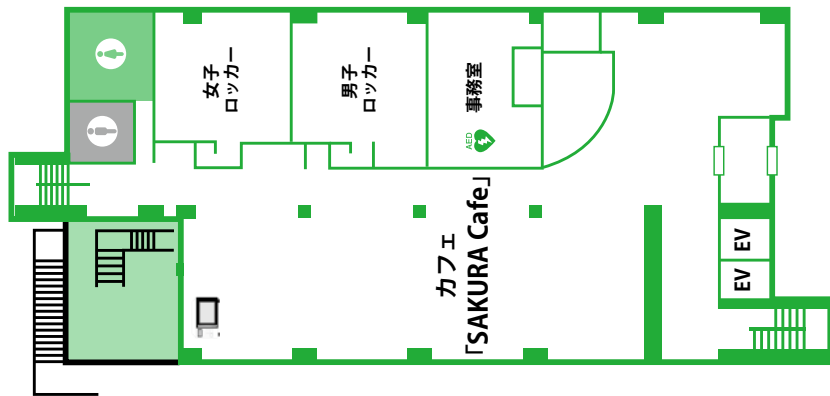


Canal Port (南棟) 7F

☐...電子レンジ設置場所



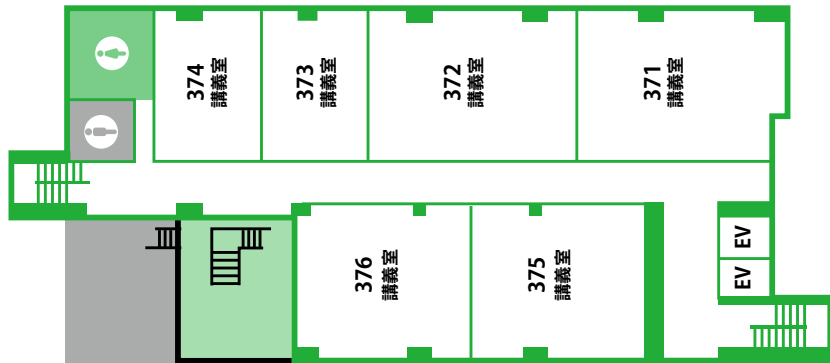
Sakura Port (桜棟) 1F



Sakura Port (桜棟)

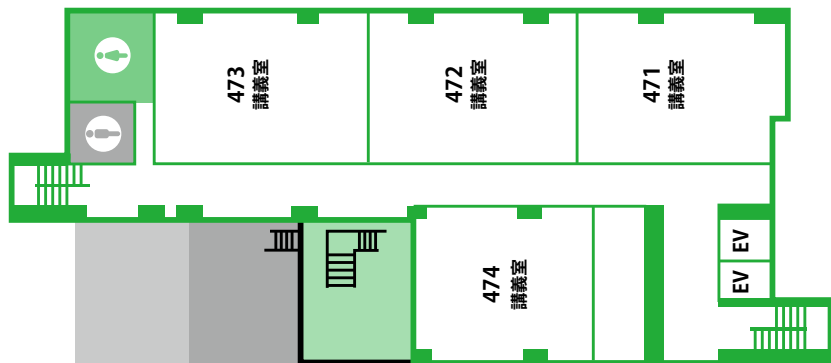
2F

 ...AED設置場所
 ...電子レンジ設置場所



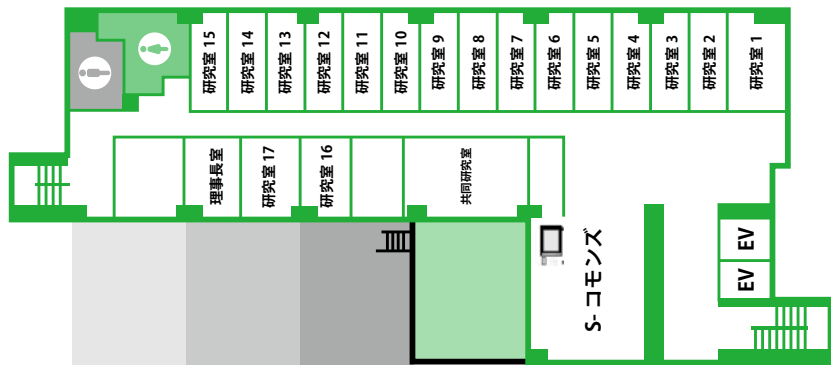
Sakura Port (桜棟)

3F



Sakura Port (桜棟)

4F

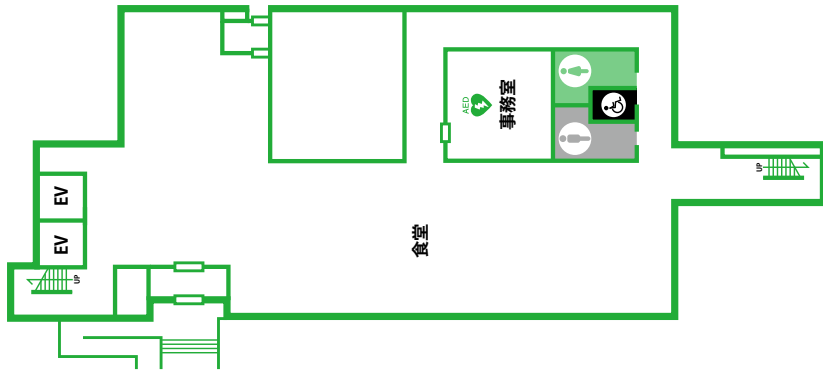


Sakura Port (桜棟)

5F

EV充電ステーション

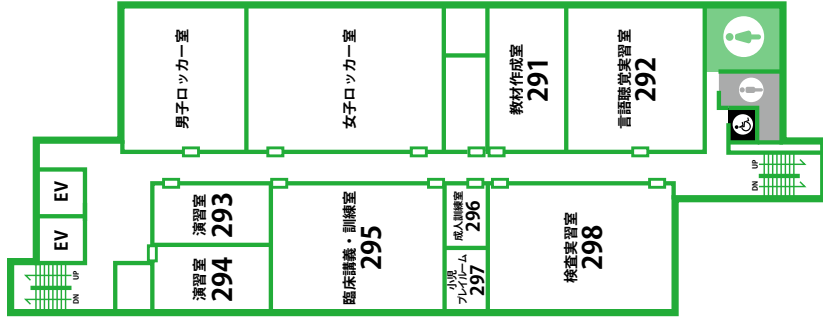
電子レンジ設置場所



Aoi Port (葵棟)

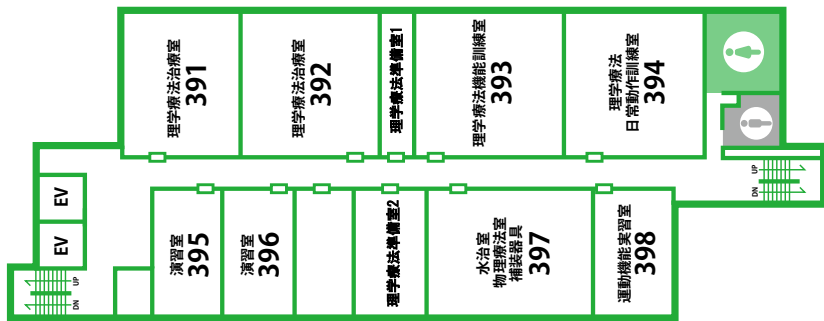
1F

AED
AED設置場所

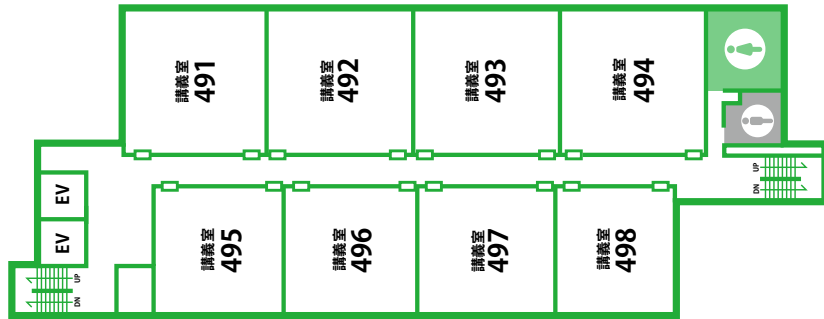


Aoi Port (葵棟)

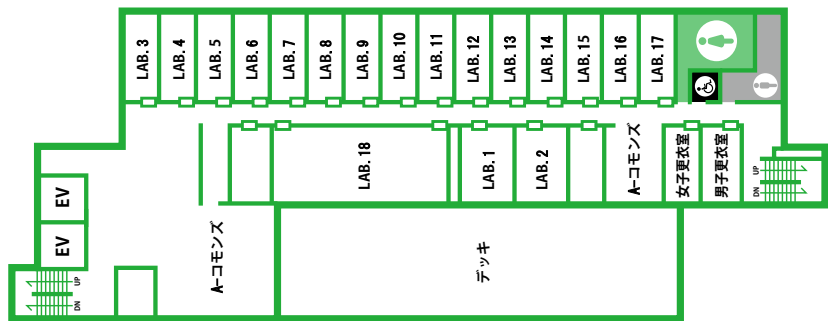
2F



Aoi Port (菱棟) 3F



Aoi Port (菱棟) 4F



Aoi Port (菱棟) 5F

担当窓口案内

担当窓口	取扱内容	記載場所
会計課	学内電子マネー	Ⅲ-2
	学納金関係（納入期限・納入方法）	Ⅸ
学生支援課	学割証（割引乗車券）	Ⅲ-3
	各種証明書（手続き・届出等）	Ⅲ-5
	学内施設・学外連携施設・設備の利用	Ⅻ-5～10
	学生相談（大学生活全般）	X-1
	ボランティア情報（自治体など）について	X-1
	学内での紛失物・拾得物	X-12
	下宿先の斡旋と紹介	Ⅻ-1
	課外活動（部活動・サークル活動等）	Ⅻ
キャリアセンター	奨学金関係（手続き・相談）	XV
	公欠願（就職・進学試験用）	V-2
	学生相談（進路）	X-1・XV-2
国際交流センター （企画課）	ボランティア情報（医療機関など）について	X-1
	MEEP（MORINOMIYA ENGLISH EDUCATION PROGRAM）[海外医療研修、TOEIC受験等]	
教務課	公欠願（忌引・感染症・教職課程関連・裁判員制度等）	Ⅲ-5・V-2
	授業関係（履修登録・出欠・試験・成績）	V・VI・VII
	授業関係（MORIPA）	VIII
	実習関係（実習用通学定期）	Ⅲ-3
広報課	国家試験手続き	
	オープンキャンパス運営等	
総務課	学生証再発行	Ⅲ-2
	通学証明書（通学定期）	Ⅲ-3
	学生情報変更（住所変更・電話番号変更等）	Ⅲ-5
情報システム課	MORIメール	Ⅲ-6
	MORIPAパスワード	VIII-3
入試課	入試運営について	
図書館	図書館利用案内	IV
MANABEL PROGRESS センター 	学修支援 [国家試験・教員採用試験合格サポート・入学前教育 リメディアル教育・レポートの書き方・各種資格試験講座 各種ステップアップ講座・勉強の進め方・イベント開催]	X-1
健康管理センター	定期健康診断	XI-1
	感染症対策・予防接種	XI-1
	医務室利用（急病対応・応急処置）	XI-2
	カウンセリング（健康に関すること・悩み・ストレス等の相談）	XI-2
	学生保険「Will 3DX」手続き	XI-3

※詳細は各ページで確認して下さい。

※各種問い合わせは担当窓口で行って下さい。

※窓口時間は、月～金曜日（閉館日を除く）9：00～18：00です。 厳守してください。




メール問い合わせ窓口一覧

奨学金、進路、履修登録等の事務手続きにおける相談や不明点等については、各窓口で直接相談することも可能ですが、メールでの質問も受け付けています。以下の問い合わせルールを守った上で、ご利用ください。

また、返信には1～2日要するため、急を要する相談については直接各窓口までお越しください。

【メール問い合わせルール】

- ① メールでの質問は、「Ⅲ. 大学生生活の必要事項」の「6. MORIメールとMicrosoft365について」に記載の大学が発行するメールアドレス「MORIメール（学籍番号@s.morinomiya-u.ac.jp）」のみ受け付けます。それ以外のメールには返信しませんので注意してください。
- ② 以下の内容を必ずメールに記載してください。
 - ・「件名」に学籍番号、氏名、用件を記載すること
 - ・本文に相談内容を記載し、「本文の最後」に署名（所属学科、学年、氏名）を記載すること
- ③ 事前に、問い合わせをする以下のメールアドレスからのメールを受信できるようにしておいて下さい。
- ④ メールへの返信は、月～金曜日（閉館日を除く）9：00～18：00に行います。返信に1～2日要します。

窓口	メールアドレス
教務課	kyoumu-support@morinomiya-u.ac.jp 
学生支援課	gakusei@morinomiya-u.ac.jp 
キャリアセンター	career@morinomiya-u.ac.jp 
健康管理センター（カウンセリング予約のみ） ※カウンセリング予約専用メールですので、メールでのお悩み相談や事務手続きに関する相談・問い合わせは受け付けていません。	kenkoukanri@morinomiya-u.ac.jp <カウンセリング申込方法> 【件名】学生相談申込み 【本文】①氏名 ②学籍番号 ③連絡先（電話番号・メールアドレス） ④カウンセリング希望日時（第3希望まで記入） ※申し込みをしてから2～3日後の返信となる場合があります。

※メール送信後2日（土日祝を除く）を経過しても大学からの返信が無い場合は、送信元・送信先のメールアドレスが間違っていないか、受信設定をしているか等を確認した上で、平日（閉館日を除く）9：00～18：00に大学代表電話（06-6616-6911）まで問い合わせるか直接各窓口までお越しください。

